

壱岐市
子ども・子育て支援事業計画に係る
アンケート調査
結果報告書

令和6年3月

壱岐市

目次

第1章 調査の概要.....	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の実施要領	3
3. 調査結果利用上の注意.....	3
第2章 未就学児・就学児保護者調査結果	5
1. お住まいの地域について	7
2. お子さんのご家族の状況について.....	8
3. 子どもの育ちをめぐる環境について	11
4. お子さんの保護者の就労状況について.....	17
5. お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	24
6. 地域の子育て支援事業の利用状況について	31
7. 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について	36
8. 病気の際の対応について	40
9. 保育所などの一時的な利用や、宿泊を伴う一時預かりなどの利用について	46
10. 小学校就学後の放課後の過ごし方について.....	51
11. 育児休業など職場の両立支援制度について.....	61
12. 子育てに関する悩みなどについて	78
13. 家庭での子育て、家庭と就労の両立について	81
14. 子育て支援策について	84

15. 子育てのしやすさ満足度などについて	86
第3章 事業所者調査結果	89
1. 事業の実施について	91

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

壱岐市では新たな計画の策定に向け、こどもや子育て世帯等の生活実態や動向、現状の分析と課題等の把握・整理、幼児教育・保育に携わる事業所の意見等を把握し、「壱岐市こども計画」の策定に反映することを目的として、ニーズ調査を実施しました。

2. 調査の実施要領

■未就学児・就学児の保護者

調査時期	令和6年2月			
調査対象者	壱岐市在住の未就学児・就学児の保護者			
調査方法	未就学児	郵送による 配布・回収	就学児	学校配布 郵送による回収
配布数		707件		933件
有効回収数		299件		587件
有効回答率		42.3%		62.9%

■事業所

調査時期	令和6年2月		
調査対象者	壱岐市内にある事業所		
調査方法	郵送による配布・回収		
配布数	有効回収数	有効回答率	
19件	17件	89.5%	

3. 調査結果利用上の注意

- ・各設問のnは、回答者数を表しています。
- ・回答率は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
- ・2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、選択肢ごとの割合を合計すると100%を超える場合があります。
- ・回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、図表には「0.0」と表記しています。
- ・数表・図表は、スペースの都合上、文言等を省略している場合があります。

第2章 未就学児・就学児保護者調査結果

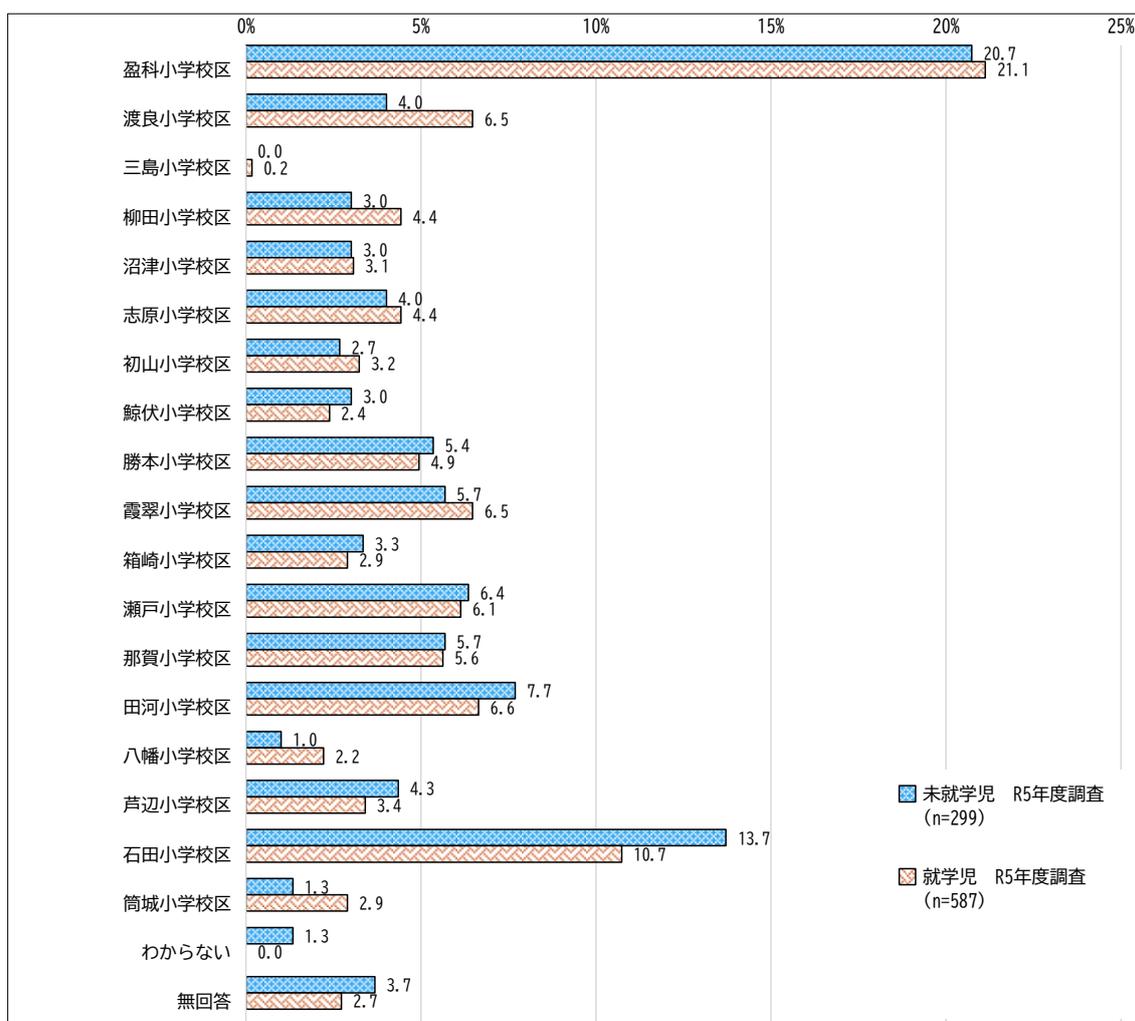
調査結果については、未就学児向け調査票の問番号の順に記載しており、その中に就学児向け調査にある同一設問の結果を併記しております。就学児向け調査のみの設問については、別途記載をしています。

1. お住まいの地域について

問1 お住まいの地区は次のうちどちらですか。(単数回答)

○未就学児及び就学児ともに「盈科小学校区」(未就学児：20.7%、就学児：21.1%)が最も高く、次いで「石田小学校区」(未就学児：13.7%、就学児：10.7%)となっています。

【お住まいの地域】



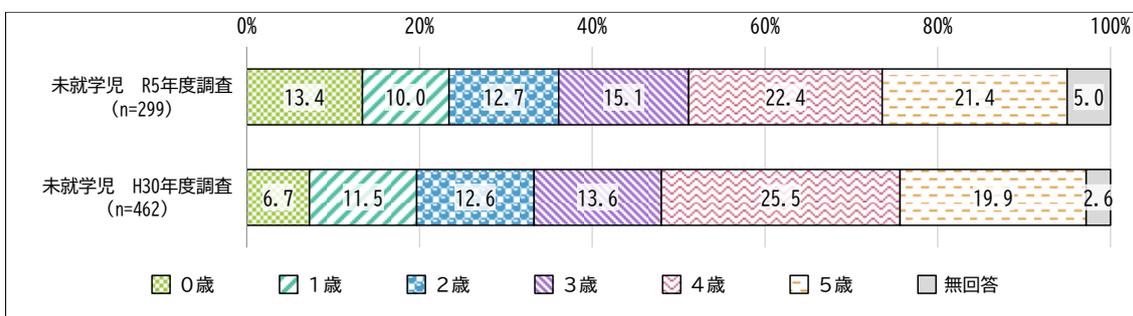
2. お子さんのご家族の状況について

問2 宛名のお子さんの生年月をご記入ください。

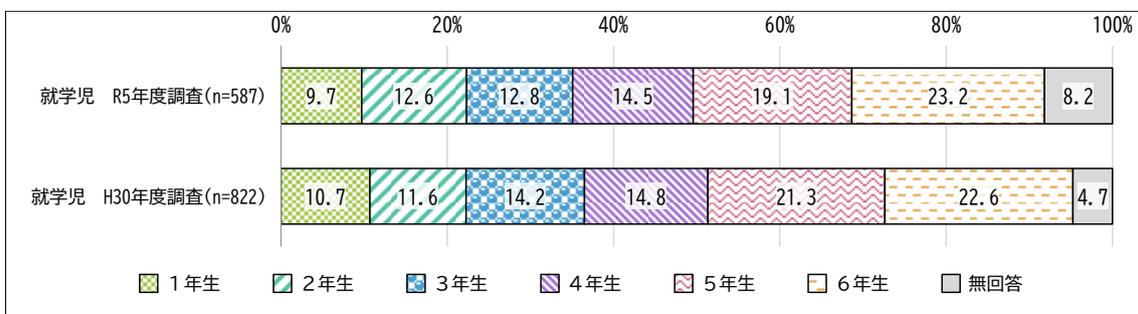
○未就学児の年齢については、「4歳」が22.4%と最も高く、次いで「5歳」21.4%、「3歳」15.1%となっています。

○就学児の学年については、「6年生」が23.2%と最も高く、次いで「5年生」19.1%、「4年生」14.5%となっています。

【お子さんの年齢（未就学児）】

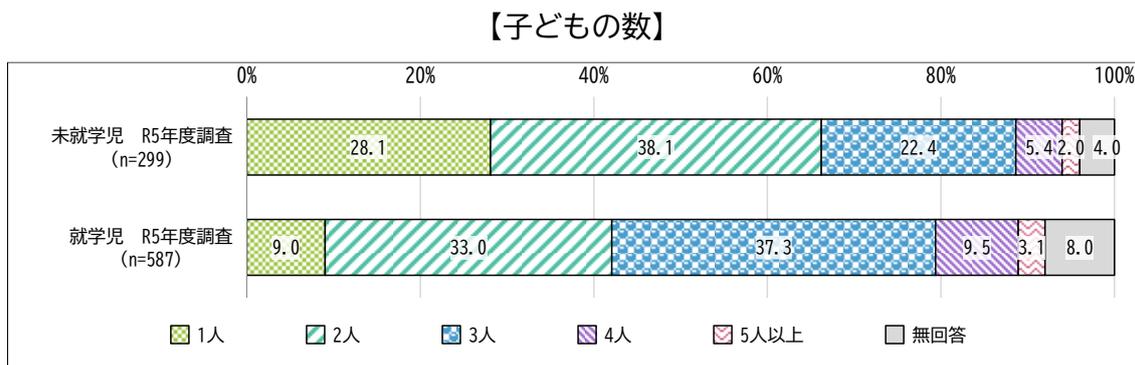


【お子さんの学年（就学児）】



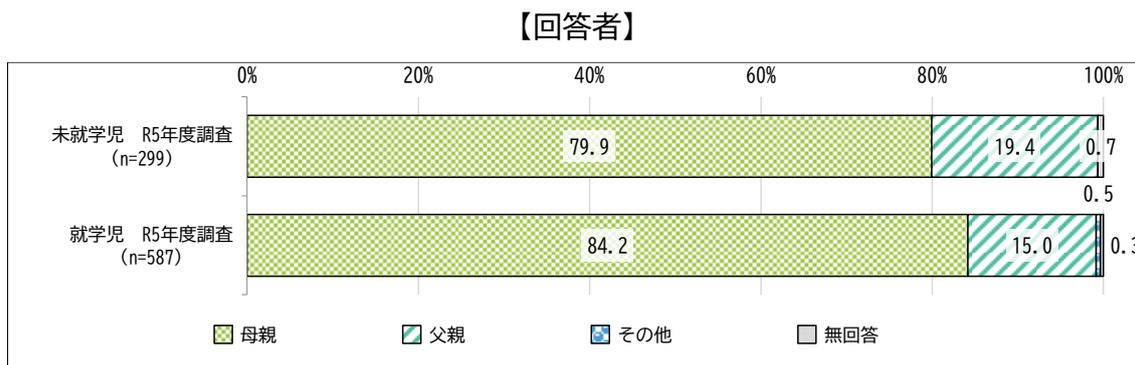
問3 宛名のお子さんを含めた子どもの数は何人ですか。

- 未就学児では「2人」が38.1%と最も高く、次いで「1人」28.1%、「3人」22.4%となっています。
- 就学児では「3人」が37.3%と最も高く、次いで「2人」33.0%、「4人」9.5%となっています。



問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。(単数回答)

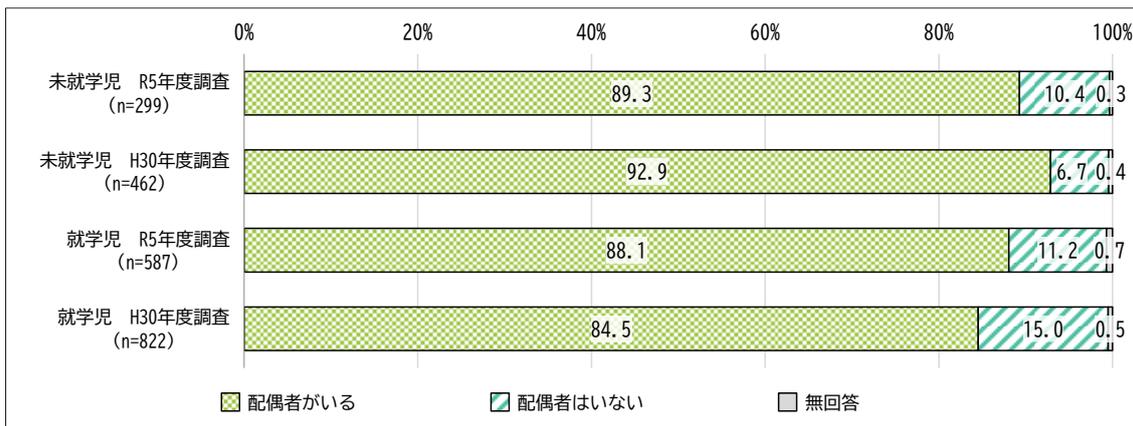
- 未就学児及び就学児ともに「母親」(未就学児：79.9%、就学児：84.2%)が8割前後、「父親」(未就学児：19.4%、就学児：15.0%)は2割弱となっています。



問5 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。
(単数回答)

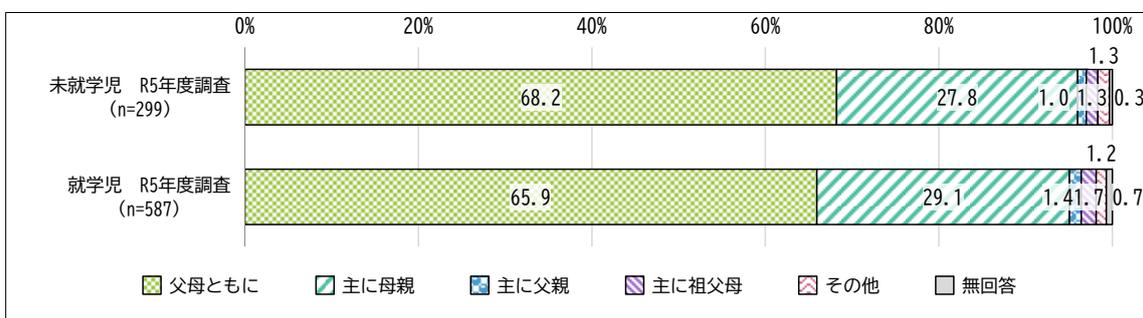
○未就学児及び就学児ともに「配偶者がいる」(未就学児：89.3%、就学児：88.1%)
が9割弱、「配偶者はいない」(未就学児：10.4%、就学児：11.2%)が1割程度
となっています。

【回答者の配偶関係】



問6 お子さんの子育て(教育を含む)を主に行っているのは、お子さんからみた関係でどなたですか。(単数回答)

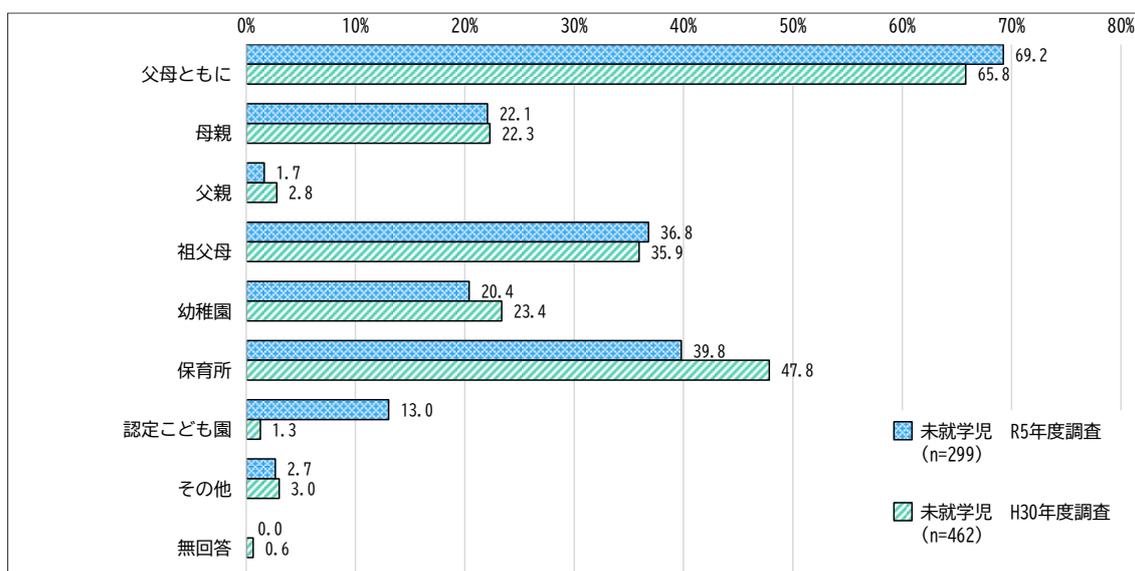
○未就学児及び就学児ともに「父母ともに」(未就学児：68.2%、就学児：65.9%)
が最も高く、次いで「主に母親」(未就学児：27.8%、就学児：29.1%)となっ
ています。



3. 子どもの育ちをめぐる環境について

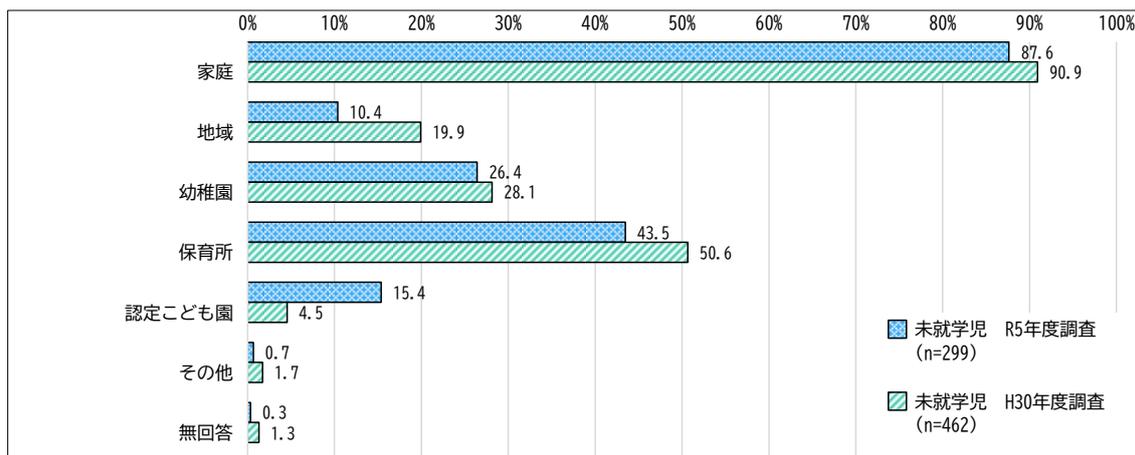
問7 お子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。お子さんから見た関係でお答えください。（複数回答）

- 「父母ともに」が69.2%と最も高く、次いで「保育所」39.8%、「祖父母」36.8%となっています。
- 前回調査との比較では、「保育所」が低く、「認定こども園」が高くなっており、10ポイント前後差が生じています。



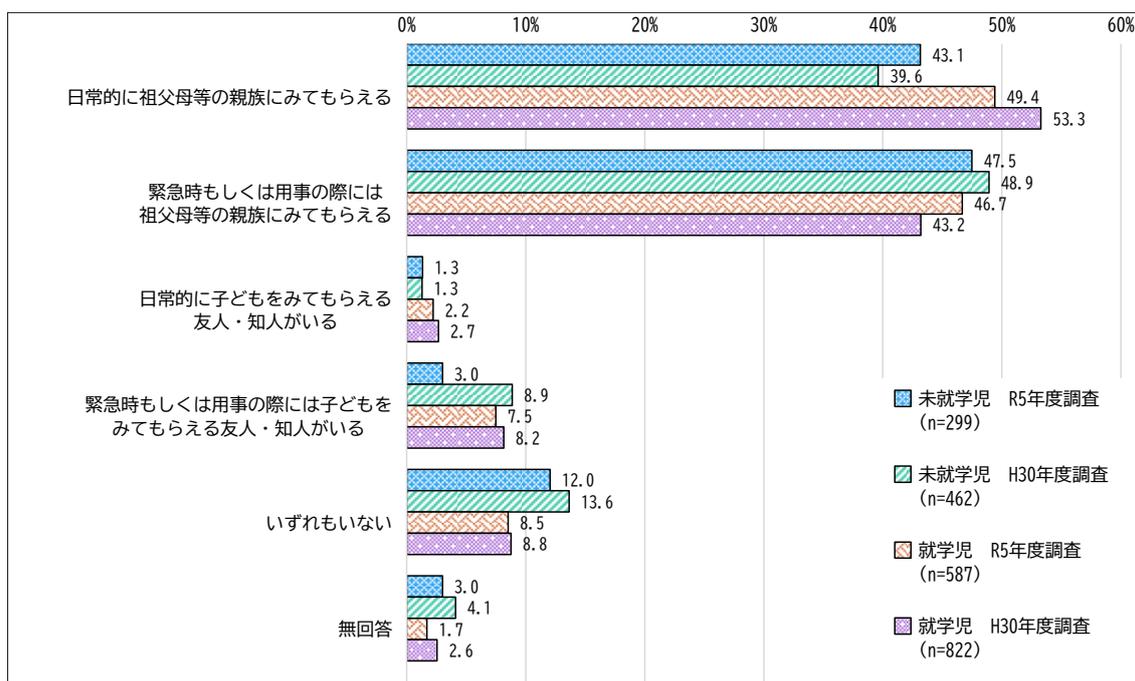
問8 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）に、もっとも影響すると思われる環境はどこですか。（複数回答）

- 「家庭」が87.6%と最も高く、次いで「保育所」43.5%、「幼稚園」26.4%となっています。
- 前回調査との比較では、「地域」が低く、「認定こども園」が高くなっており、10ポイント前後差が生じています。



問9 日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。（複数回答）

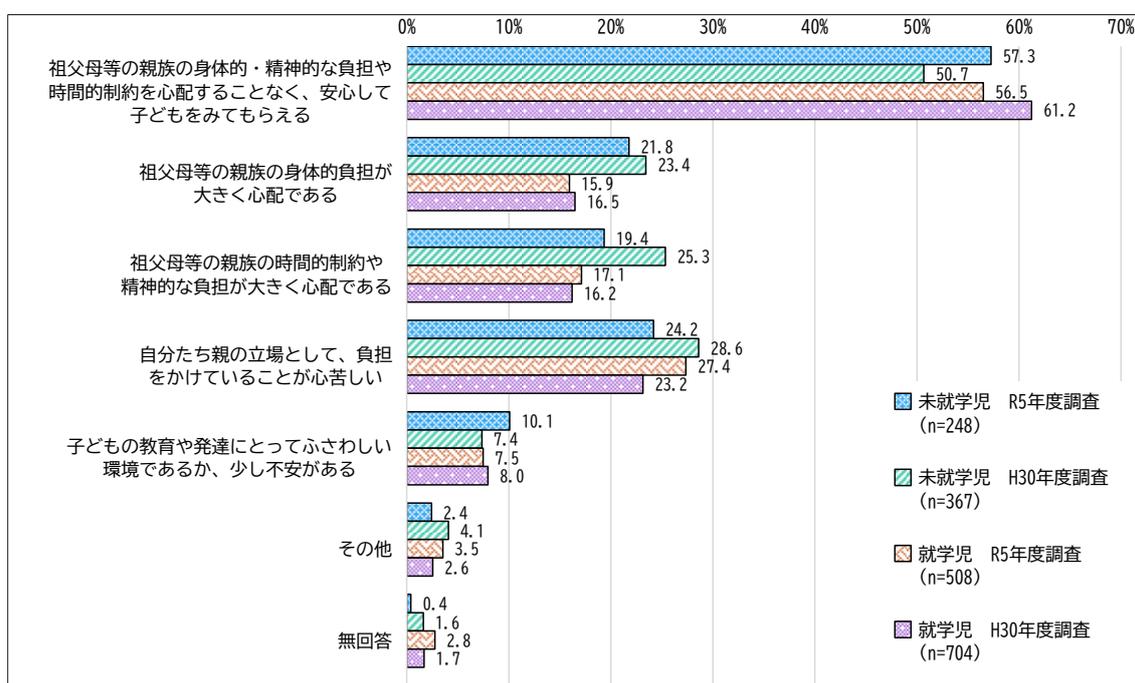
- 未就学児及び就学児ともに「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が高く、4割を超えています。



問9で「1」～「2」を回答した方のみ

問9-1 祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。
(複数回答)

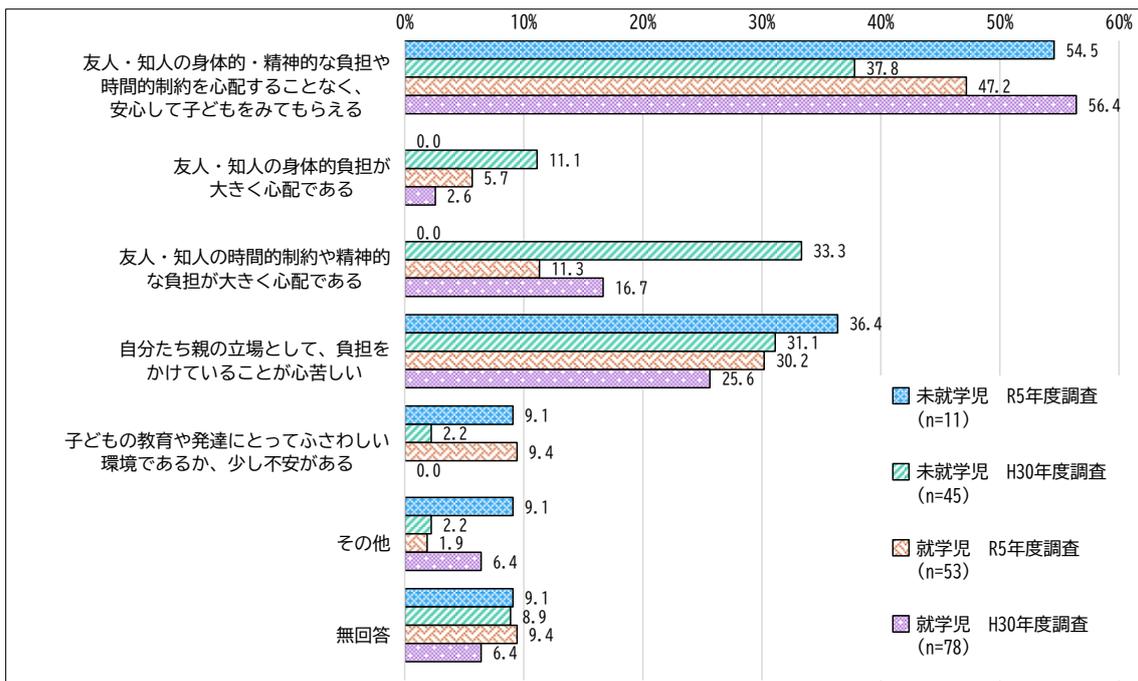
○未就学児及び就学児ともに「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」(未就学児：57.3%、就学児：56.5%)が最も高く、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(未就学児：24.2%、就学児：27.4%)となっています。



問9で「3」～「4」を回答した方のみ

問9-2 友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。
(複数回答)

- 未就学児及び就学児ともに「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」(未就学児：54.5%、就学児：47.2%)が最も高く、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(未就学児：36.4%、就学児：30.2%)となっています。
- 前回調査との比較をみると、未就学児では「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が高く、「友人・知人の身体的負担が大きく心配である」「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。また、就学児では「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が9.2ポイント低くなっています。



問10 お子さんの子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人や相談できる場所がありますか。(単数回答)

○未就学児及び就学児ともに「いる／ある」(未就学児：84.6%、就学児：88.8%)が8割を超えており、「いない／ない」(未就学児：5.0%、就学児：8.3%)は1割以下となっています。

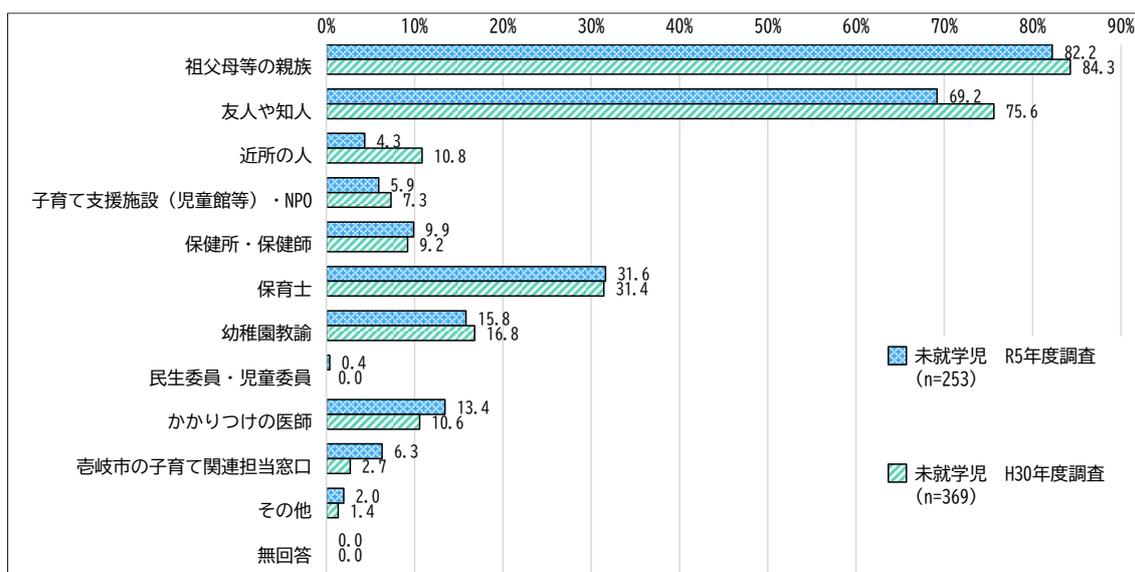


問10で「1」を回答した方のみ。

問10-1 相談できる先は誰（どこ）ですか。（複数回答）

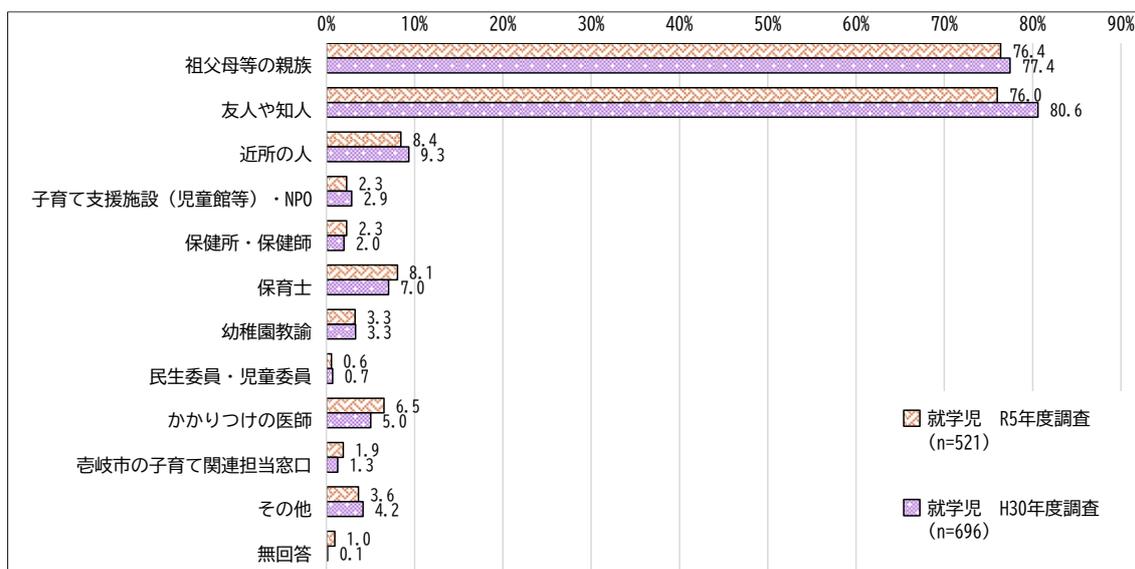
◆未就学児

○「祖父母等の親族」が82.2%と最も高く、次いで「友人や知人」69.2%、「保育士」31.6%となっています。



◆就学児

○「祖父母等の親族」「友人や知人」が7割を超えており、それ以外は1割以下となっています。

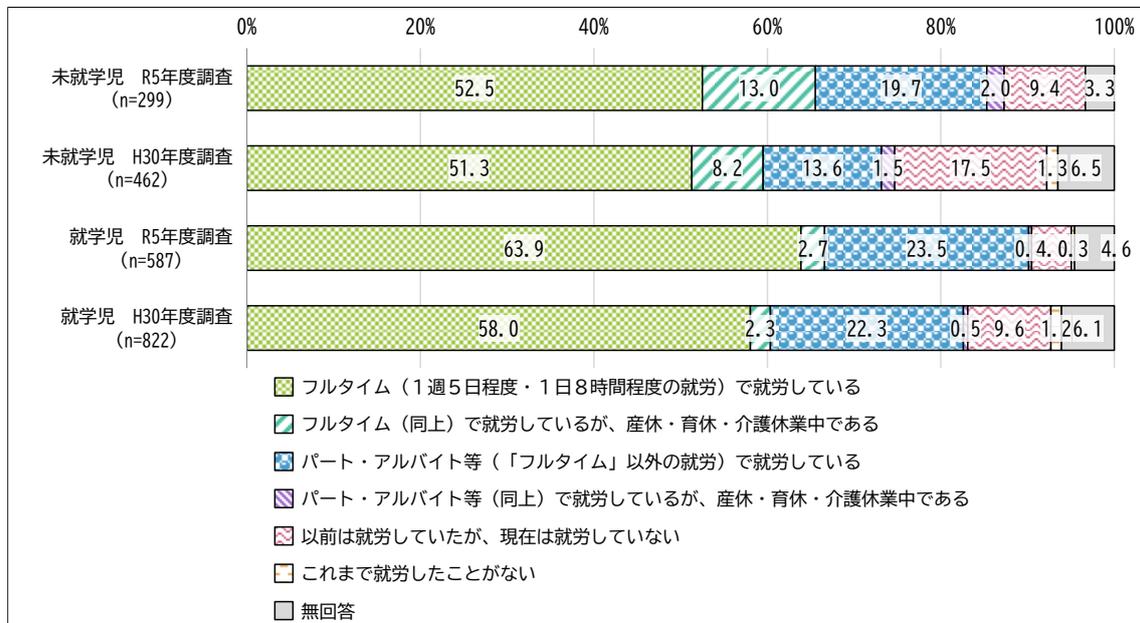


4. お子さんの保護者の就労状況について

問11 保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。

(1) 母親の就労状況

- 未就学児及び就学児ともに「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労している」（未就学児：52.5%、就学児：63.9%）が最も高く、次いで「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労している」（未就学児：19.7%、就学児：23.5%）となっています。
- 前回調査との比較をみると、未就学児では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が8.1ポイント低くなっています。

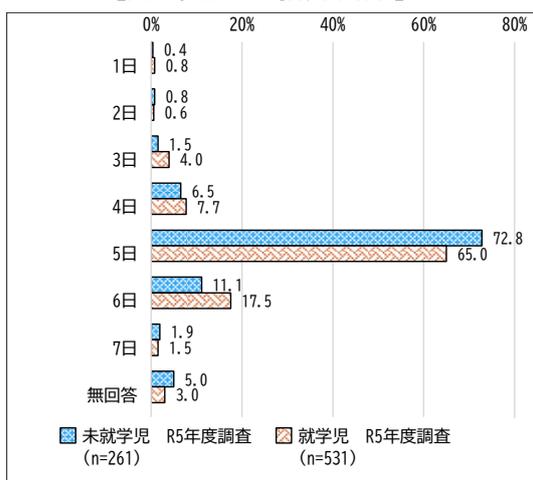


(1) で「1」～「4」(就労している)と回答した方のみ

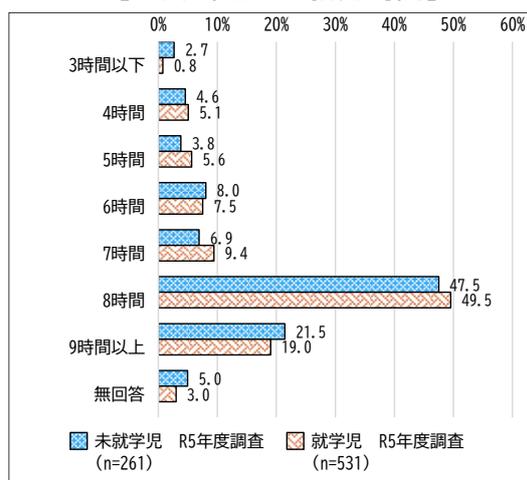
(1) 母親-1 1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間(残業時間を含む)」をお答えください。

- 1週当たりの就労日数では、未就学児及び就学児ともに「5日」が最も高く、6割を超えています。
- 1日当たりの就労時間では、未就学児及び就学児ともに「8時間」が最も高く、4割を超えています。

【週当たりの就労日数】



【1日当たりの就労時間】

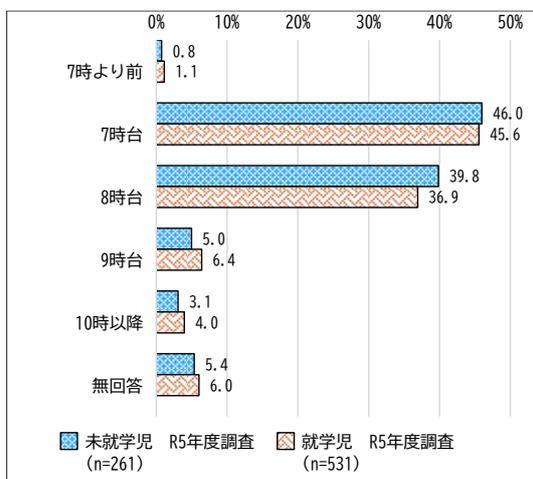


(1) で「1」～「4」(就労している)と回答した方のみ

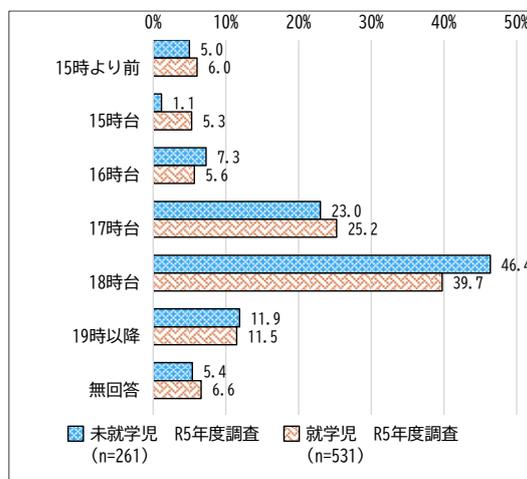
(1) 母親-2 家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。

- 家を出る時刻では、未就学児及び就学児ともに「7時台」「8時台」の割合が高く、3～4割台となっています。
- 帰宅時刻では、未就学児及び就学児ともに「18時台」が最も高く、4割前後となっています。

【家を出る時刻】

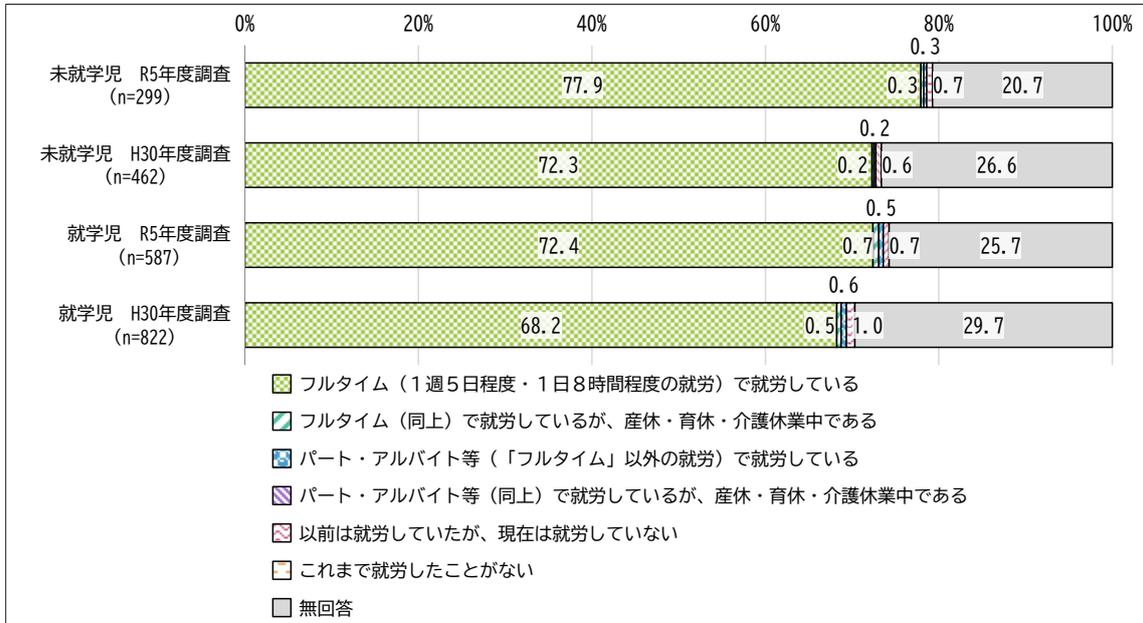


【帰宅時刻】



(2) 父親の就労状況

○未就学児及び就学児ともに「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労している」（未就学児：77.9%、就学児：72.4%）が最も高く、7割を超えています。

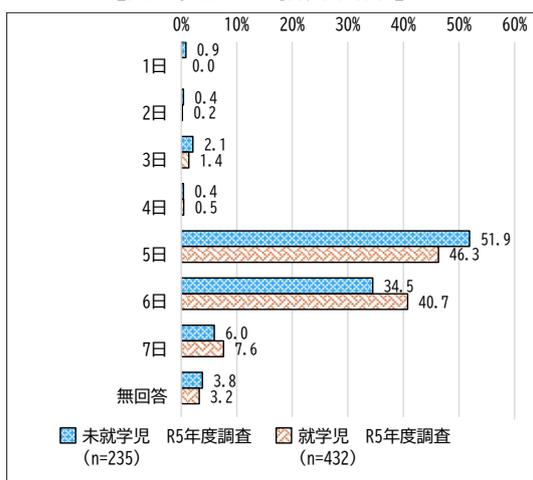


(2) で「1」～「4」(就労している)と回答した方のみ

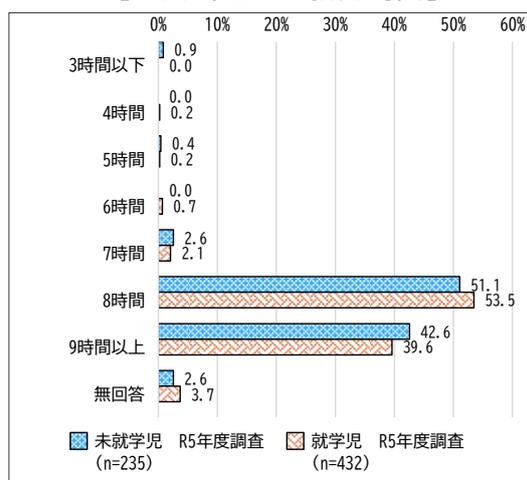
(2) 父親-1 1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間(残業時間を含む)」をお答えください。

- 1週当たりの就労日数では、未就学児及び就学児ともに「5日」「6日」の割合が高く、3～5割台となっています。
- 1日当たりの就労時間では、未就学児及び就学児ともに「8時間」「9時間以上」の割合が4割弱～5割台となっています。

【週当たりの就労日数】



【1日当たりの就労時間】

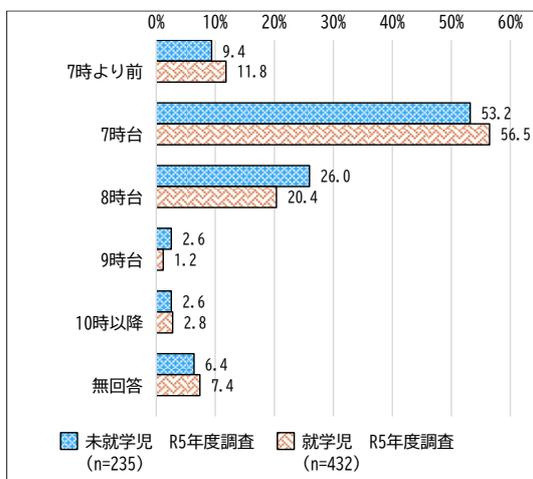


(2) で「1」～「4」(就労している)と回答した方のみ

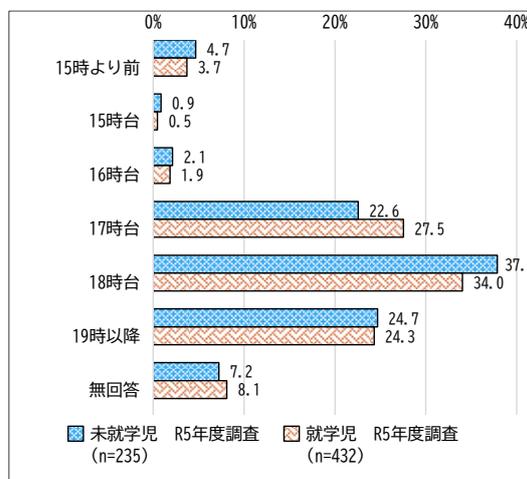
(2) 父親-2 家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。

- 家を出る時刻では、未就学児及び就学児ともに「7時台」が最も高く、5割を超えています。
- 帰宅時刻では、未就学児及び就学児ともに「18時台」が最も高く、3割を超えています。

【家を出る時刻】



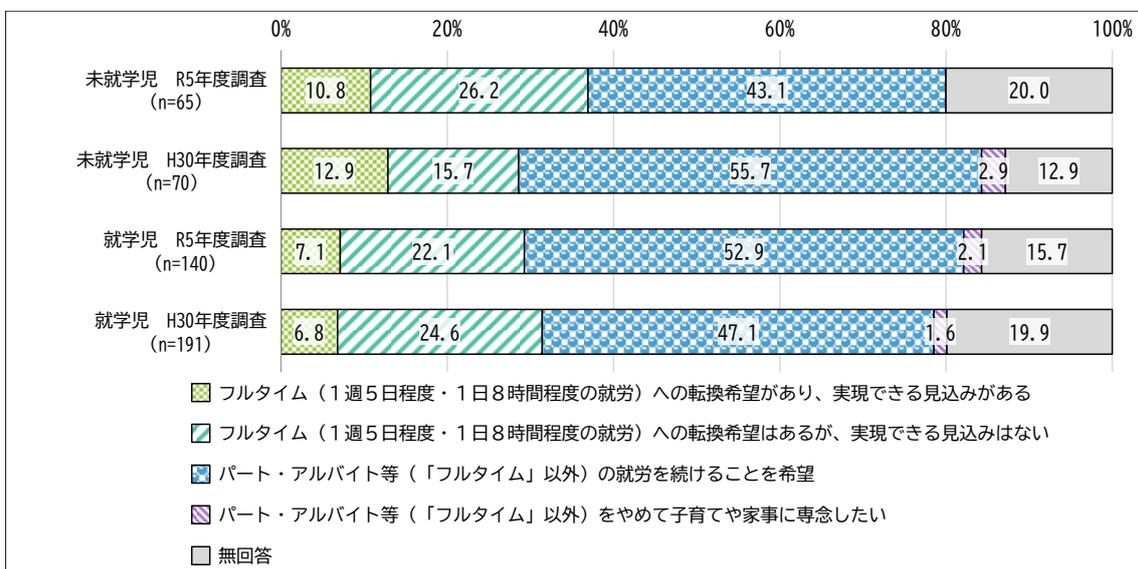
【帰宅時刻】



問12 フルタイムへの転換希望はありますか。(単数回答)

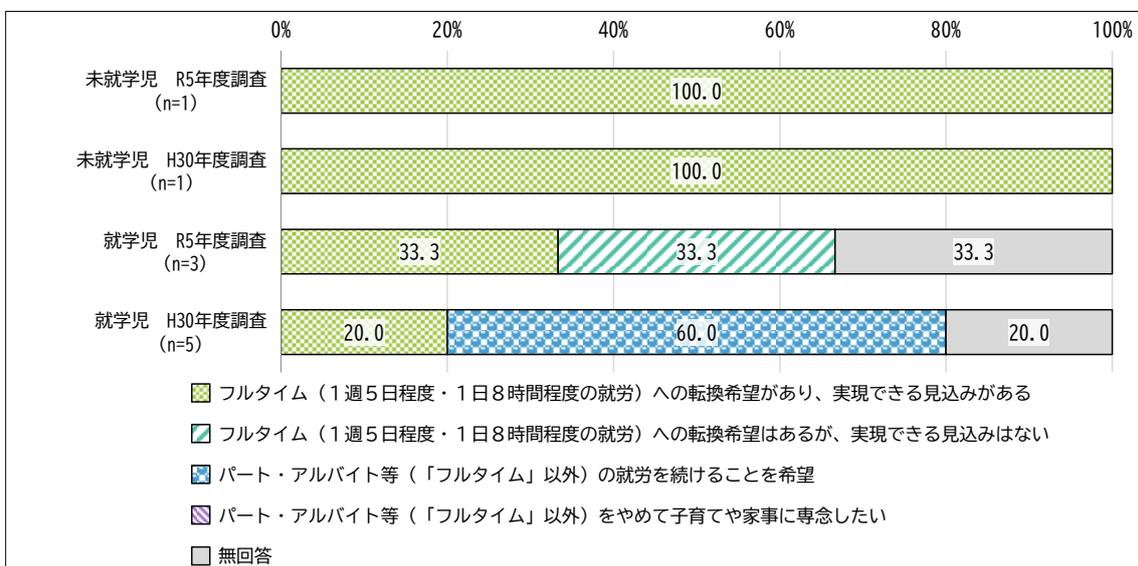
(1) 母親

- 未就学児及び就学児ともに「パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)の就労を続けることを希望」(未就学児：43.1%、就学児：52.9%)が最も高く、次いで「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望はあるが、実現できる見込みはない」(未就学児：26.2%、就学児：22.1%)となっています。
- 前回調査との比較をみると、未就学児では「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が高く、「パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)の就労を続けることを希望」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。



(2) 父親

- 父親のフルタイムへの転換希望については、サンプル数が少ないため参考程度。

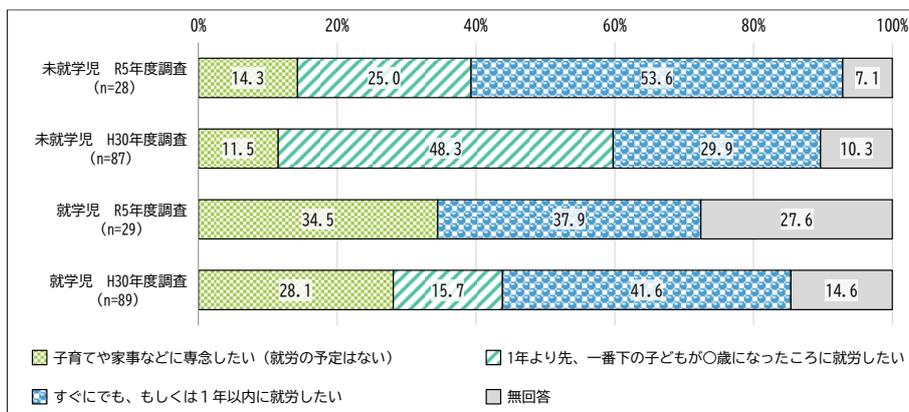


問11の(1)または(2)で「5」「6」(就労していない・就労したことがない)と回答した方のみ

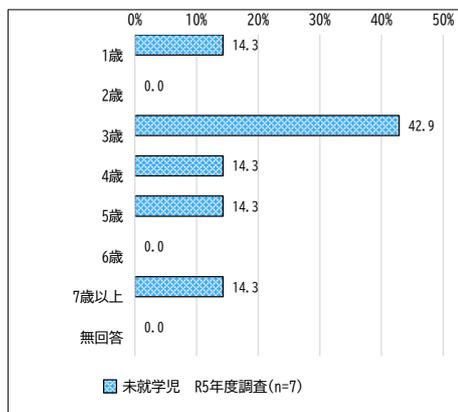
問13 就労したいという希望はありますか。(単数回答)

(1) 母親

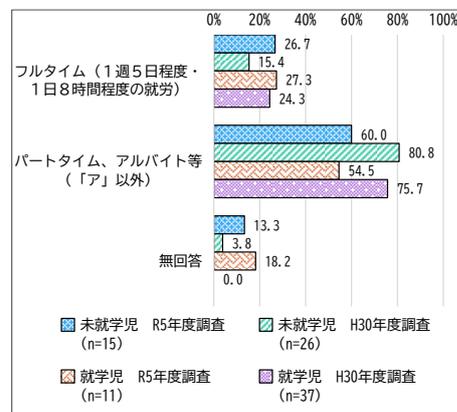
- 未就学児及び就学児ともに「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(未就学児：53.6%、就学児：37.9%)が最も高くなっています。
- 前回調査結果との比較をみると、未就学児及び就学児では「1年より先、一番下の子どもが〇歳になったところに就労したい」が15ポイント以上低くなっています。また、未就学児では「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が23.7ポイント高くなっており、前回調査と比べて迅速な就労を希望する割合が大幅に高くなっています。



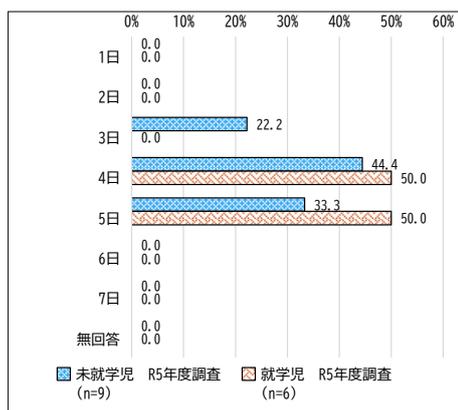
【〇歳になった頃に就労したい】



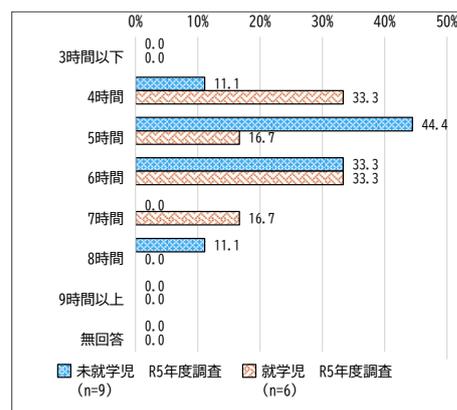
【希望する就労形態】



【希望する週当たり勤務日数】

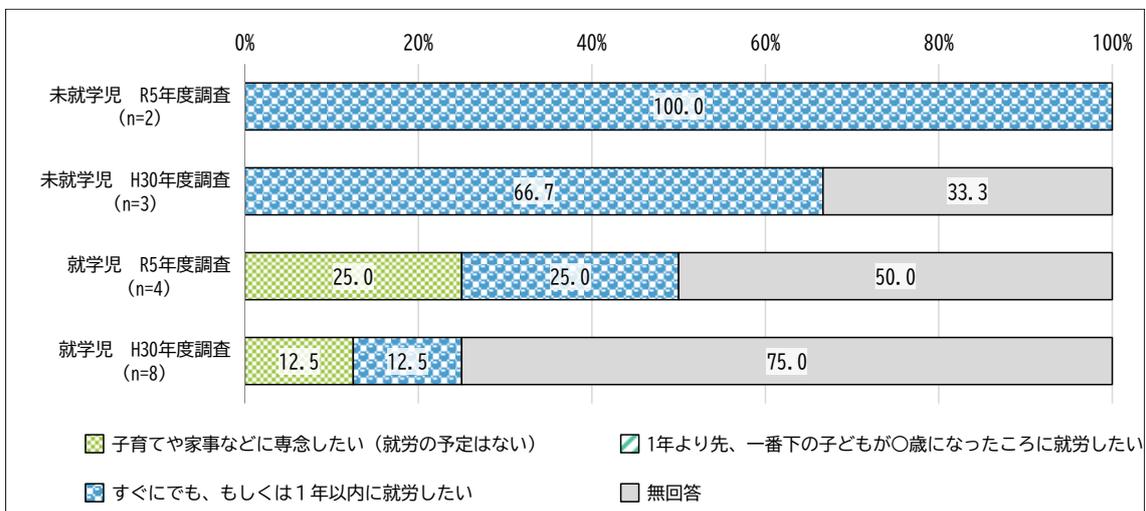


【希望する1日当たり勤務時間】

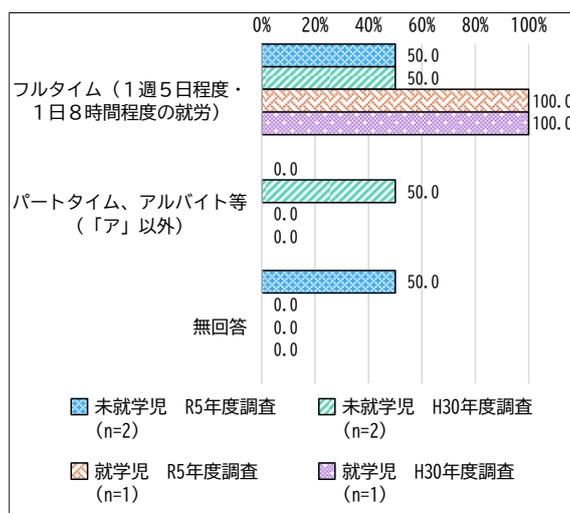


(2) 父親

○父親の就労希望については、サンプル数が少ないため参考程度。



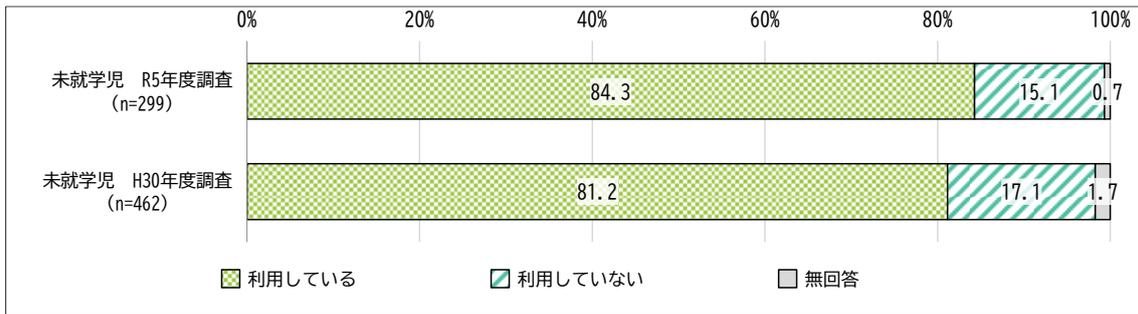
【希望する就労形態】



5. お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

問14 宛名のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。(単数回答)

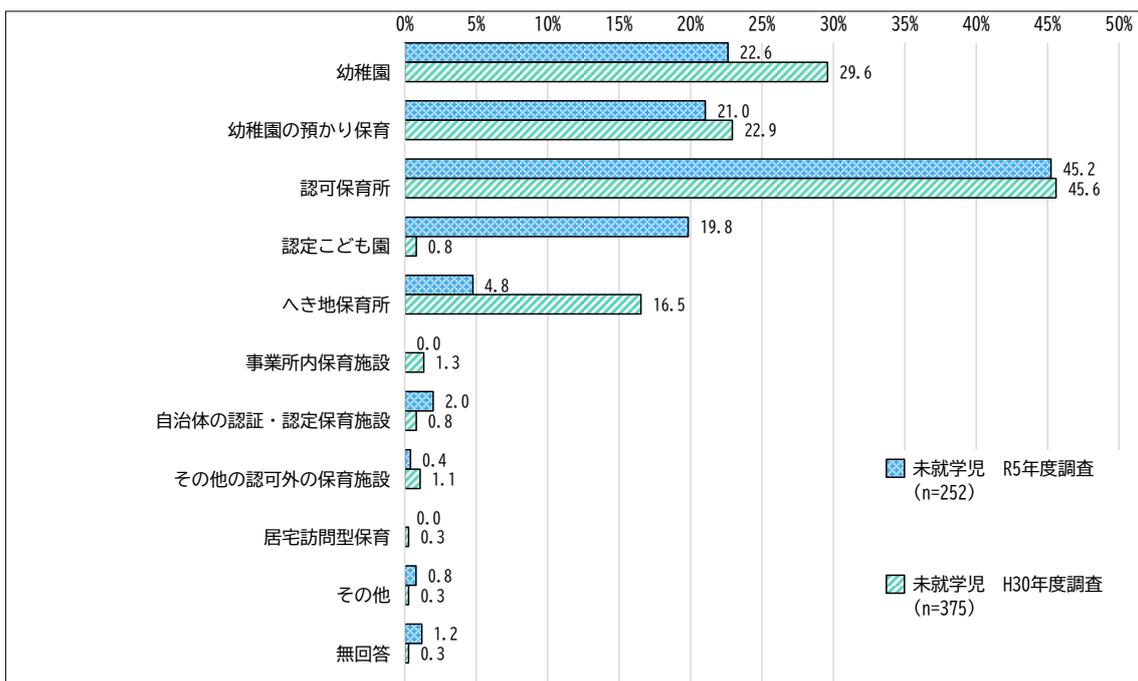
○「利用している」が84.3%、「利用していない」が15.1%となっています。



問14で「1. 利用している」を回答した方のみ

問14-1 宛名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。(複数回答)

- 「認可保育所」が45.2%と最も高く、次いで「幼稚園」22.6%、「幼稚園の預かり保育」21.0%となっています。
- 前回調査結果との比較では、「認定こども園」が19.0ポイント高く、「へき地保育所」が11.7ポイント低くなっています。

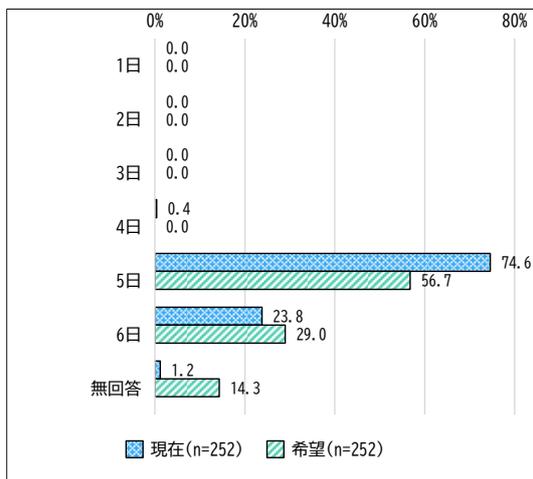


問14で「1. 利用している」を回答した方のみ

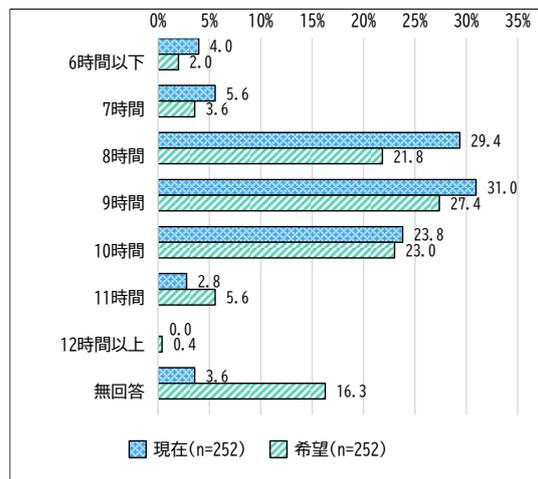
問14-2 平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、どのくらい利用していますか。また、理想としてはどのくらい利用したいですか。

- 週当たりの利用日数では、現在及び希望ともに「5日」が最も高く、5割を超えています。
- 1日当たりの利用時間では、現在及び希望ともに「8時間」～「10時間」の割合が2～3割台となっています。
- 利用開始時刻では、現在及び希望ともに「8時」が最も高く、6割を超えています。
- 現在の利用終了時刻では「17時」が37.7%、希望する利用終了時刻では「18時以降」が37.1%と最も高くなっています。

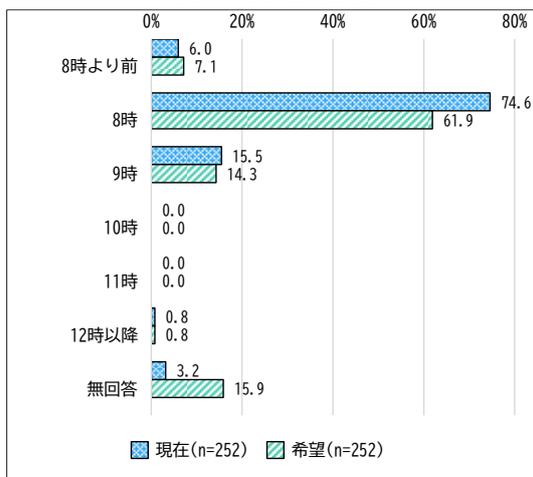
【週当たり利用日数】



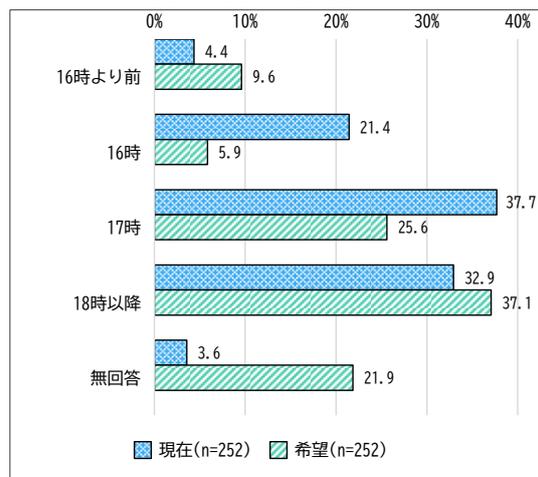
【1日当たり利用時間】



【利用開始時刻】



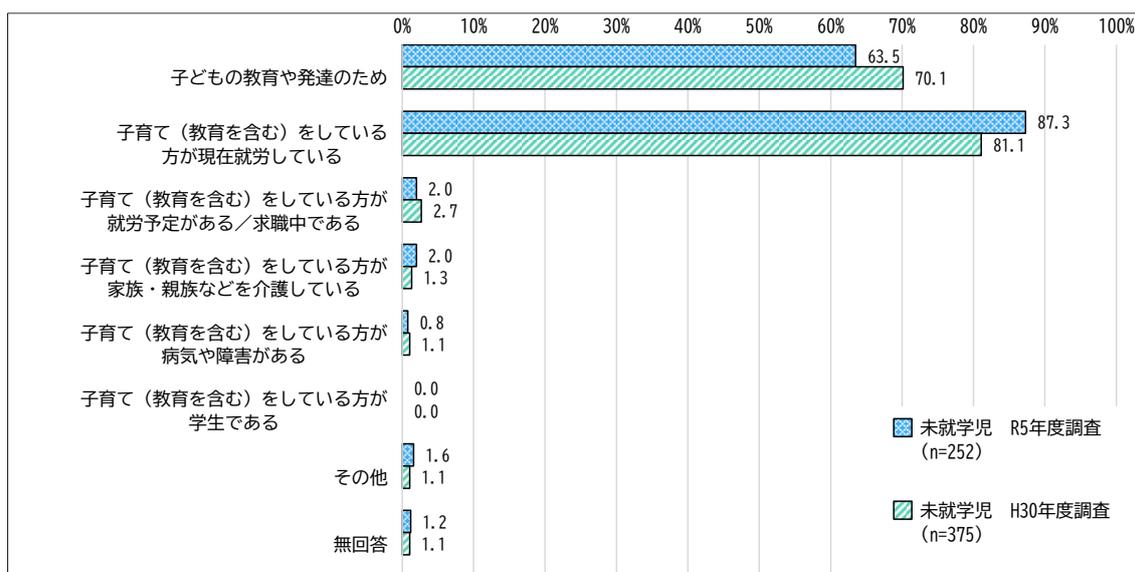
【利用終了時刻】



問14で「1. 利用している」を回答した方のみ

問14-3 平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由についてお答えください。(複数回答)

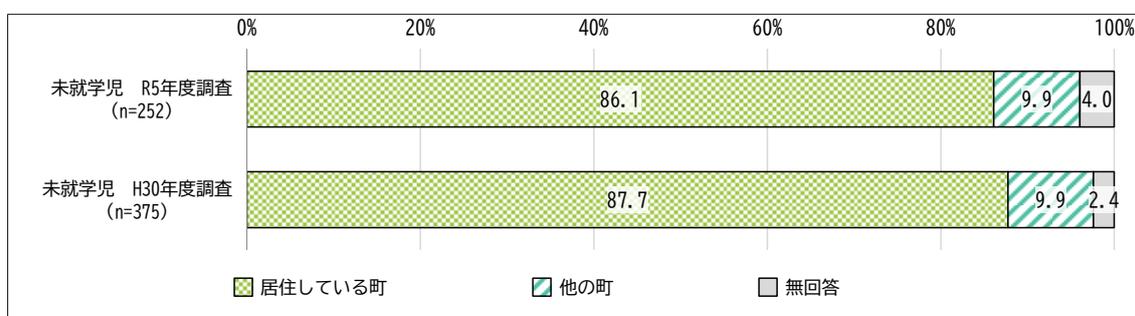
○「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」が87.3%と最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」63.5%となっています。



問14で「1. 利用している」を回答した方のみ

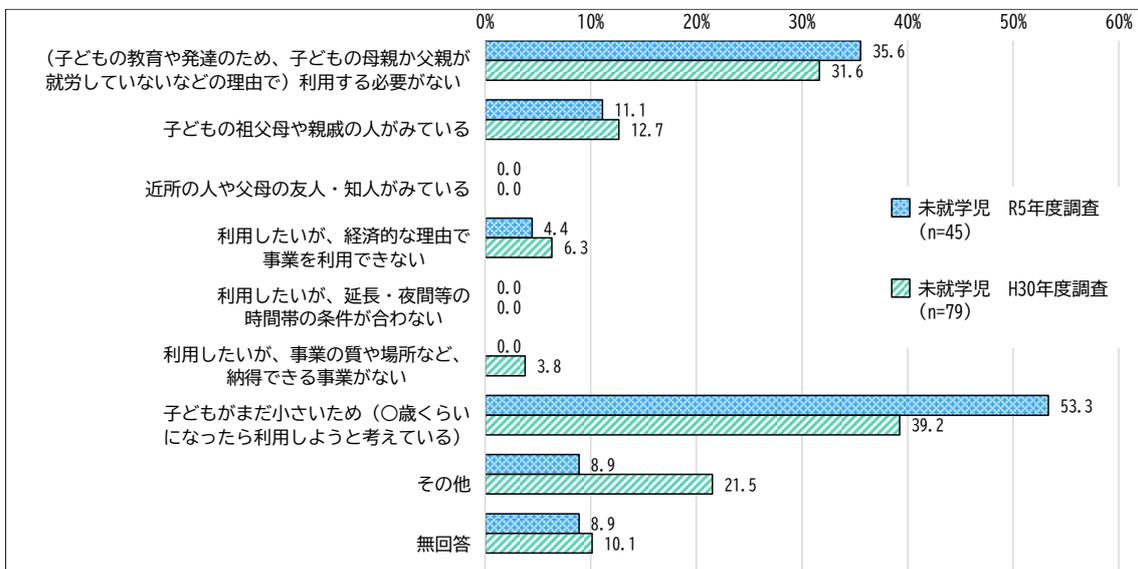
問14-4 現在利用している教育・保育事業の実施場所についてお答えください。(単数回答)

○「居住している町」が86.1%と8割を超えており、「他の町」は9.9%と1割以下となっています。

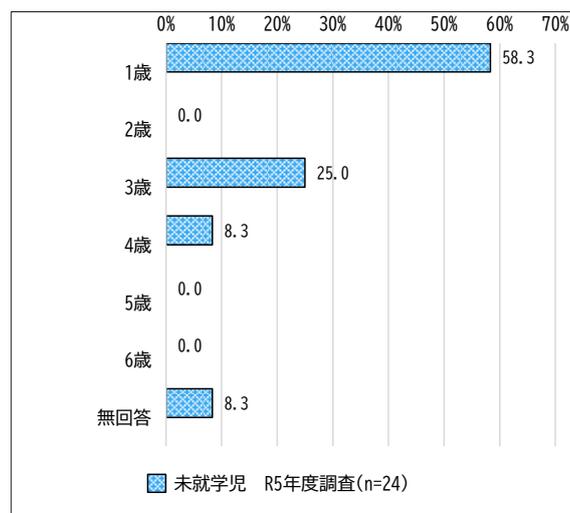


問14-5 利用していない理由は何ですか。(複数回答)

- 「子どもがまだ小さいため（〇歳くらいになったら利用しようと考えている）」が53.3%と最も高く、次いで「(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない」35.6%となっています。
- 前回調査との比較では、「子どもがまだ小さいため（〇歳くらいになったら利用しようと考えている）」が高く、「その他」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

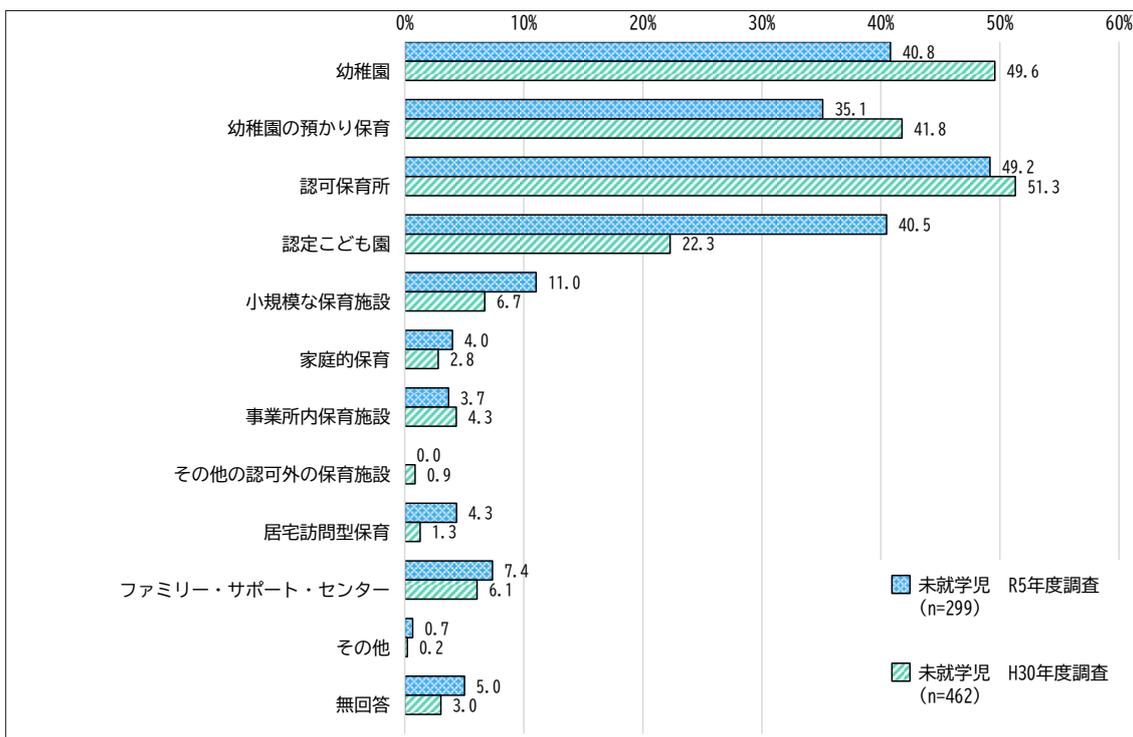


【利用しようと考えている年齢】



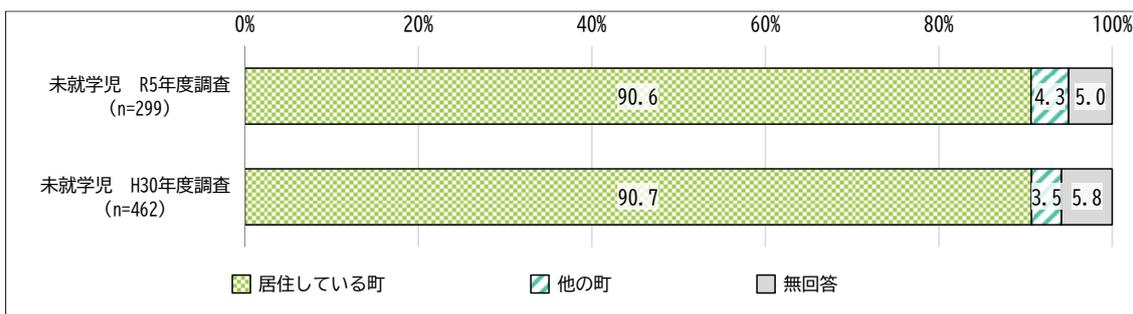
問15 現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。(複数回答)

- 「認可保育所」が49.2%と最も高く、次いで「幼稚園」40.8%、「認定こども園」40.5%となっています。
- 前回調査との比較では、「幼稚園」が8.8ポイント低く、「認定こども園」が18.2ポイント高くなっています。



問15-1 今後、教育・保育事業を利用したい場所についてうかがいます。(単数回答)

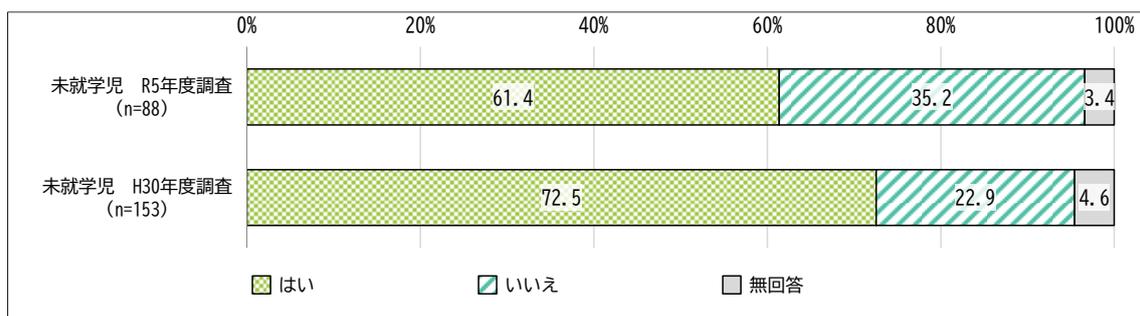
- 「居住している町」が90.6%と9割を占めており、「他の町」は4.3%と1割以下となっています。



問15で「1」または「2」（幼稚園利用）を回答し、かつ「3」～「12」も回答した方のみ

問15-2 特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。（単数回答）

- 「はい」が61.4%、「いいえ」が35.2%となっています。
- 前回調査との比較では、「はい」が低く、「いいえ」が高くなっており、10ポイント以上差が生じています。

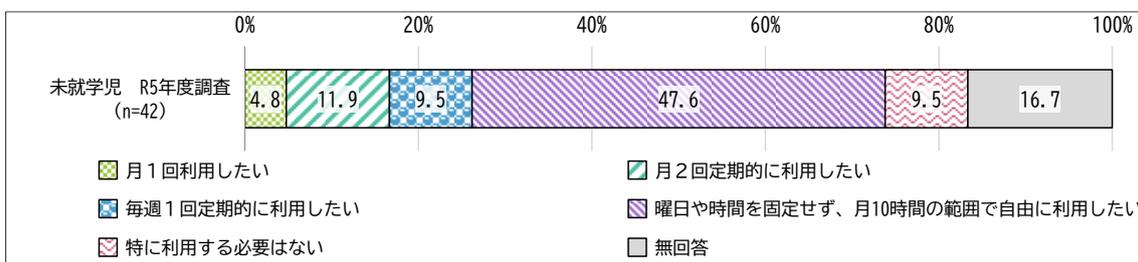


お子様の年齢が0～2歳で、平日に保育所や認定こども園等といった、子どもを預かる施設やサービスを定期的に利用されていない方のみ

問16 国が検討している「こども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、仮に月10時間まで定期的に利用が可能だとしたら、利用したいと思いますか。（単数回答）

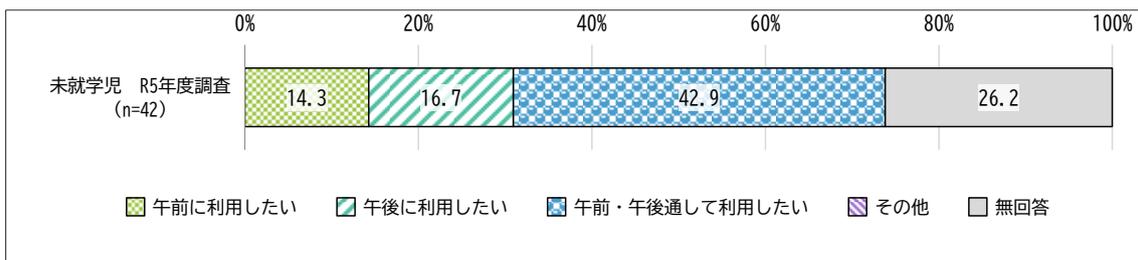
（1）利用希望

○「曜日や時間を固定せず、月10時間の範囲で自由に利用したい」が47.6%と最も高く、次いで「月2回定期的に利用したい」11.9%、「毎週1回定期的に利用したい」「特に利用する必要はない」がともに9.5%となっています。



（2）利用したい時間帯

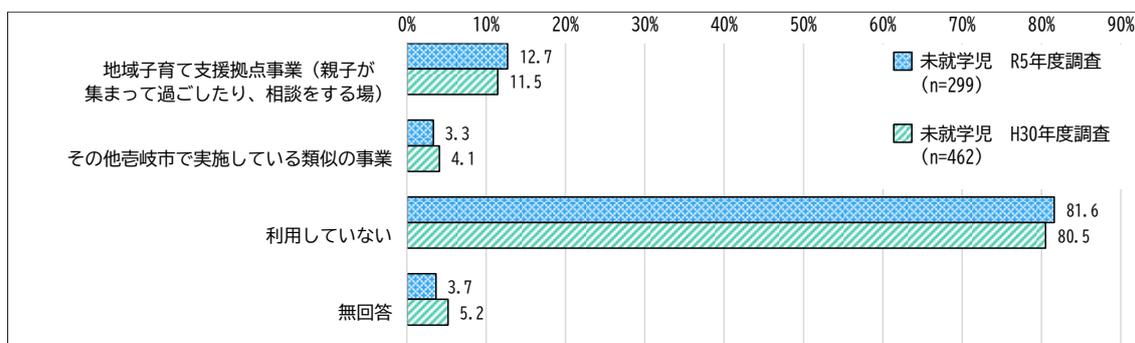
○「午前・午後通して利用したい」が42.9%と最も高く、次いで「午後に利用したい」16.7%、「午前利用したい」14.3%となっています。



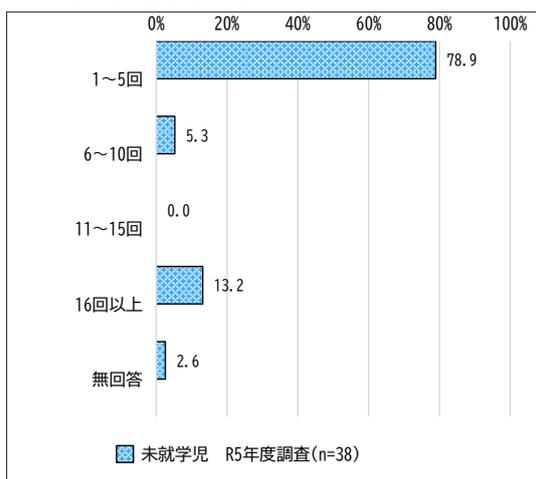
6. 地域の子育て支援事業の利用状況について

問17 宛名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（「かざはやひろば」等の、親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場）を利用していますか。（複数回答）

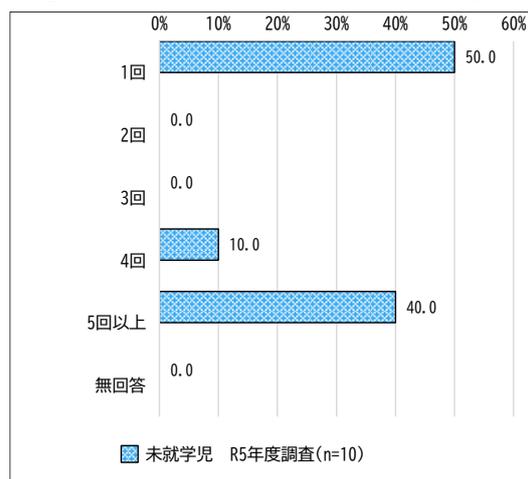
- 「利用していない」が81.6%と最も高く、次いで「地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）」12.7%、「その他吉崎市で実施している類似の事業」3.3%となっています。
- 月当たり利用回数をみると、地域子育て支援拠点事業では「1～5回」が78.9%、類似の事業では「1回」が50.0%と最も高くなっています。



【地域子育て支援拠点事業：月当たり利用回数】

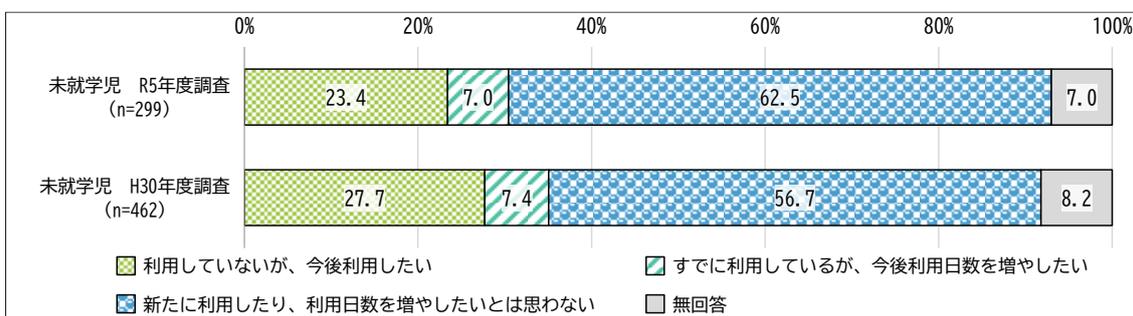


【類似の事業：月当たり利用回数】

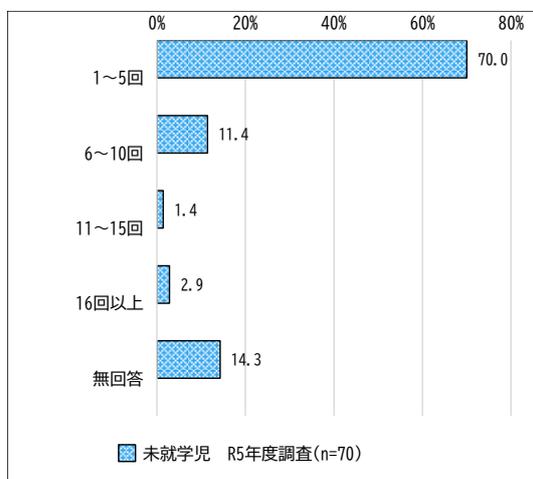


**問18 問17のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。
(単数回答)**

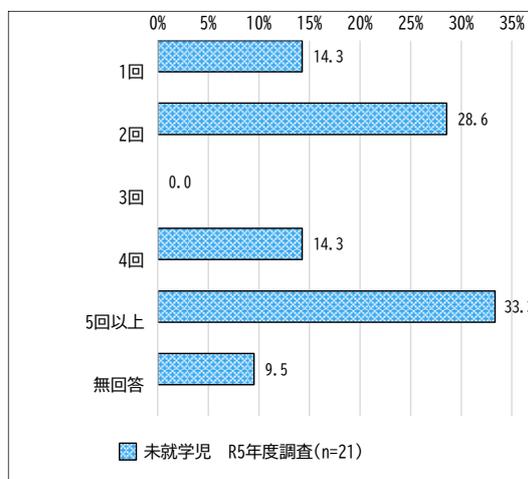
- 「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が62.5%と最も高く、次いで「利用していないが、今後利用したい」23.4%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」7.0%となっています。
- 今後新たに利用したい回数では「1～5回」が70.0%、今後利用を増やしたい回数では、「5回以上」が33.3%と最も高くなっています。



【今後新たに利用したい月当たり回数】



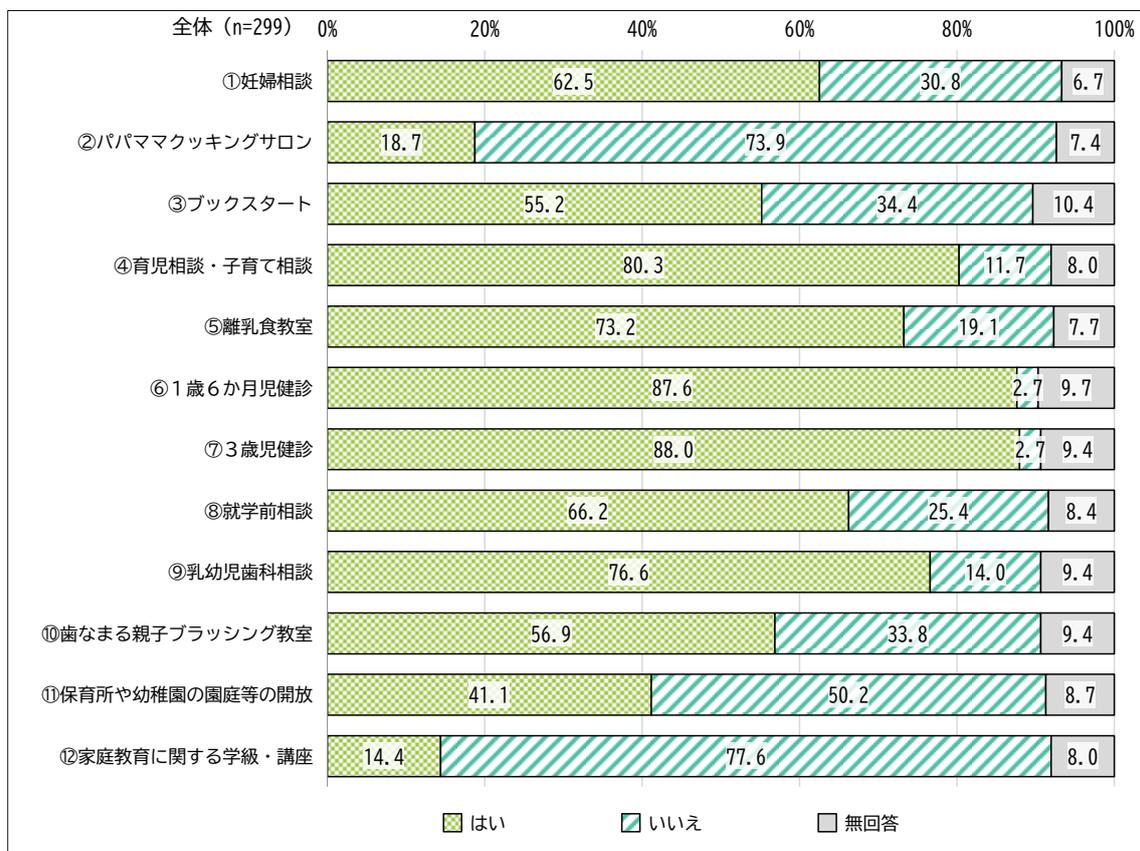
【今後利用を増やしたい月当たり回数】



問19 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。(単数回答)

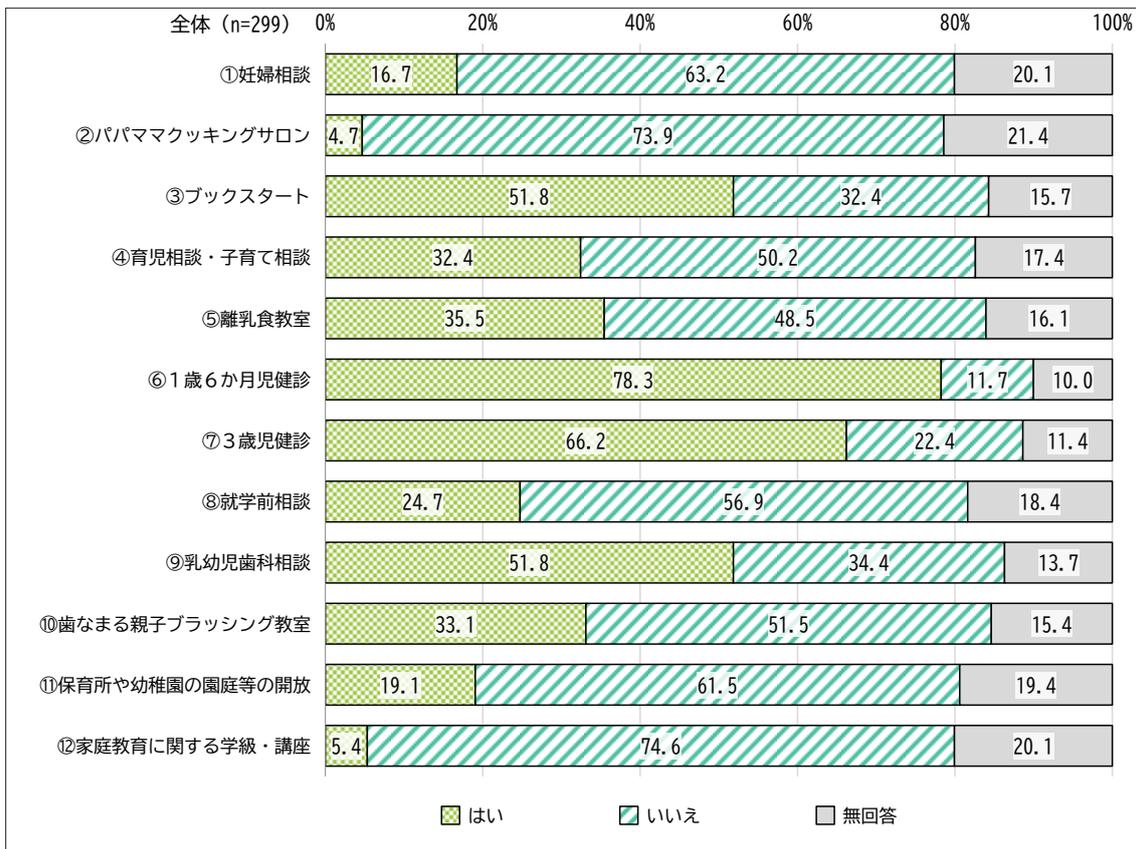
(1) 知っている

- 認知度が最も高い事業は「3歳児健診」88.0%、次いで「1歳6か月児健診」87.6%、「育児相談・子育て相談」80.3%となっています。
- 認知度が最も低い事業は「家庭教育に関する学級・講座」77.6%、次いで「パパママクッキングサロン」73.9%、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」50.2%となっています。



(2) これまでに利用したことがある

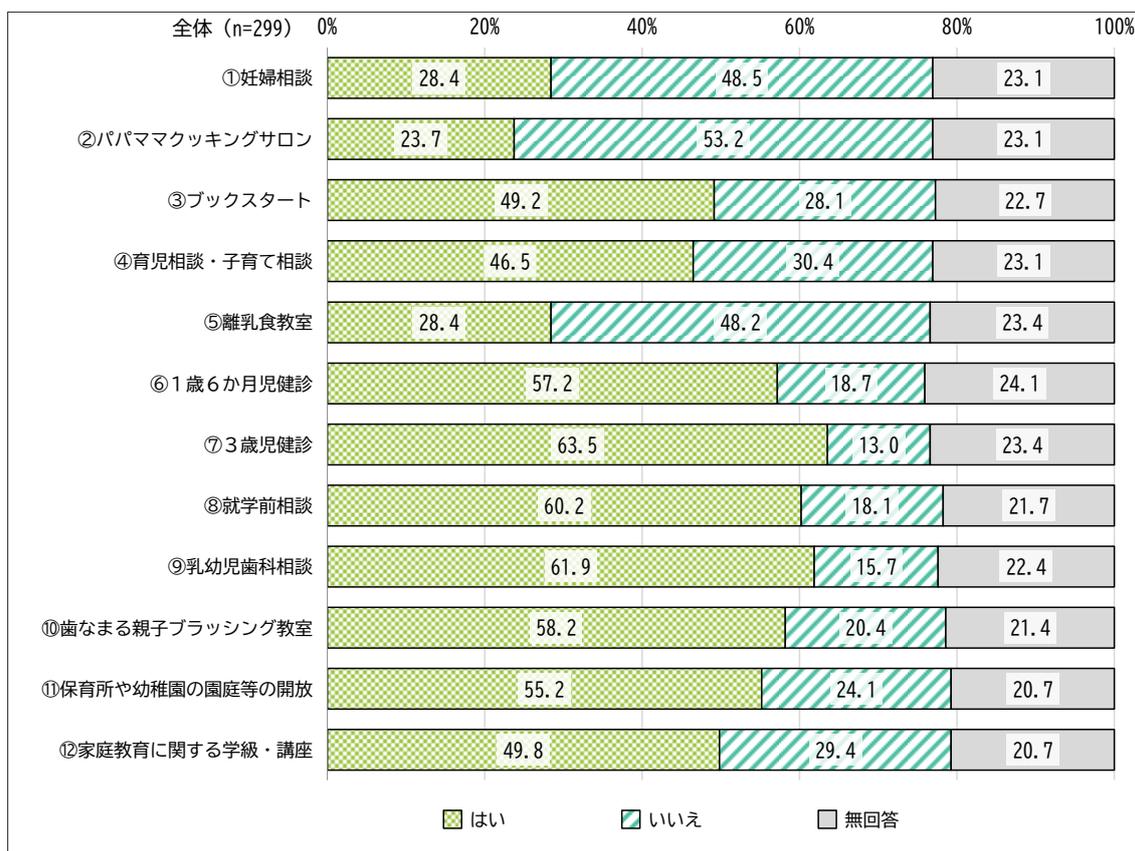
- 利用率が最も高い事業は「1歳6か月児健診」78.3%、次いで「3歳児健診」66.2%、「ブックスタート」「乳幼児歯科相談」がともに51.8%となっています。
- 利用率が最も低い事業は「家庭教育に関する学級・講座」74.6%、次いで「パパママクッキングサロン」73.9%、「妊婦相談」63.2%となっています。



(3) 今後利用したい

○今後の利用意向が最も高い事業は「3歳児健診」63.5%、次いで「乳幼児歯科相談」61.9%、「就学前相談」60.2%となっています。

○今後の利用意向が最も低い事業は「パパママクッキングサロン」53.2%、次いで「妊婦相談」48.5%、「離乳食教室」48.2%となっています。



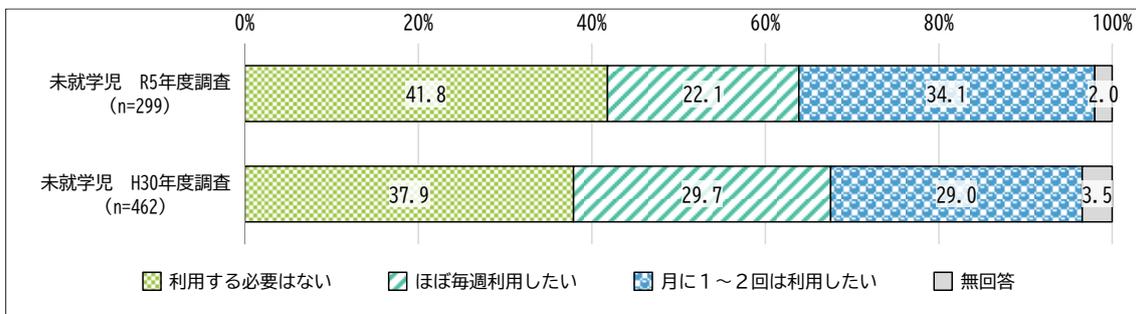
7. 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について

問20 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。（単数回答）

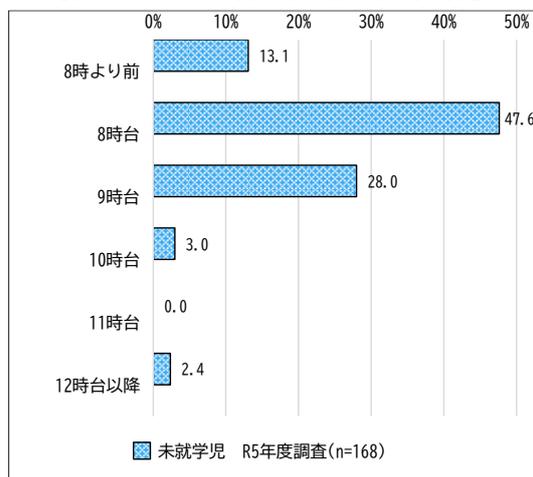
（1）土曜日

○土曜日の利用希望については、「利用する必要はない」が41.8%と最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」34.1%、「ほぼ毎週利用したい」22.1%となっています。

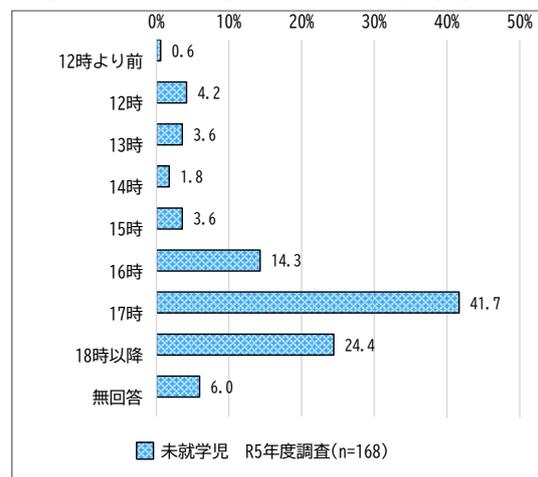
○土曜日の利用希望時刻について、開始時刻では「8時」が47.6%、終了時刻では「17時」が41.7%と最も高くなっています。



【利用したい時間帯（開始時刻）】



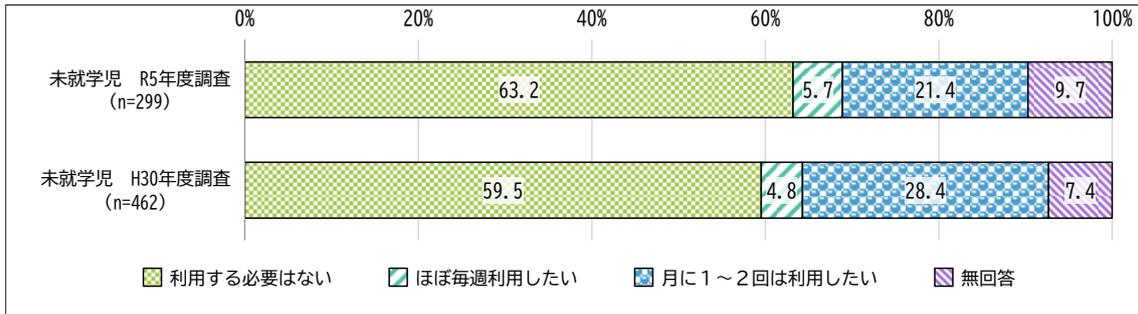
【利用したい時間帯（終了時刻）】



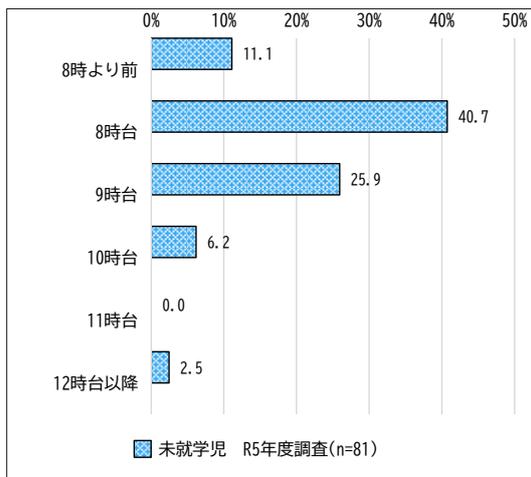
(2) 日曜・祝日

○日・祝日の利用希望については、「利用する必要はない」が 63.2%と最も高く、次いで「月に1～2回利用したい」21.4%、「ほぼ毎週利用したい」5.7%となっています。

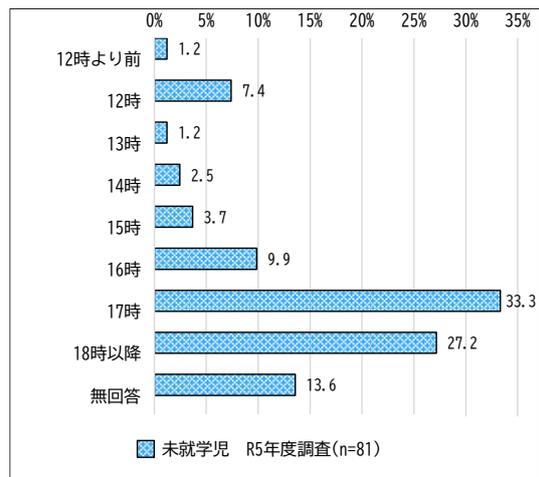
○日・祝日の利用希望時刻について、開始時刻では「8時」が 40.7%、終了時刻では「17時」が 33.3%と最も高くなっています。



【利用したい時間帯（開始時刻）】



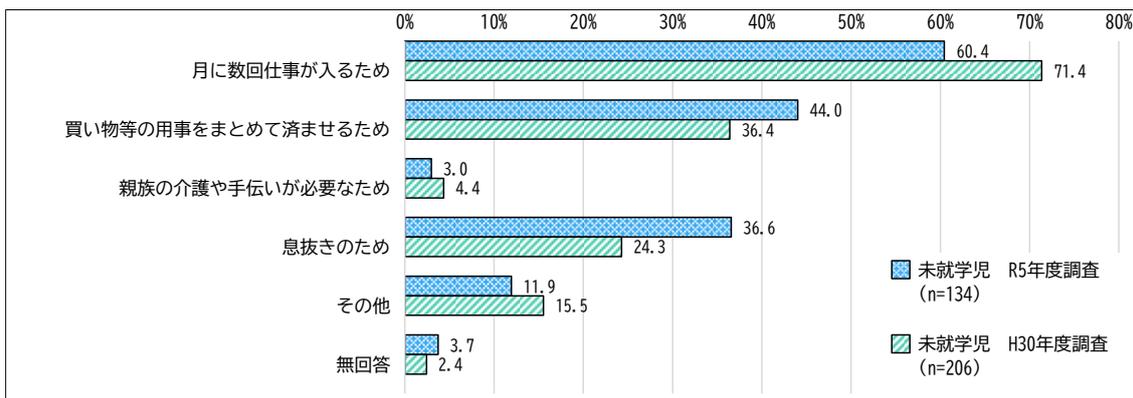
【利用したい時間帯（終了時刻）】



問20の(1)もしくは(2)で、「3月に1～2回は利用したい」を回答した方のみ。

問20-1 毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。(複数回答)

- 「月に数回仕事が入るため」が60.4%と最も高く、次いで「買い物等の用事をまとめて済ませるため」44.0%、「息抜きのため」36.6%となっています。
- 前回調査との比較では、「月に数回仕事が入るため」が低く、「息抜きのため」が高くなっており、10ポイント前後差が生じています。

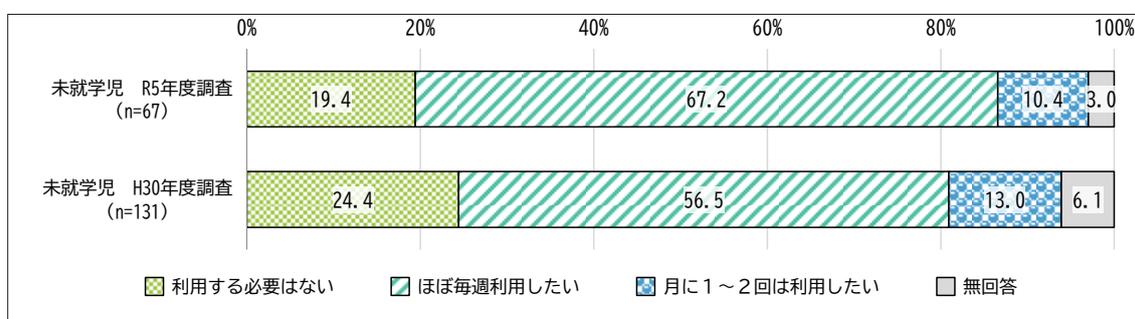


問21 宛名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。(複数回答)

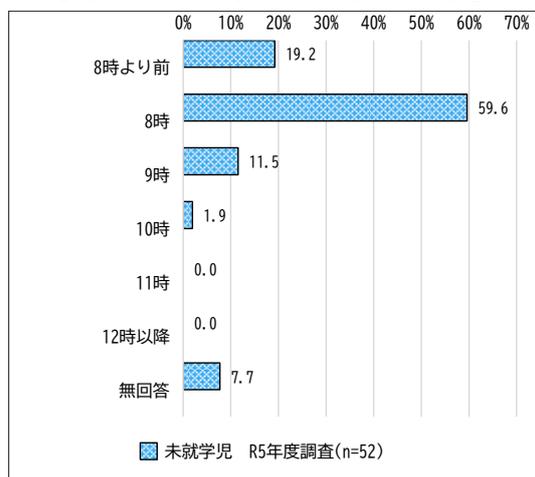
○長期休暇期間中の利用希望については、「ほぼ毎週利用したい」が67.2%と最も高く、次いで「利用する必要はない」19.4%、「月に1～2回は利用したい」10.4%となっています。

○前回調査との比較では、「ほぼ毎週利用したい」が10.7ポイント高くなっています。

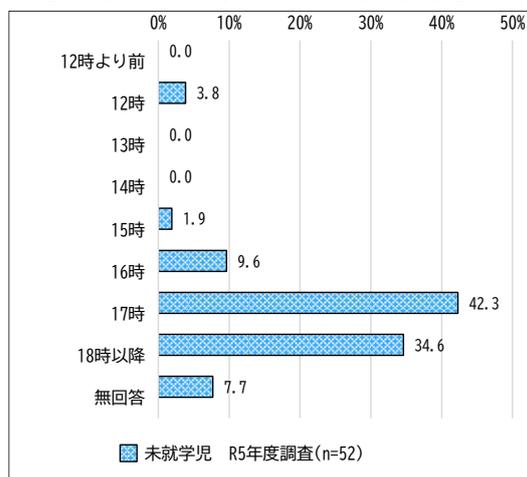
○利用希望時刻について、開始時刻では「8時」が59.6%と最も高く、終了時刻では「17時」「18時以降」が3～4割台となっています。



【利用したい時間帯（開始時刻）】



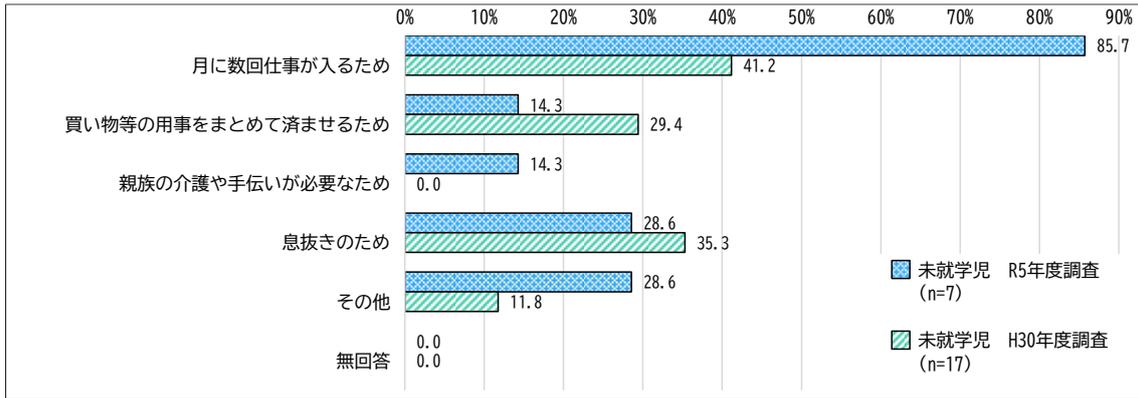
【利用したい時間帯（終了時刻）】



問21で「3.月に1～2回は利用したい」を回答した方のみ

問21-1 毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。(複数回答)

○長期休暇期間中、毎週ではなくたまに利用したい理由についてはサンプル数が少ないため、参考程度。

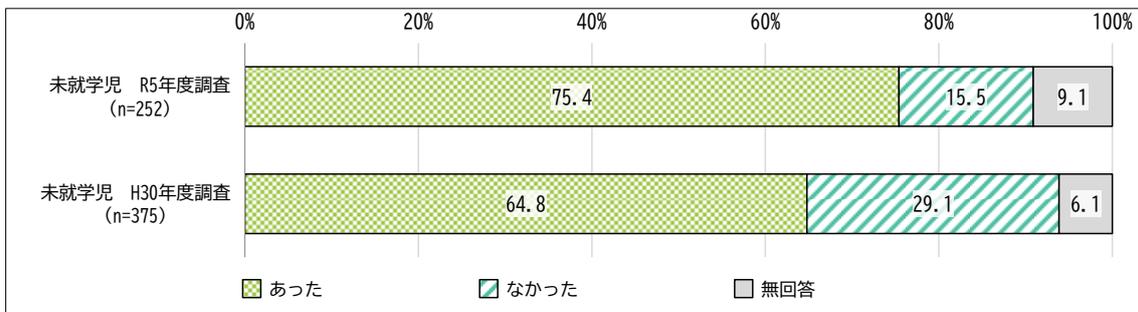


8. 病気の際の対応について

平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると答えた保護者の方(問14で1を回答した方)のみ

問22 この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。(単数回答)

○「あった」が75.4%、「なかった」が15.5%となっています。
 ○前回調査との比較では、「あった」が高く、「なかった」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

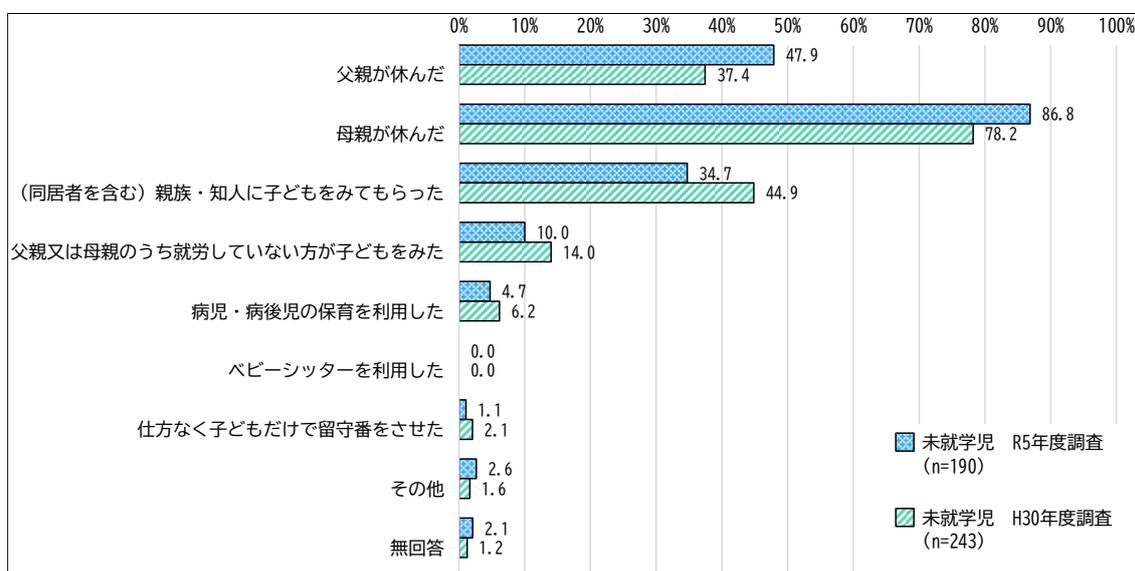


問22で「1. あった」を回答した方のみ

問22-1 宛名のお子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法をおうかがいします。
(複数回答)

- 「母親が休んだ」が86.8%と最も高く、次いで「父親が休んだ」47.6%、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」34.7%となっています。
- 前回調査との比較では、「父親が休んだ」「母親が休んだ」が高く、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が低くなっており、10ポイント前後差が生じています。

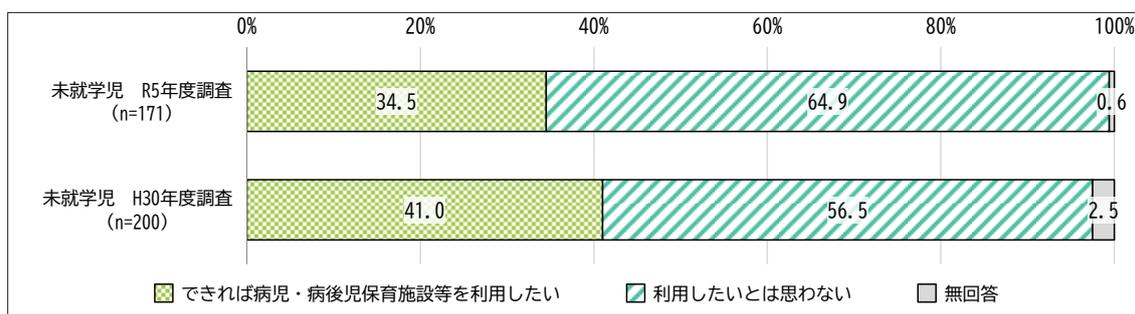
【1年間の対処方法】



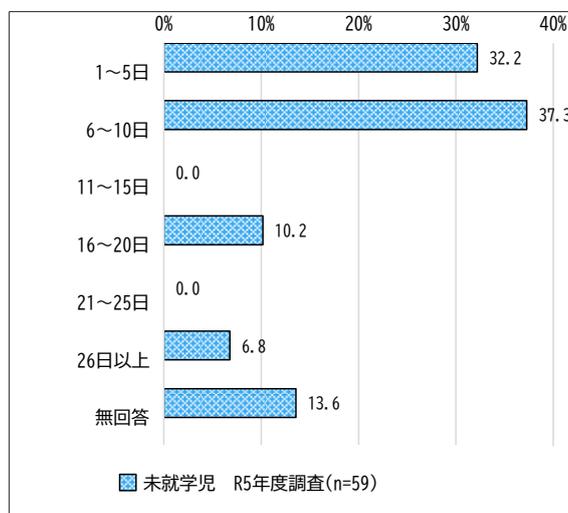
問22-1で「1」・「2」のいずれかを回答した方のみ

問22-2 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。(単数回答)

- 「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が34.5%、「利用したいとは思わない」が64.9%となっています。
- 前回調査との比較では、「利用したいとは思わない」が8.4ポイント高くなっています。



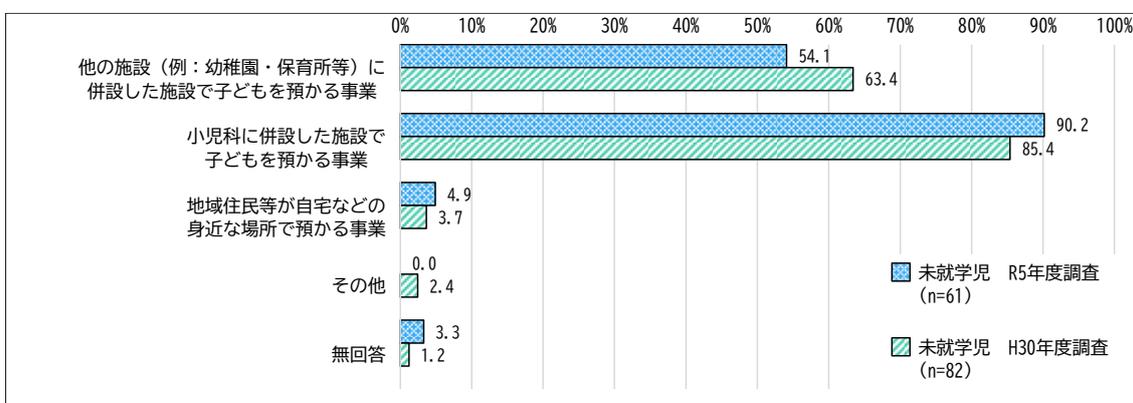
【病児・病後児保育施設等を利用したい年間日数】



問2 2-2で「1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」を回答した方のみ

問2 2-3 上記の目的で子どもを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。(複数回答)

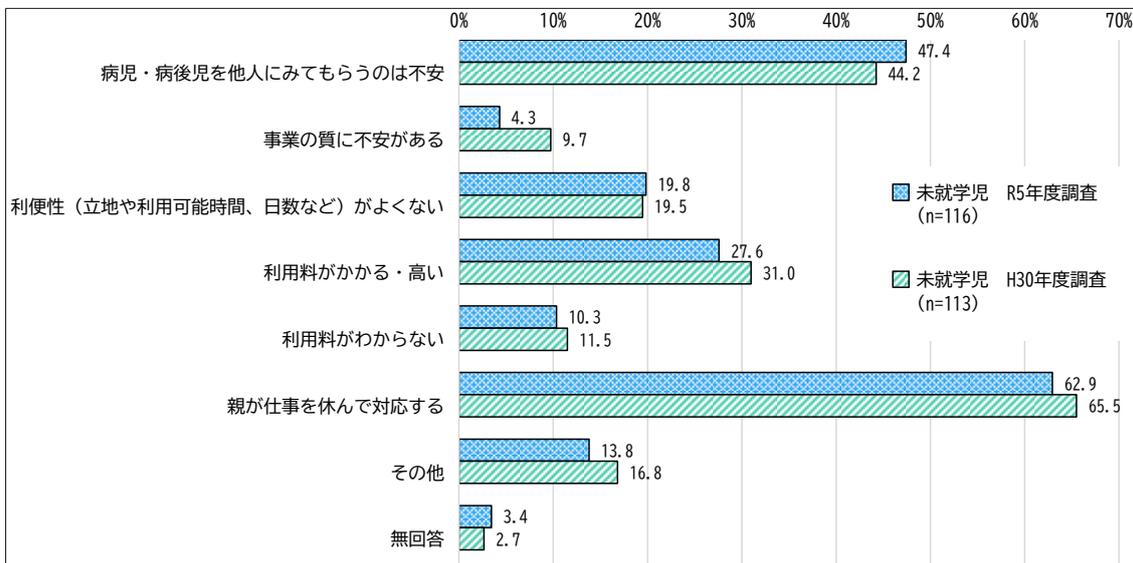
- 「小児科に併設した施設で子どもを預かる事業」が90.2%と最も高く9割を占めており、次いで「他の施設(例:幼稚園・保育所等)に併設した施設で子どもを預かる事業」54.1%、「地域住民等が自宅などの身近な場所で預かる事業」4.9%となっています。
- 前回調査との比較では、「他の施設(例:幼稚園・保育所等)に併設した施設で子どもを預かる事業」が9.3ポイント低くなっています。



問2 2-2で「2. 利用したいとは思わない」を回答した方のみ

問2 2-4 そう思われる理由についてうかがいます。(複数回答)

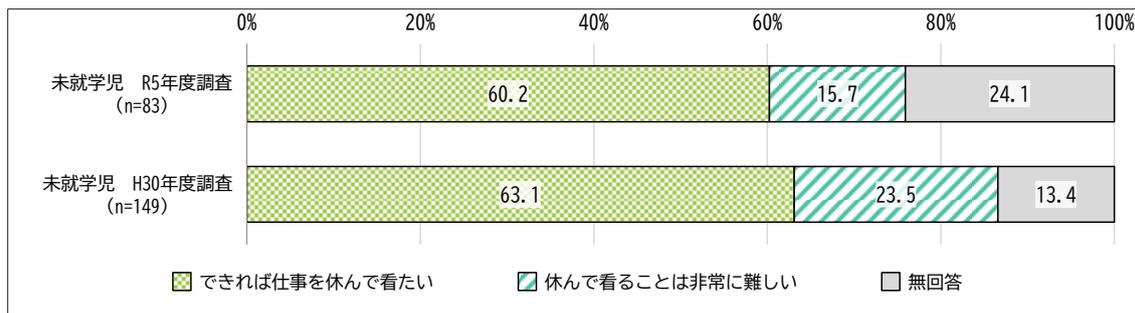
- 「親が仕事を休んで対応する」が62.9%と最も高く、次いで「病児・病後児を他人にみてもらうのは不安」47.4%、「利用料がかかる・高い」27.6%となっています。



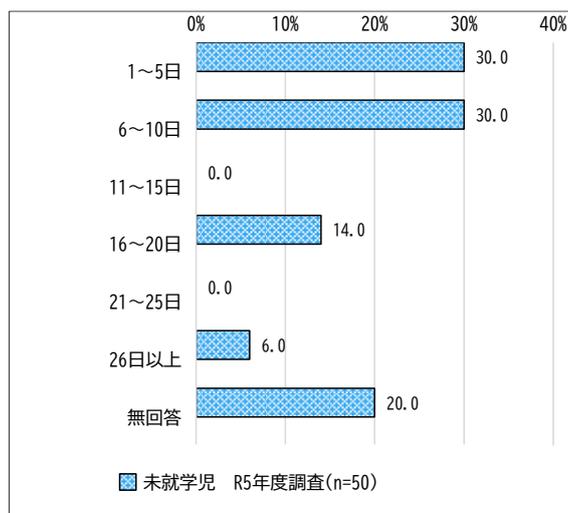
問22-1で「3」～「8」を回答した方のみ

問22-5 その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか。(単数回答)

○「できれば仕事を休んで看たい」が60.2%、「休んで看ることは非常に難しい」が15.7%となっています。

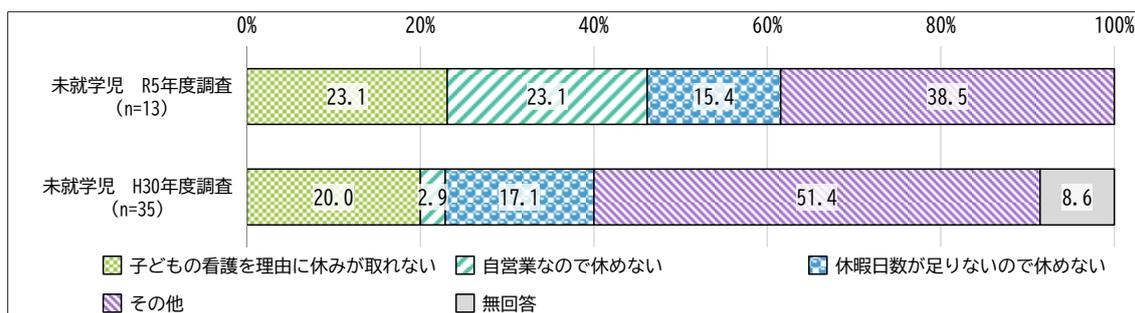


【年間日数】



問22-6 その理由は何ですか。(単数回答)

- 「その他」が38.5%と最も高く、次いで「子どもの看護を理由に休みが取れない」「自営業なので休めない」がともに23.1%、「休暇日数が足りないので休めない」15.4%となっています。
- 前回調査との比較では、「自営業なので休めない」が高く、「その他」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

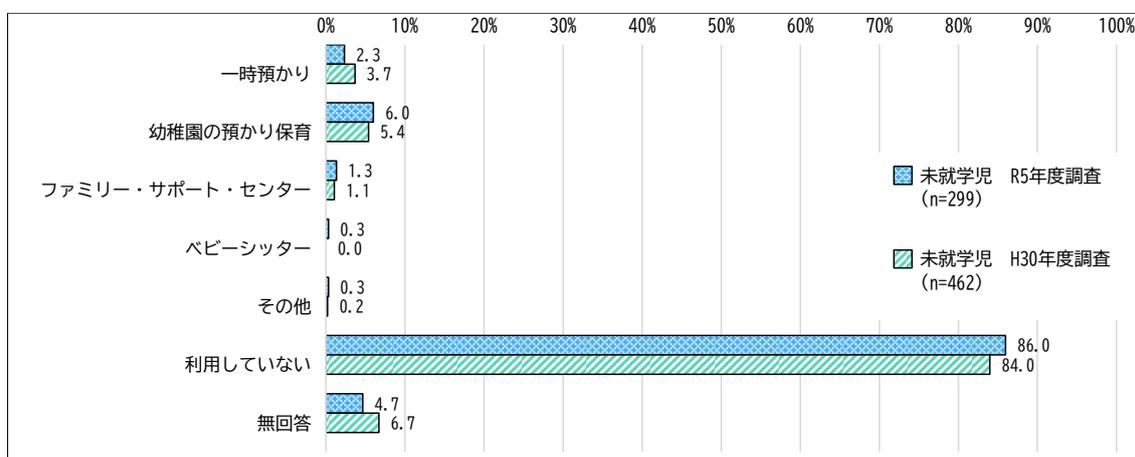


9. 保育所などの一時的な利用や、宿泊を伴う一時預かりなどの利用について

問23 宛名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。
(複数回答)

○「利用していない」が86.0%と最も高く8割を超えており、他の事業についてはいずれも1割以下となっています。

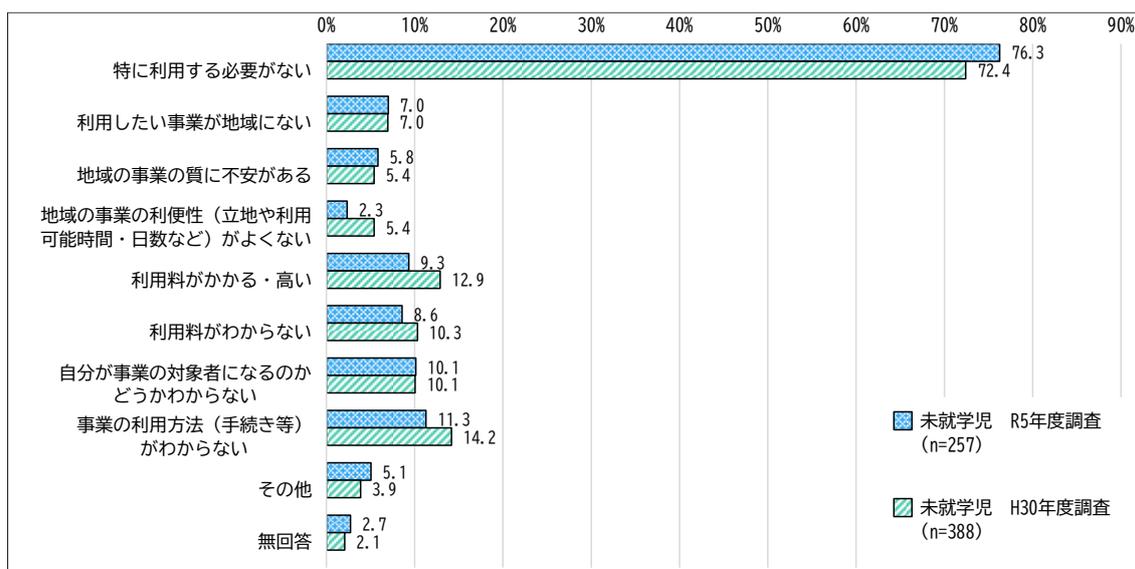
【利用している事業】



問23で「6. 利用していない」を回答した方のみ

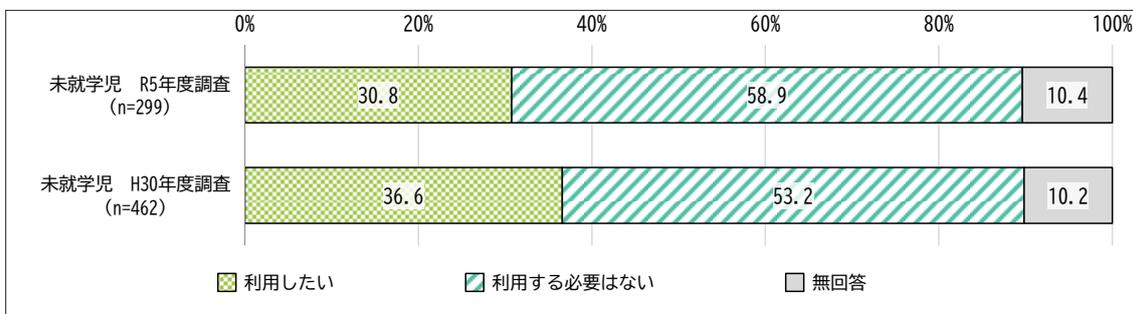
問23-1 利用していない理由は何ですか。(複数回答)

○「特に利用する必要がない」が76.3%と最も高く、次いで「事業の利用方法（手続き等）がわからない」11.3%、「自分が事業の対象者になるのかわからない」10.1%となっています。

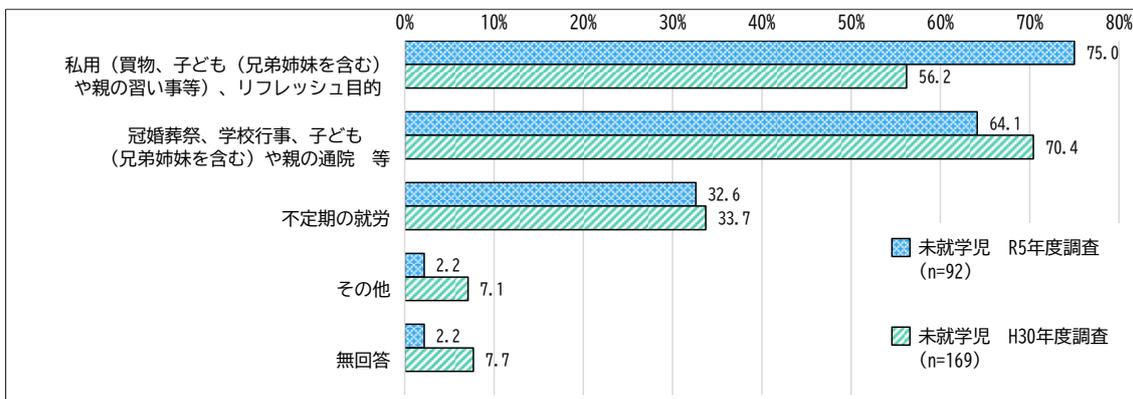


問24 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、問23の事業を年間何日くらい利用する必要がありますか。

- 利用希望については、「利用したい」が30.8%、「利用する必要はない」が58.9%となっています。
- 利用目的については、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が75.0%と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院 等」64.1%、「不定期の就労」32.6%となっています。
- 前回調査との比較では、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が18.8ポイント高くなっています。

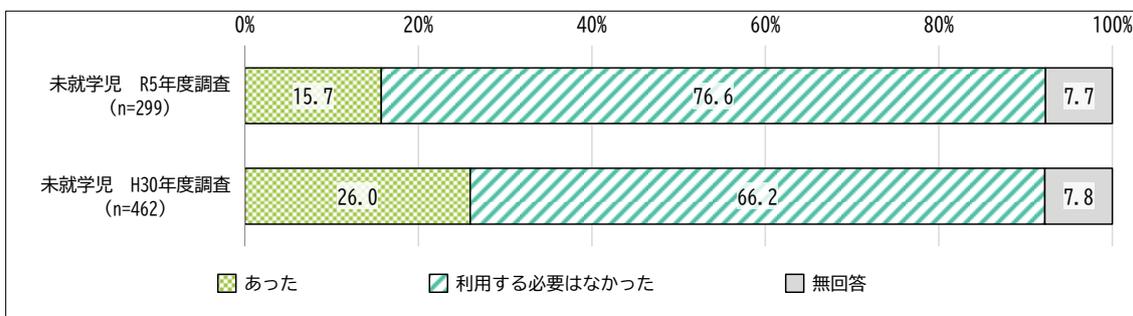


【利用目的】

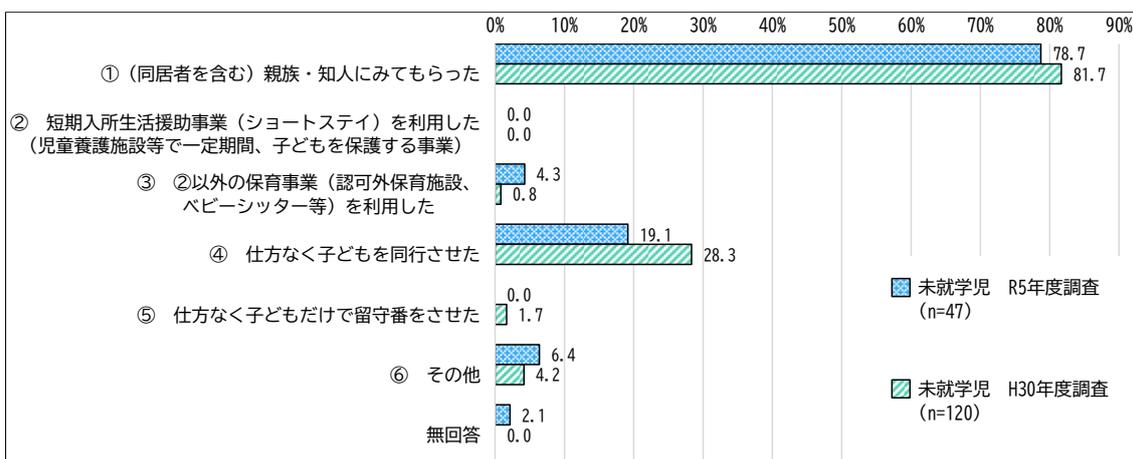


問25 この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、宛名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか。

- 「あった」が15.7%、「利用する必要はなかった」が76.6%となっています。
- 前回調査との比較では、「あった」が低く、「利用する必要はなかった」が高くなっており、10ポイント程度差が生じています。
- 対処方法については、「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」が78.7%と最も高く、次いで「仕方なく子どもを同行させた」19.1%、「その他」6.4%となっています。
- 前回調査との比較では、「仕方なく子どもを同行させた」が9.2ポイント低くなっています。



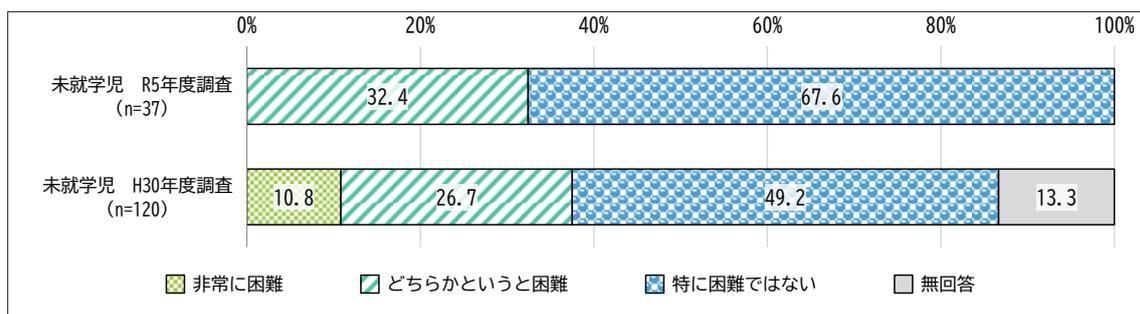
【対処方法】



問25で「1. あった ①(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」を回答した方のみ

問25-1 親族や知人に見てもらうことは難しかったですか。(単数回答)

- 「特に困難ではない」が67.6%と最も高く、次いで「どちらかというと困難」32.4%となっています。
- 前回調査との比較では、「非常に困難」が低く、「特に困難ではない」が高くなっており、10ポイント以上差が生じています。

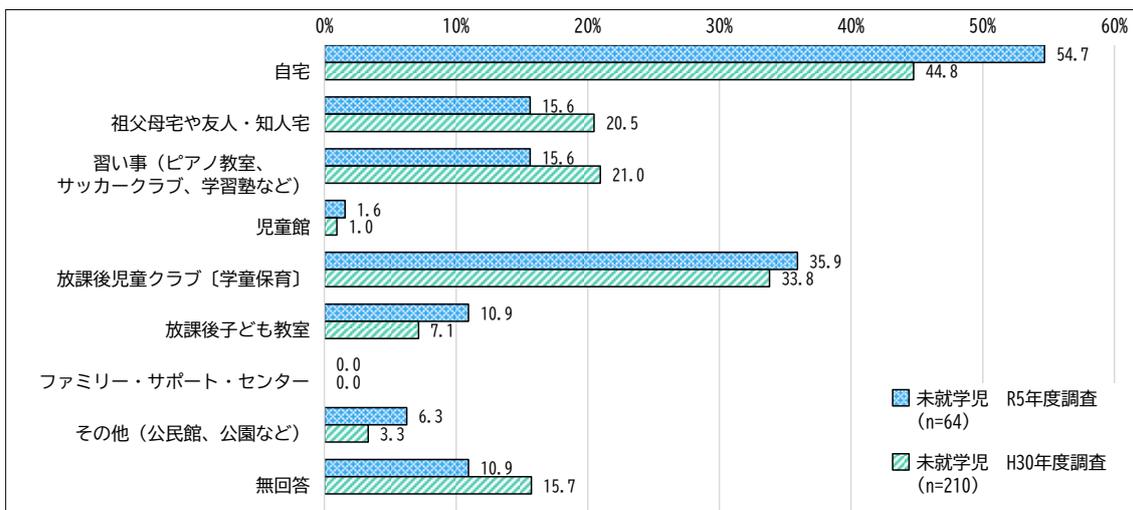


10. 小学校就学後の放課後の過ごし方について

問26 宛名のお子さんについて、小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

○「自宅」が54.7%と最も高く、次いで「放課後児童クラブ〔学童保育〕」35.9%、「祖父母宅や友人・知人宅」「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」がともに15.6%となっています。

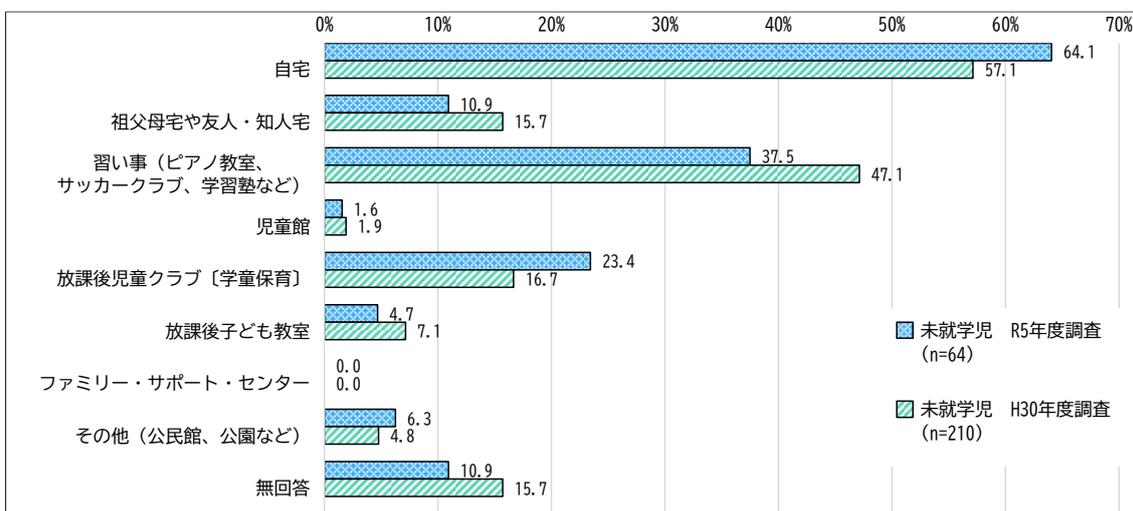
○前回調査との比較では、「自宅」が9.9ポイント高くなっています。



問27 宛名のお子さんについて、小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

○「自宅」が64.1%と最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」37.5%、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」23.4%となっています。

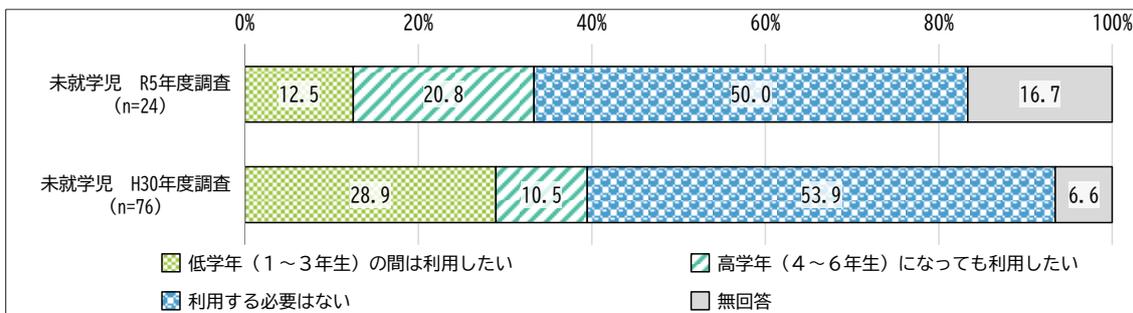
○前回調査との比較では、習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が9.6ポイント低くなっています。



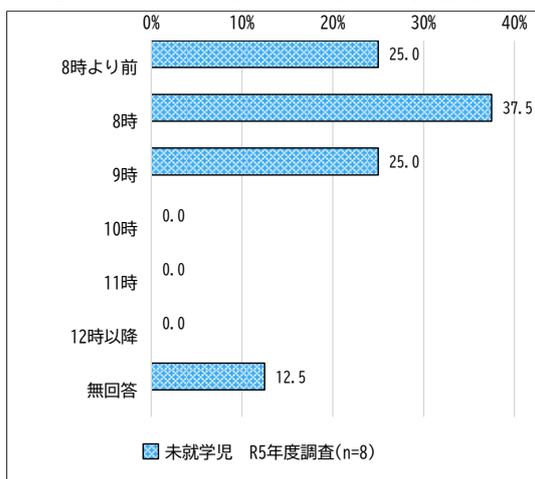
問28 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。（単数回答）

(1) 土曜日

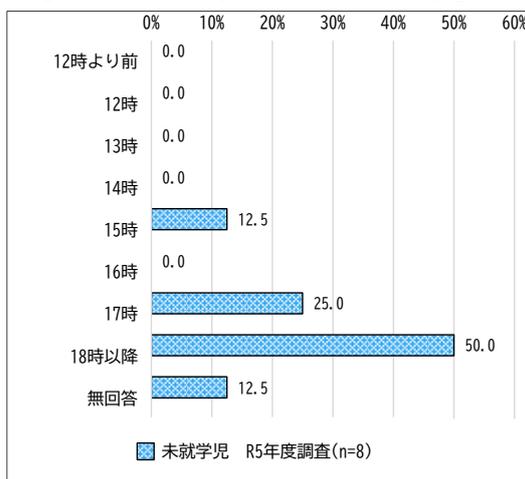
- 土曜日の利用希望については、「利用する必要はない」が50.0%と最も高く、次いで「高学年（4～6年生）になっても利用したい」20.8%、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」12.5%となっています。
- 前回調査との比較では、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が低く、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が高くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 土曜日の利用希望時刻についてはサンプル数が少ないため参考程度。



【利用したい時間帯（開始時刻）】



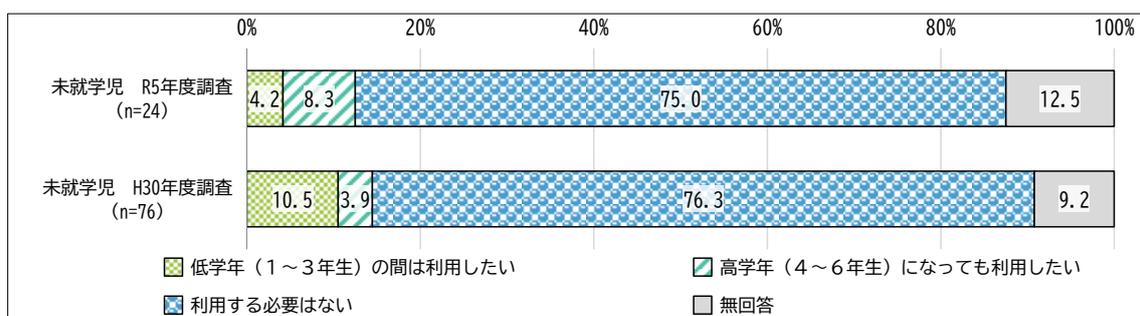
【利用したい時間帯（終了時刻）】



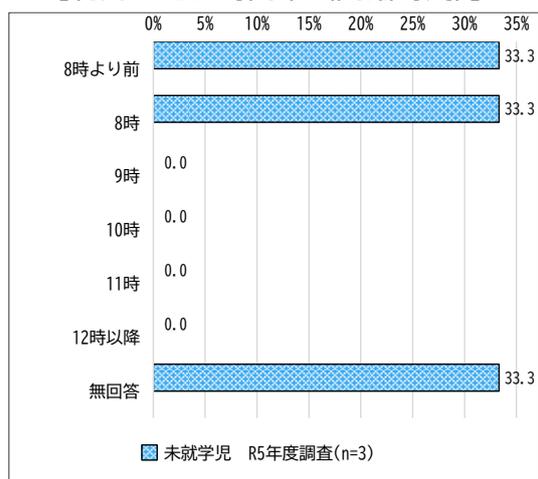
(2) 日曜・祝日

○日・祝日の利用希望については、「利用する必要はない」が75.0%と最も高く、次いで「高学年（4～6年生）になっても利用したい」8.3%、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」4.2%となっています。

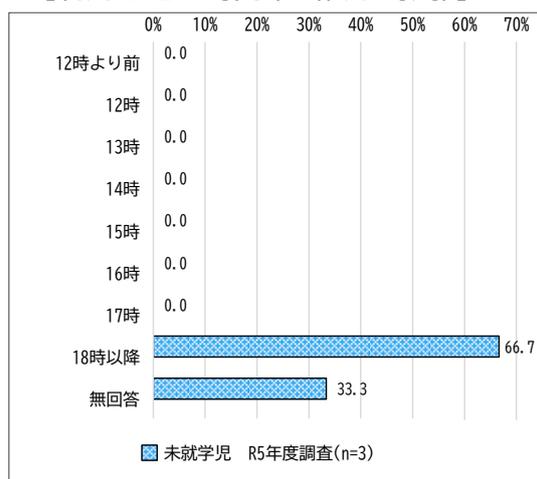
○日・祝日の利用希望時刻についてはサンプル数が少ないため参考程度。



【利用したい時間帯（開始時刻）】

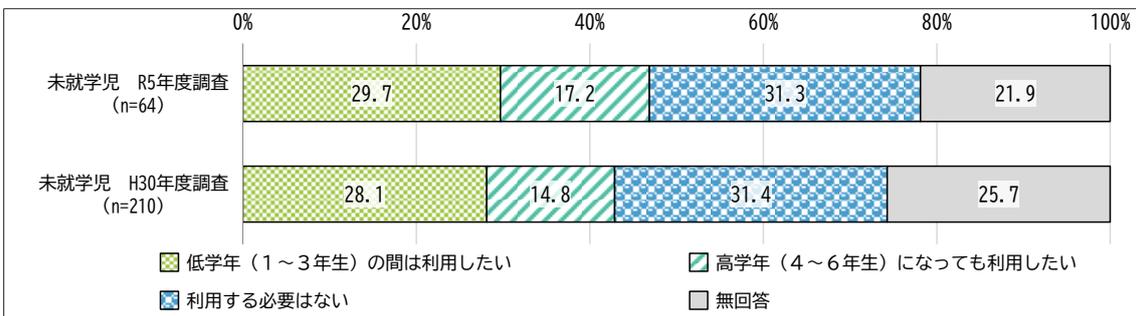


【利用したい時間帯（終了時刻）】

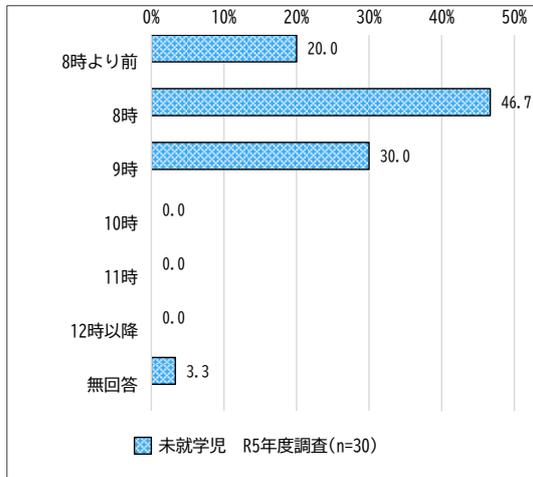


問29 宛名のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。（単数回答）

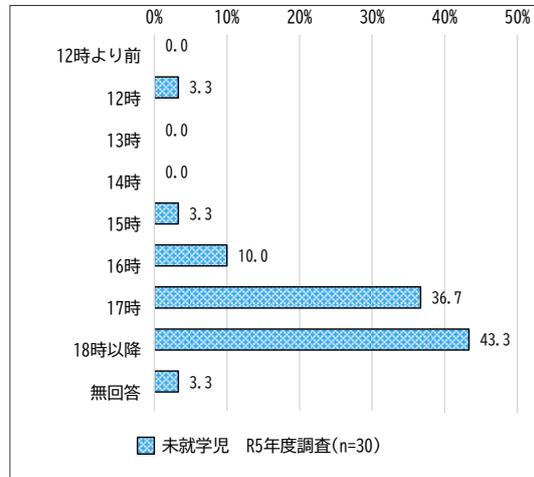
- 長期休暇期間中の利用希望については、「利用する必要はない」が31.3%と最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」29.7%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」17.2%となっています。
- 長期休暇期間中の利用希望時刻について、開始時刻では「8時」「9時」、終了時刻では「17時」「18時以降」が3～4割台となっています。



【利用したい時間帯（開始時刻）】



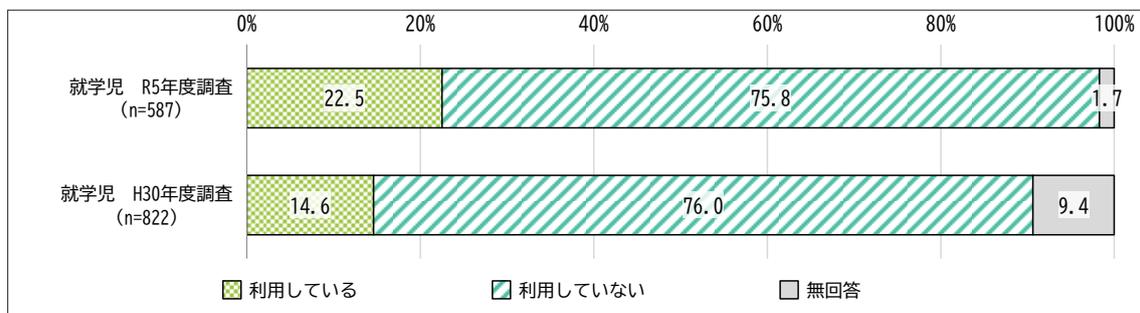
【利用したい時間帯（終了時刻）】



(就学児向け調査)

問12 お子さんは現在、放課後児童クラブを利用していますか。(単数回答)

○ 「利用している」が22.5%、「利用していない」が75.8%となっています。



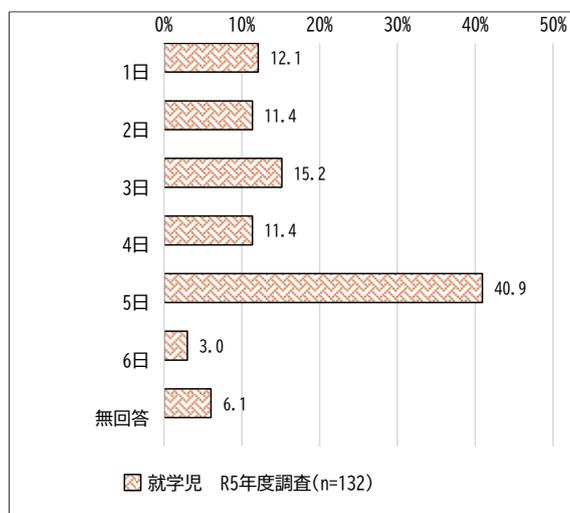
(就学児向け調査)

問12で「1. 利用している」を回答した方のみ

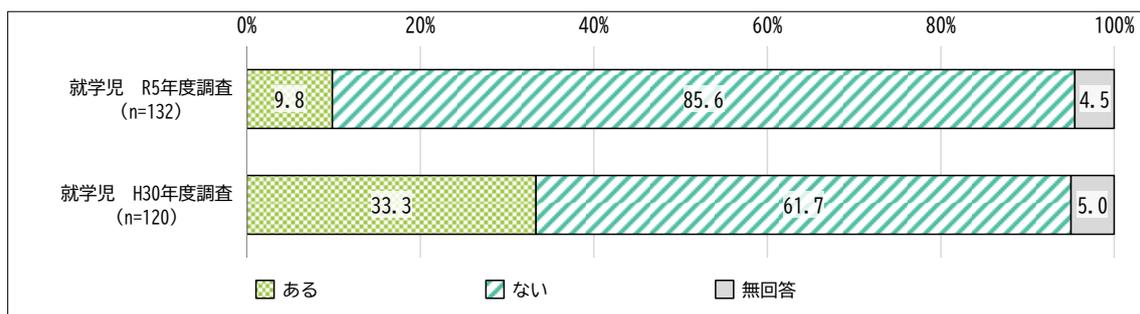
問12-1 放課後児童クラブの利用日数はどれくらいですか。

- 「5日」が40.9%と最も高く、次いで「3日」15.2%、「1日」12.1%となっています。
- 土曜日の利用については、「ある」が9.8%、「ない」が85.6%となっています。
- 前回調査との比較では、「ある」が低く、「ない」が高くなっており、20ポイント以上差が生じています。

【週当たり利用日数】



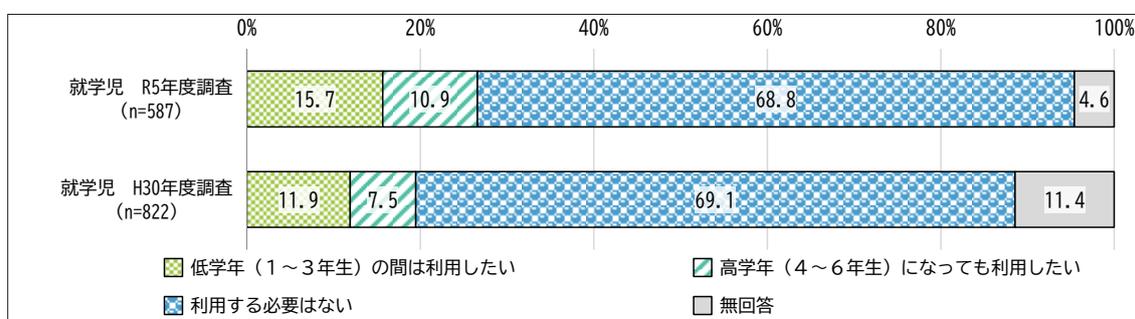
【土曜日の利用】



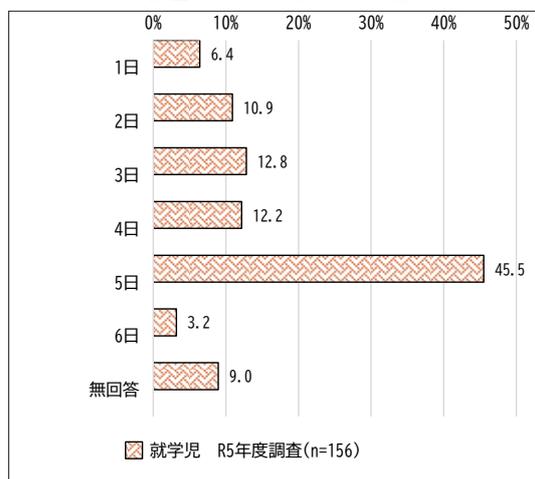
(就学児向け調査)

問13 お子さんについて、今後、平日の放課後児童クラブの利用希望はありますか。
(単数回答)

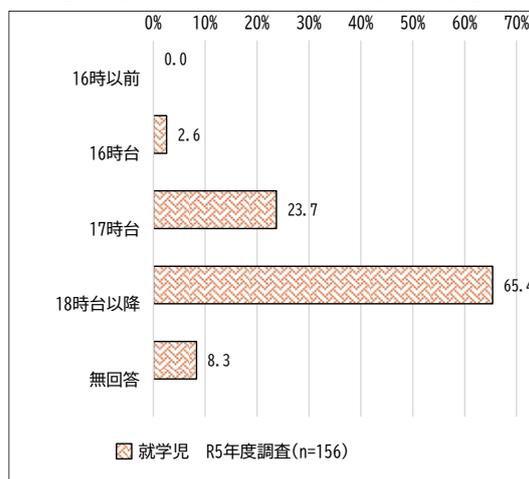
- 「利用する必要はない」が68.8%と最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」15.7%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」10.9%となっています。
- 希望する週当たりの利用日数については、「5日」が45.5%と最も高く、次いで「3日」12.8%、「4日」12.2%となっています。
- 希望する終了時刻については、「18時台以降」が65.4%と最も高く、次いで「17時台」23.7%となっています。



【週当たり利用日数】



【利用したい時間帯（終了時刻）】



(就学児向け調査)

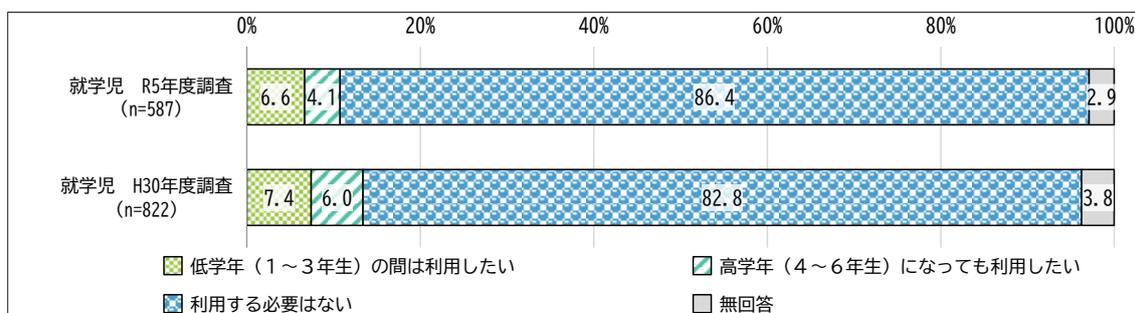
問14 お子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。

(1) 土曜日

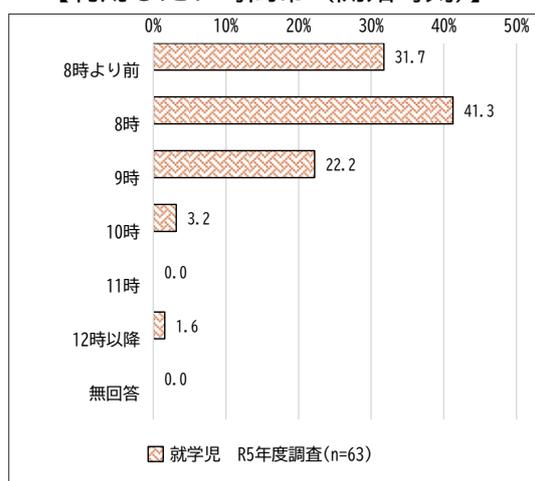
○土曜日の利用希望については、「利用する必要はない」が86.4%と最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」6.6%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」4.1%となっています。

○土曜日の希望開始時刻については、「8時」が41.3%と最も高く、次いで「8時より前」31.7%、「9時」22.2%となっています。

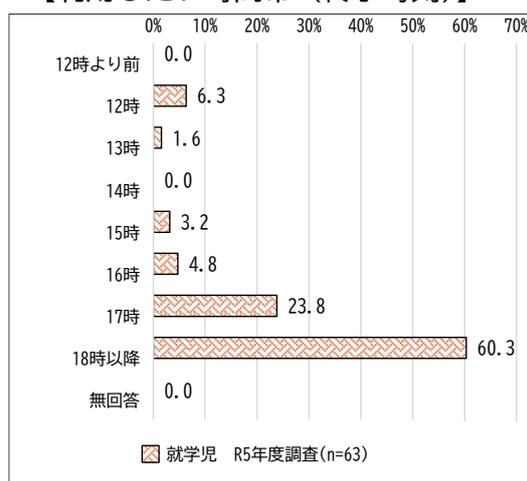
○土曜日の希望終了時刻については、「18時以降」が60.3%と最も高く、次いで「17時」23.8%となっています。



【利用したい時間帯（開始時刻）】



【利用したい時間帯（終了時刻）】

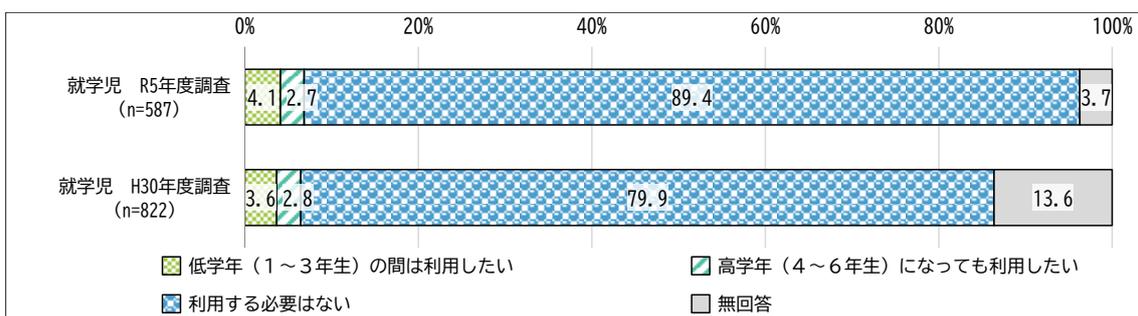


(2) 日曜・祝日

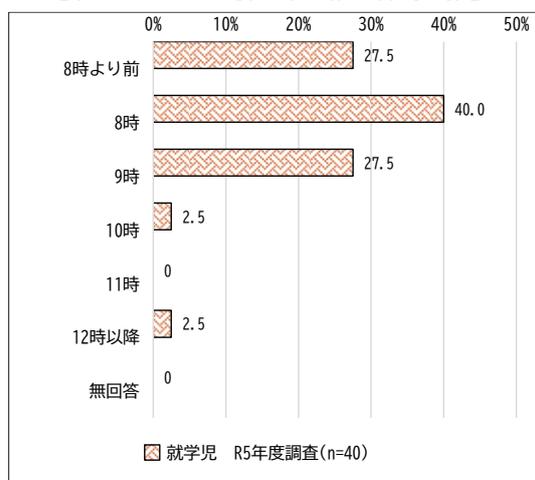
○日・祝日の利用希望については、「利用する必要はない」が 89.4%と最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」4.1%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」2.7%となっています。

○日・祝日の希望開始時刻については、「8時」が 40.0%と最も高く、次いで「8時より前」「9時」がともに 27.5%となっています。

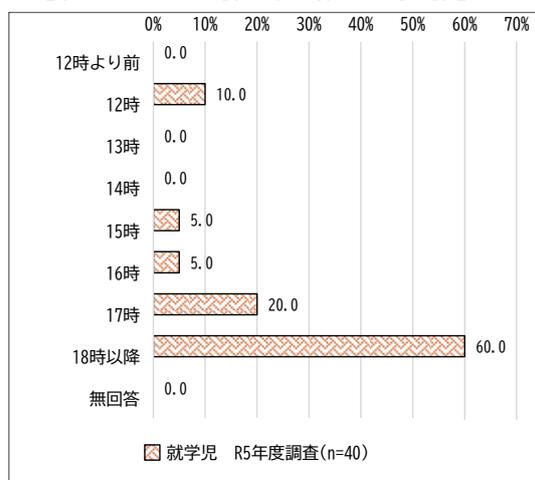
○日・祝日の希望終了時刻については、「18時以降」が 60.0%と最も高く、次いで「17時」20.0%となっています。



【利用したい時間帯（開始時刻）】



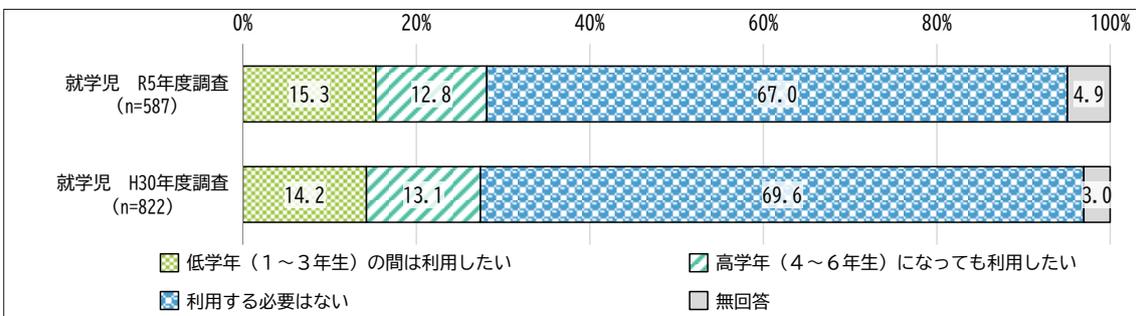
【利用したい時間帯（終了時刻）】



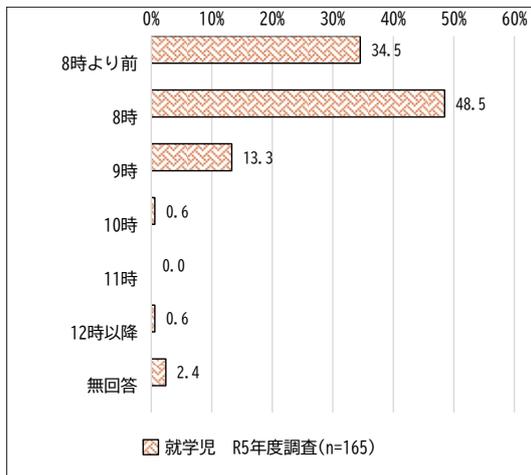
(就学児向け調査)

問15 お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。

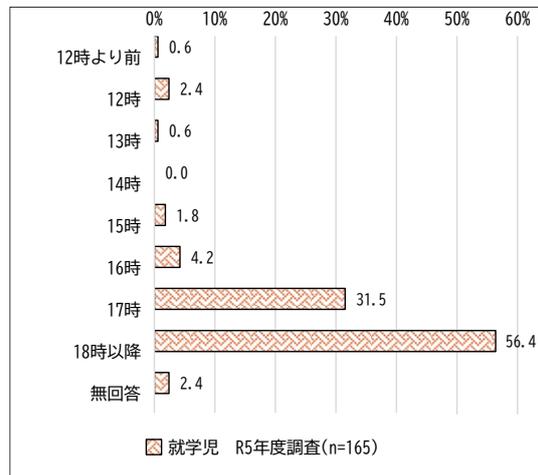
- 長期休暇中の利用希望については、「利用する必要はない」が67.0%と最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」15.3%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」12.8%となっています。
- 長期休暇中の希望開始時刻については、「8時」が48.5%と最も高く、次いで「8時より前」34.5%、「9時」13.3%となっています。
- 長期休暇中の希望終了時刻については、「18時以降」が56.4%と最も高く、次いで「17時」31.5%となっています。



【利用したい時間帯（開始時刻）】



【利用したい時間帯（終了時刻）】

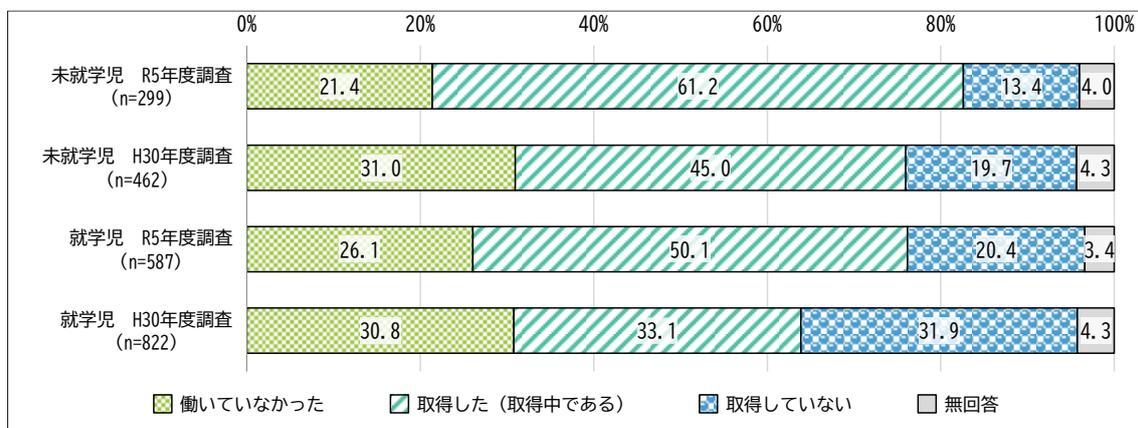


11. 育児休業など職場の両立支援制度について

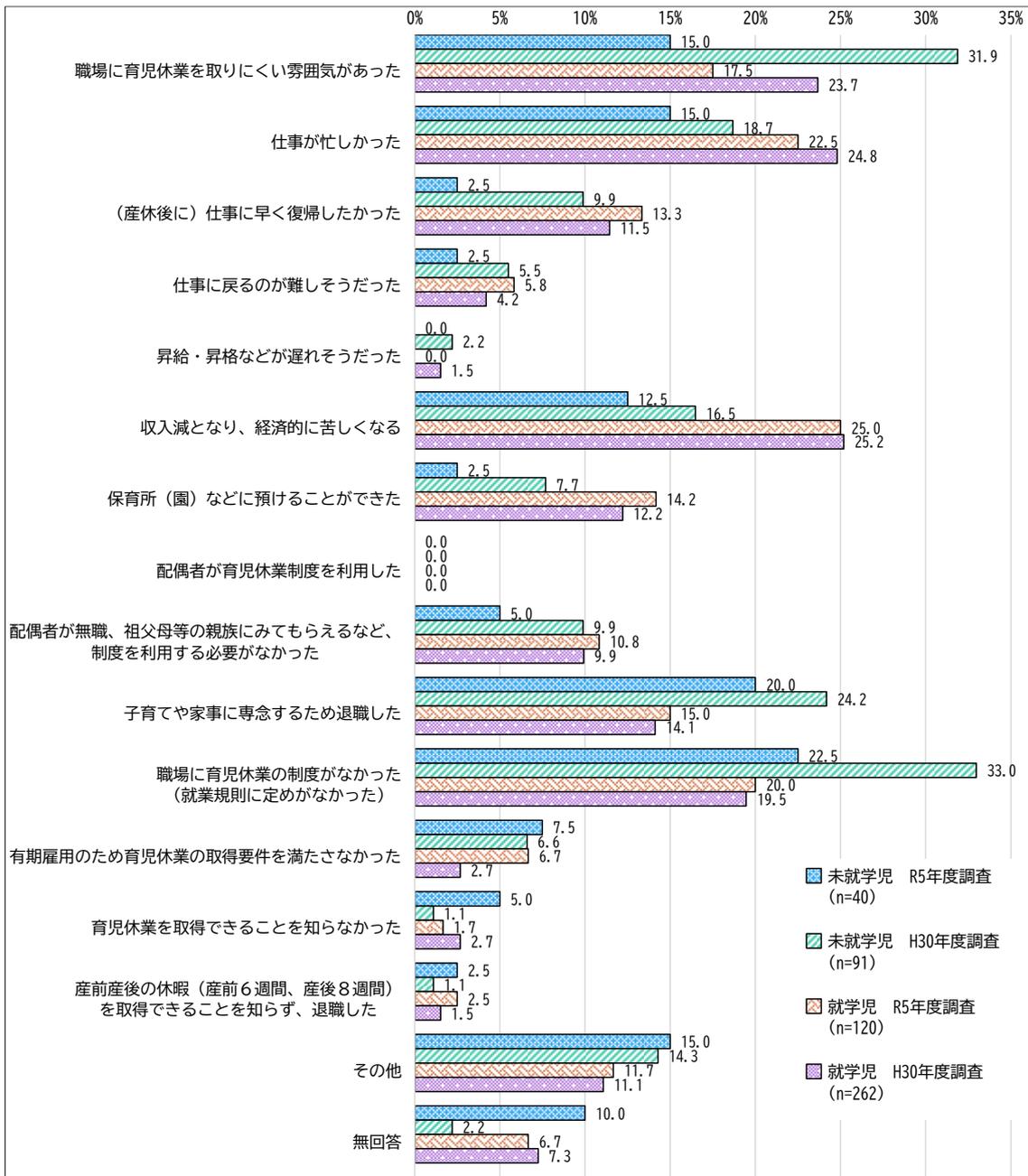
問30 お子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。

(1) 母親

- 育児休業の取得について、母親では未就学児及び就学児ともに「取得した（取得中である）」（未就学児：61.2%、就学児：50.1%）が最も高く、次いで「働いていなかった」（未就学児：21.4%、就学児：26.1%）となっています。
- 前回調査との比較をみると、未就学児及び就学児ともに「取得した（取得中である）」が15ポイント以上高くなっており、加えて未就学児では「働いていなかった」、就学児「取得していない」が10ポイント前後低くなっています。
- 取得していない理由について、未就学児では「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が22.5%、就学児では「収入減となり、経済的に苦しくなる」が25.0%と最も高くなっています。
- 前回調査との比較をみると、未就学児では「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が10ポイント以上低くなっています。

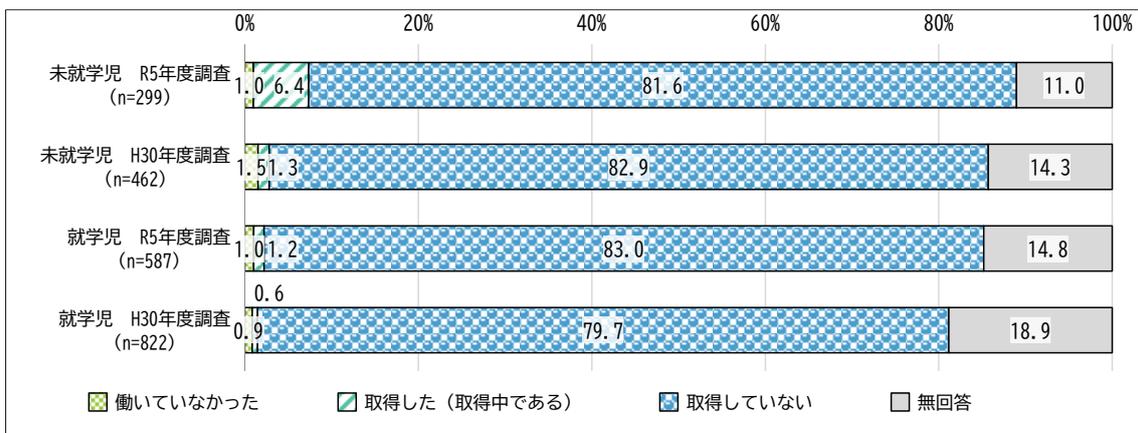


【取得していない理由】

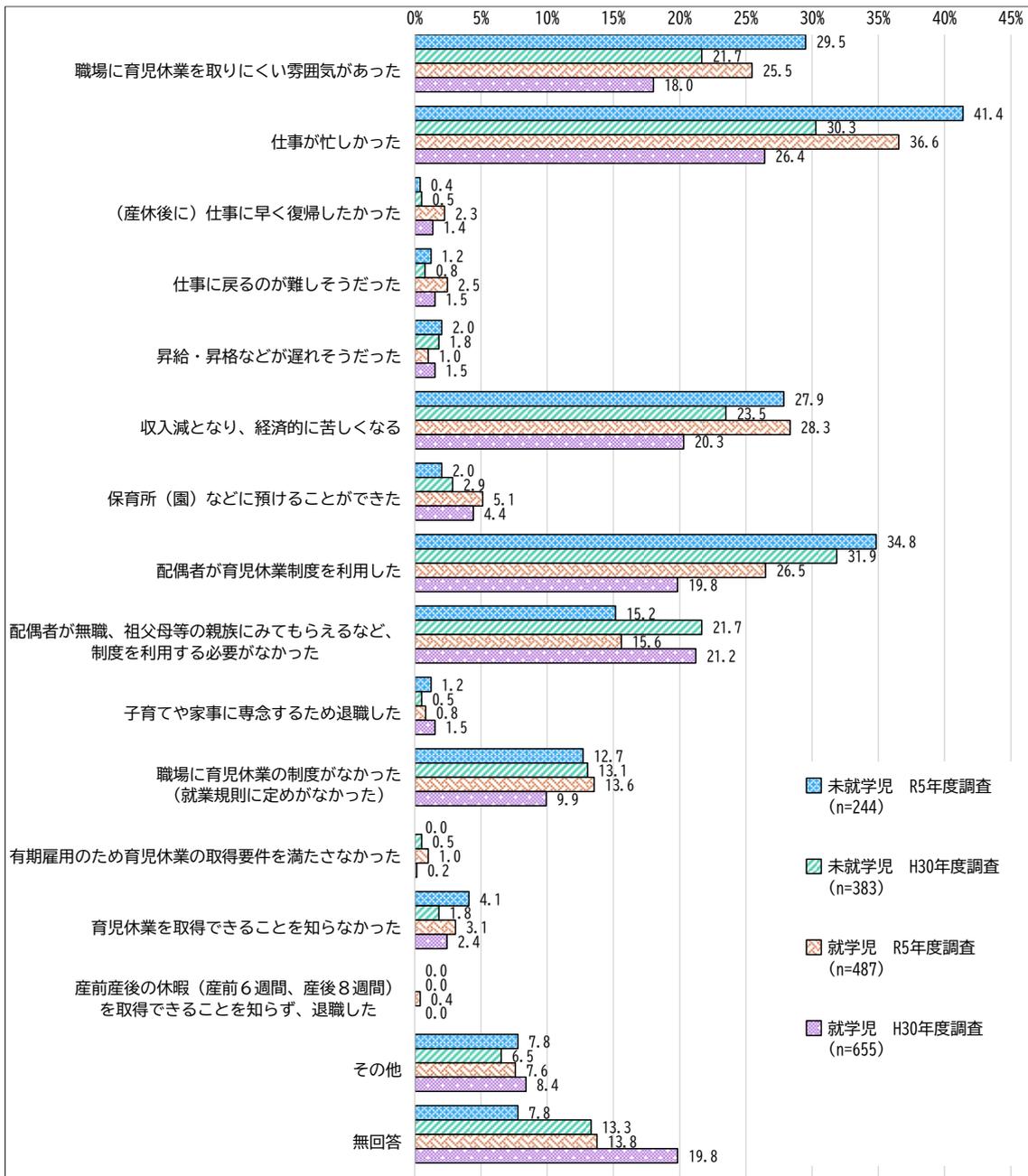


(2) 父親

- 育児休業の取得について、父親では未就学児及び就学児ともに「取得していない」（未就学児：81.6%、就学児：83.0%）が最も高く8割を超えています。
- 取得していない理由について、いずれも「仕事が忙しかった」（未就学児：41.4%、就学児：36.6%）が最も高くなっています。次いで高い割合が、未就学児では「配偶者が育児休業制度を利用した」34.8%、就学児では「収入源となり、経済的に苦しくなる」28.3%となっています。
- 前回調査との比較をみると、未就学児及び就学児ともに「仕事が忙しかった」が10ポイント以上高くなっています。

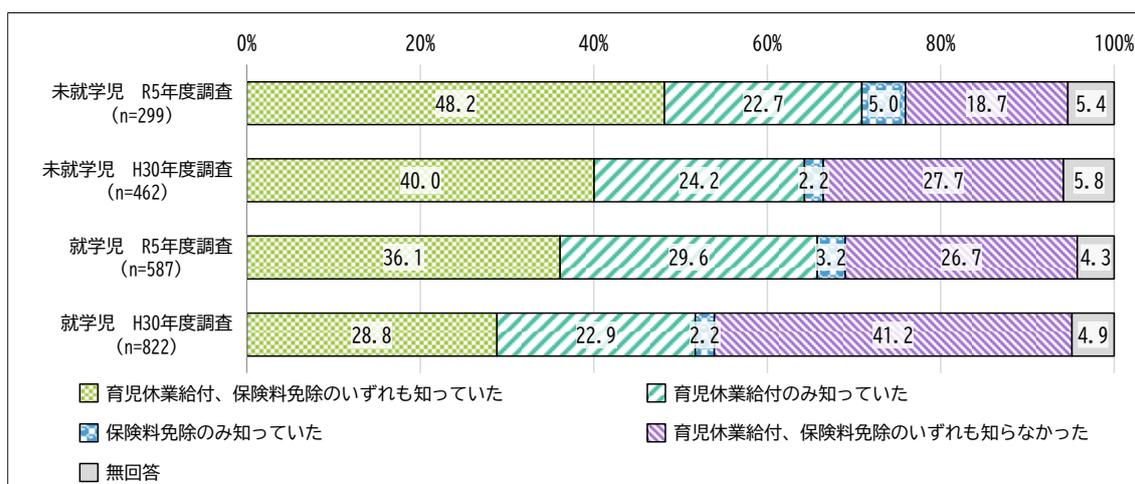


【取得していない理由】



問30-1 子どもが原則1歳（保育所における保育の実施が行われないなど一定の要件を満たす場合は1歳6月）になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等（法定の育児休業及び企業が法定を上回る期間設けた育児休業に準ずる措置）期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことをご存じでしたか。
（単数回答）

- 未就学児及び就学児ともに「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」（未就学児：48.2%、就学児：36.1%）が最も高く、次いで「育児休業給付のみ知っていた」（未就学児：22.7%、就学児：29.6%）、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」（未就学児：18.7%、就学児：26.7%）となっています。
- 前回調査との比較をみると、未就学児では「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が高く、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が低くなっており、10ポイント近く差が生じています。また、就学児では「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が14.5ポイント低くなっています。

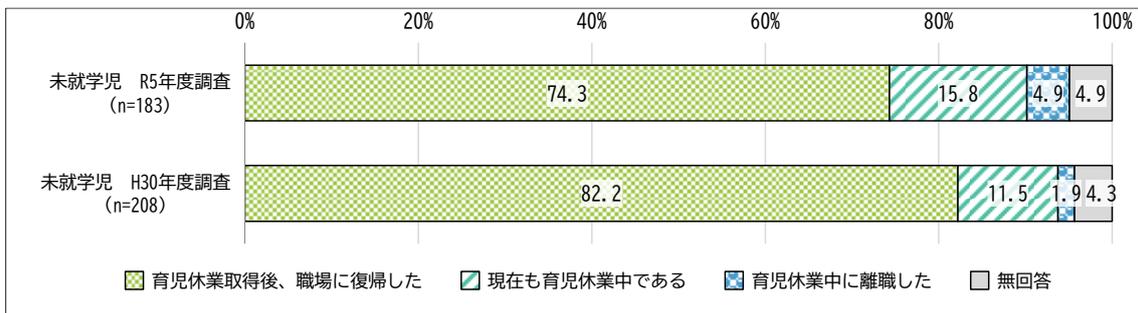


問30-2 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。（単数回答）

(1) 母親

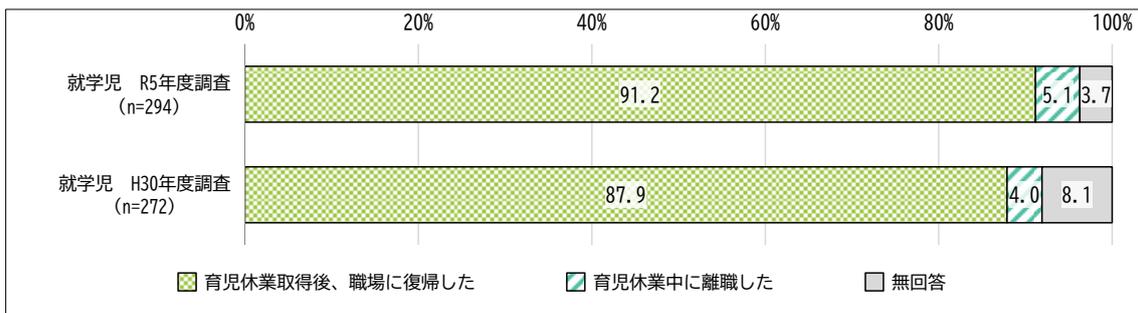
◆未就学児

○未就学児の母親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が74.3%と最も高く、次いで「現在も育児休業中である」15.8%、「育児休業中に離職した」4.9%となっています。



◆就学児

○就学児の母親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が91.2%と9割を超えており、「育児休業中に離職した」が5.1%となっています。

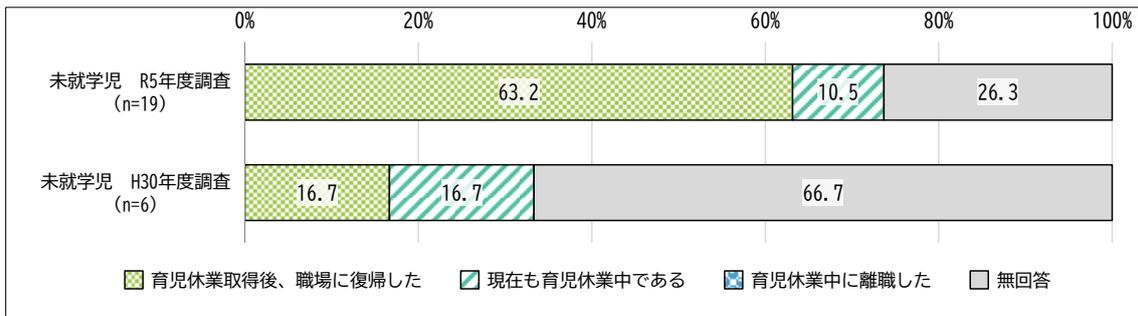


(2) 父親

◆未就学児

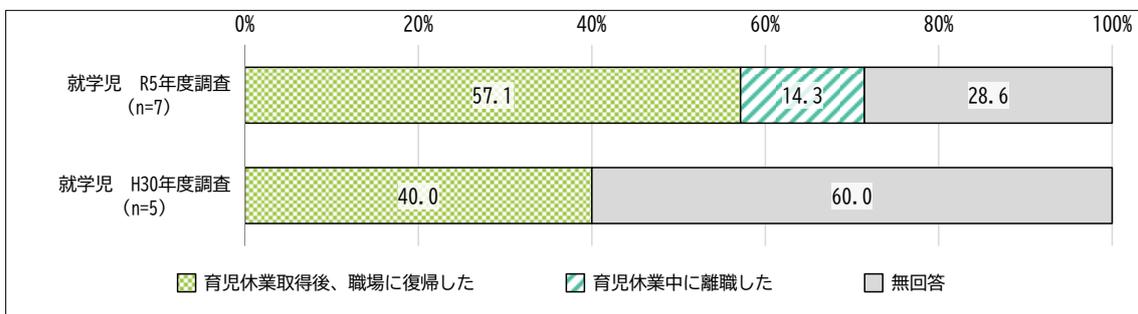
○未就学児の父親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が63.2%と最も高く、次いで「現在も育児休業中である」10.5%となっています。

○前回調査との比較については、前回調査のサンプル数が少ないため参考程度。



◆就学児

○就学児の父親については、サンプル数が少ないため参考程度。

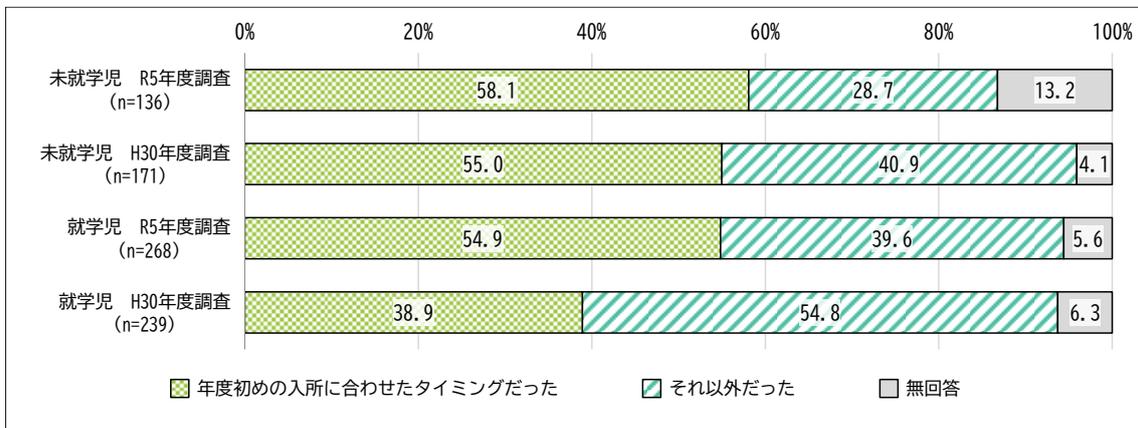


問30-2で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方にうかがいます。

問30-3 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。(単数回答)

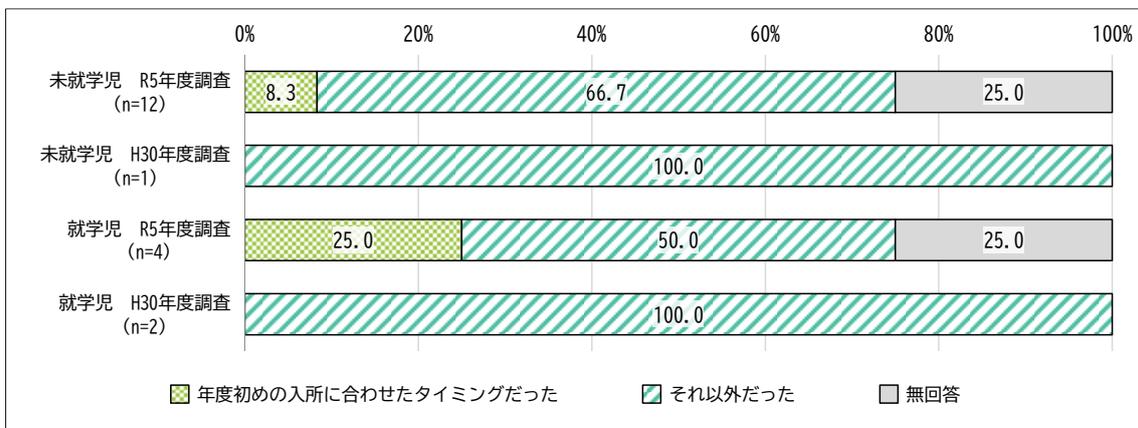
(1) 母親

- 母親の職場復帰のタイミングについて、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」(未就学児：58.1%、就学児：54.9%)、「それ以外だった」(未就学児：28.7%、就学児：39.6%)となっています。
- 前回調査との比較をみると、未就学児及び就学児ともに「それ以外だった」が10ポイント以上低くなっています。加えて、就学児では「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が16.0ポイント高くなっています。



(2) 父親

- 父親の職場復帰のタイミングについては、サンプル数が少ないため参考程度。



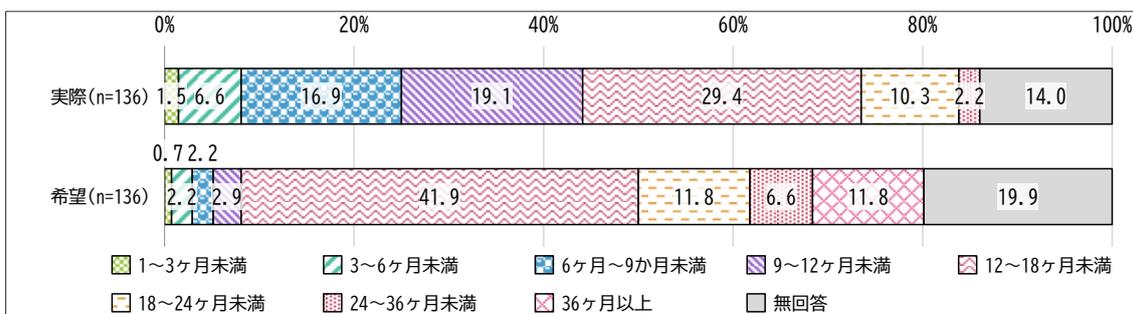
問30-2で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方にうかがいます。

問30-4 育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか

(1) 母親

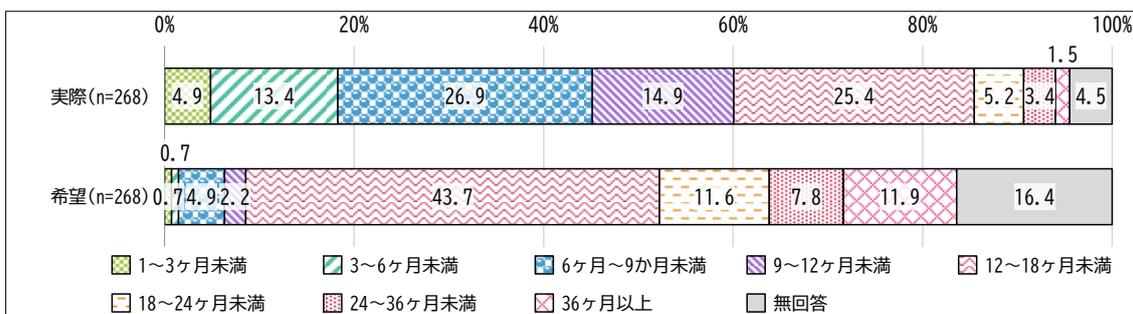
◆未就学児

- 職場復帰時の実際の子どもの年齢について、未就学児の母親では、「12～18ヶ月未満」が29.4%と最も高く、次いで「9～12ヶ月未満」19.1%、「6ヶ月～9か月未満」16.9%となっています。
- 希望する子どもの年齢では、「12～18ヶ月未満」が41.9%と最も高く、次いで「18～24ヶ月未満」「36ヶ月以上」がともに11.8%となっています。



◆就学児

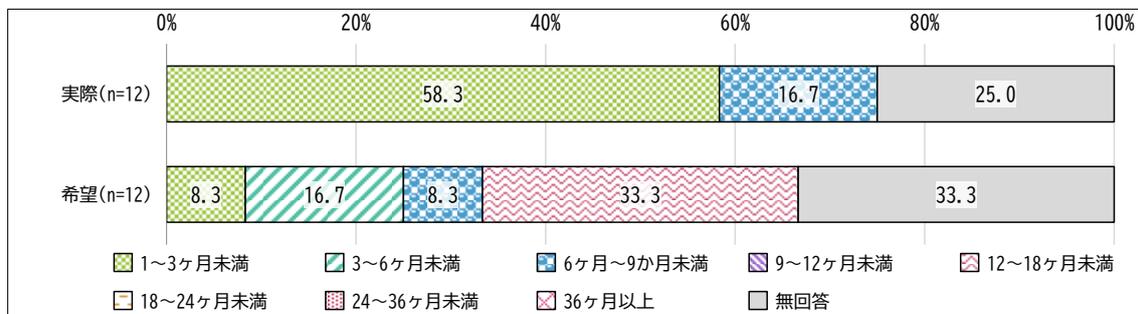
- 職場復帰時の実際の子どもの年齢について、就学児の母親では、「6ヶ月～9か月未満」が26.9%と最も高く、次いで「12～18ヶ月未満」25.4%、「9～12ヶ月未満」14.9%となっています。
- 希望する子どもの年齢では、「12～18ヶ月未満」が43.7%と最も高く、次いで「36ヶ月以上」11.9%、「18～24ヶ月未満」11.6%となっています。



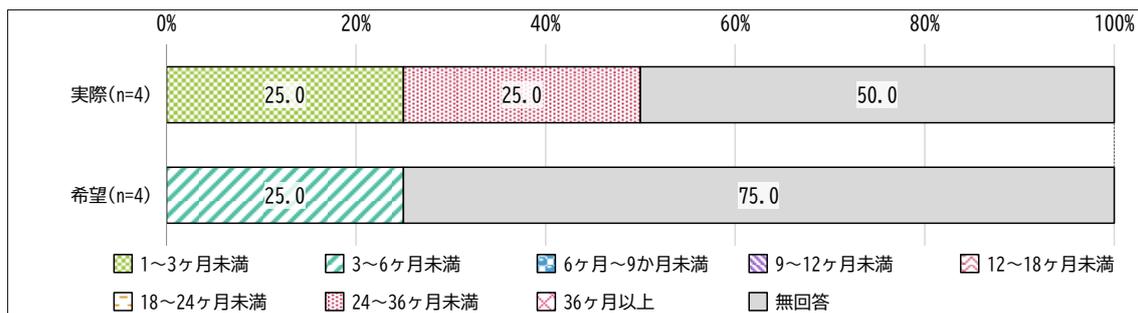
(2) 父親

◆未就学児

○職場復帰時の子どもの年齢については、未就学児及び就学児ともに父親のサンプル数が少ないため参考程度。



◆就学児

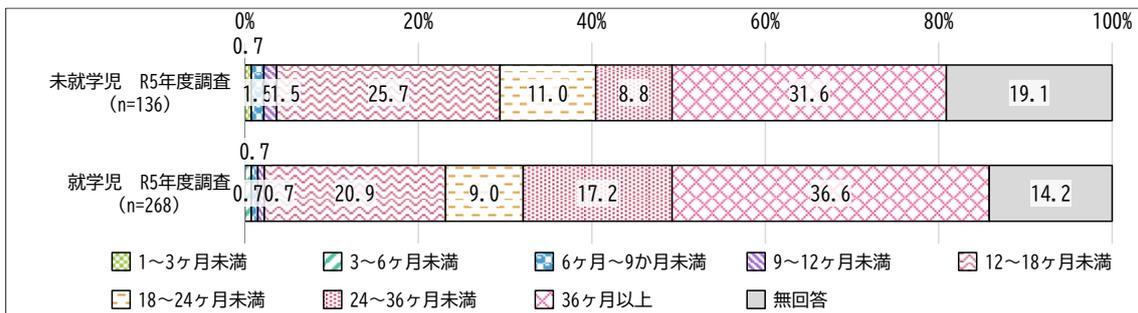


問30-2で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方にうかがいます。

問30-5 お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月の時まで取りたかったですか。

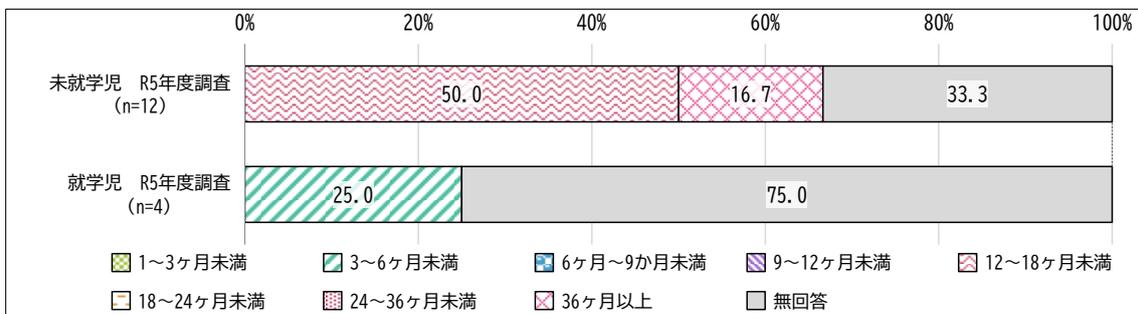
(1) 母親

○母親では、未就学児及び就学児ともに「36ヶ月以上」（未就学児：31.6%、就学児：36.6%）が最も高く、次いで「12～18ヶ月未満」（未就学児：25.7%、就学児：20.9%）となっています。



(2) 父親

○父親については、未就学児及び就学児ともにサンプル数が少ないため参考程度。



問30-4で実際の取得期間と希望が異なる方にうかがいます。

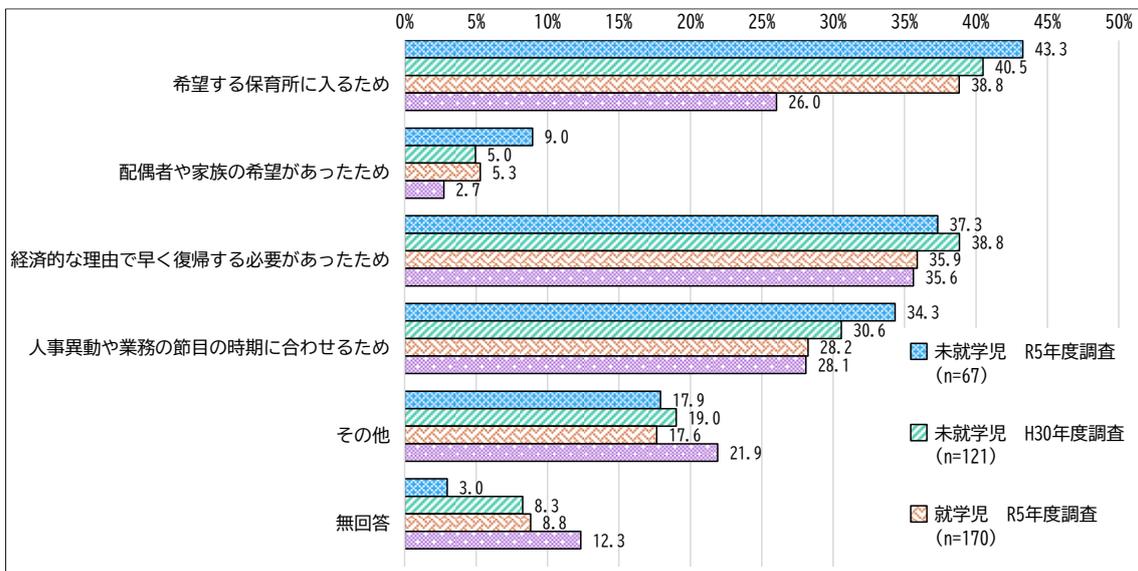
問30-6 希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。

(1)「希望」より早く復帰した方

①母親

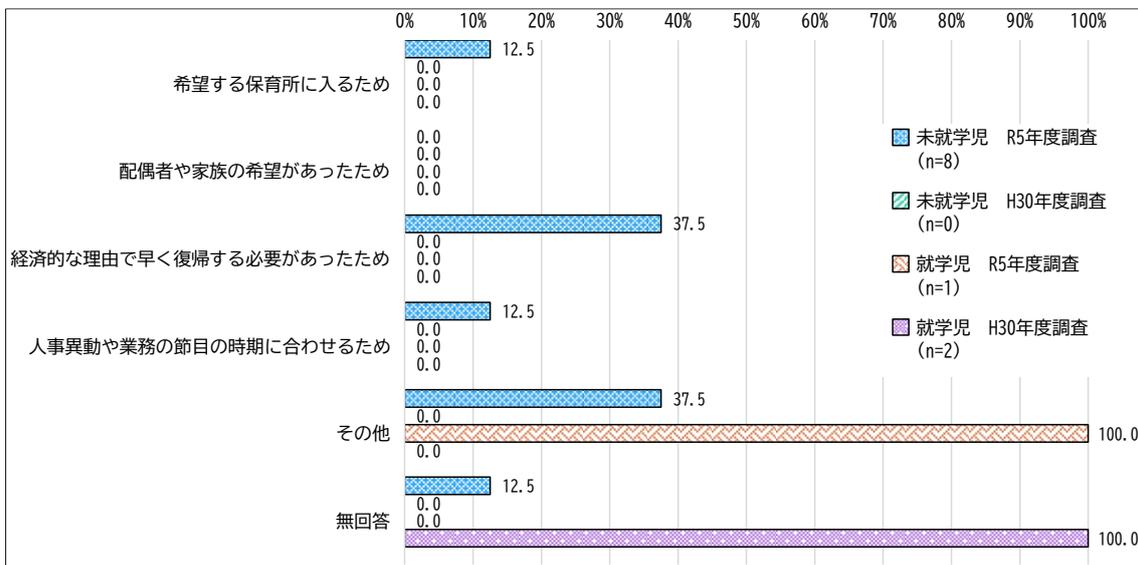
○母親では、未就学児及び就学児ともに「希望する保育所に入るため」（未就学児：43.3%、就学児：38.8%）が最も高く、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」（未就学児：37.3%、就学児：35.9%）、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」（未就学児：34.3%、就学児：28.2%）となっています。

○前回調査との比較をみると、就学児では「希望する保育所に入るため」が12.8ポイント高くなっています。



②父親

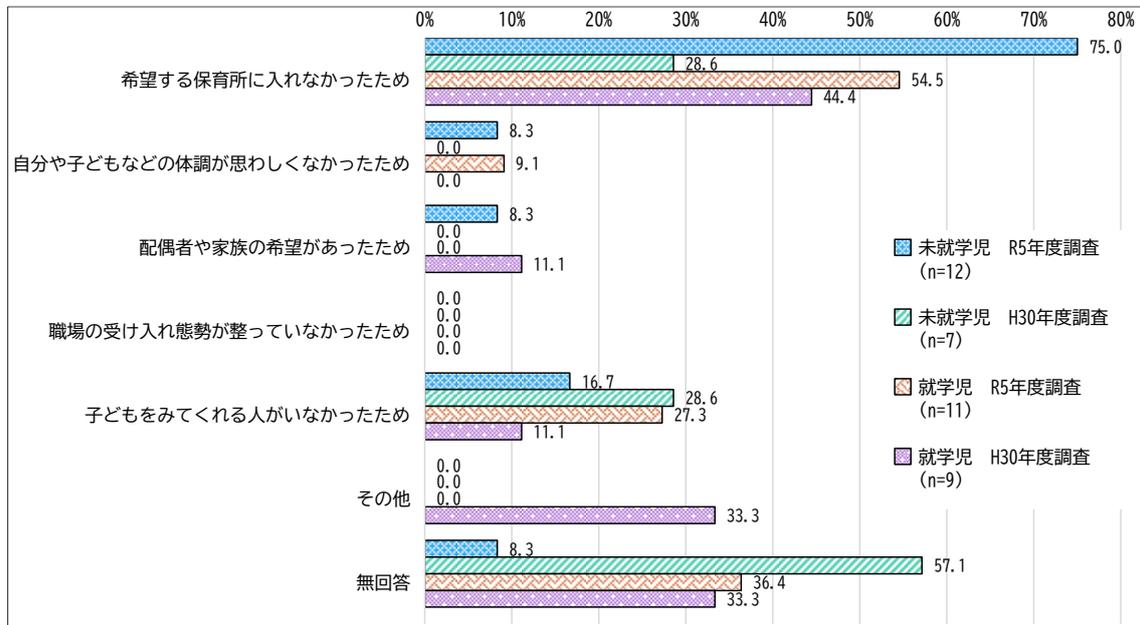
○父親については、サンプル数が少ないため参考程度。



(2)「希望」より遅く復帰した方

①母親

○母親については、サンプル数が少ないため参考程度。



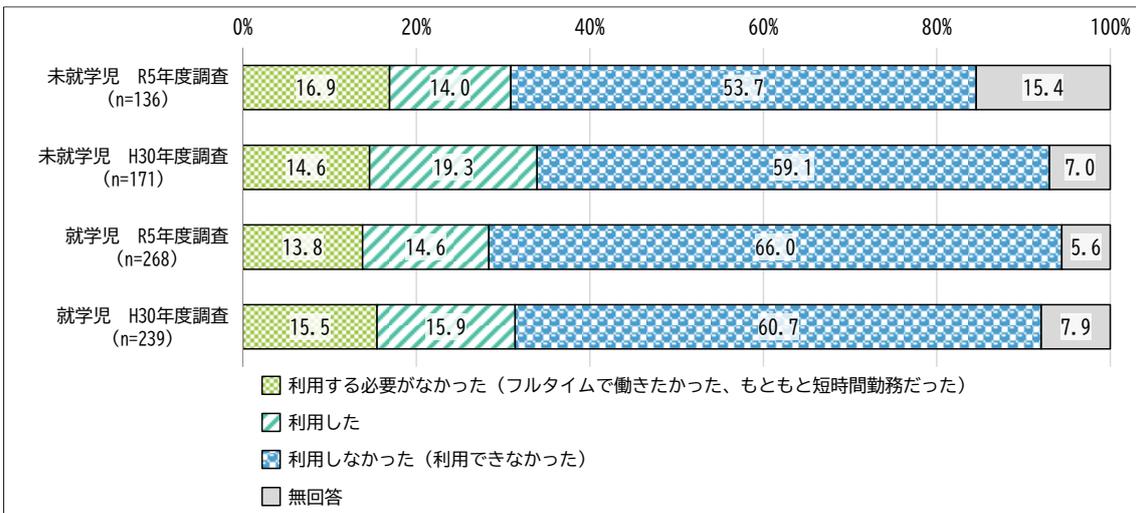
②父親

○父親については、回答者なし。

問30-7 育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。

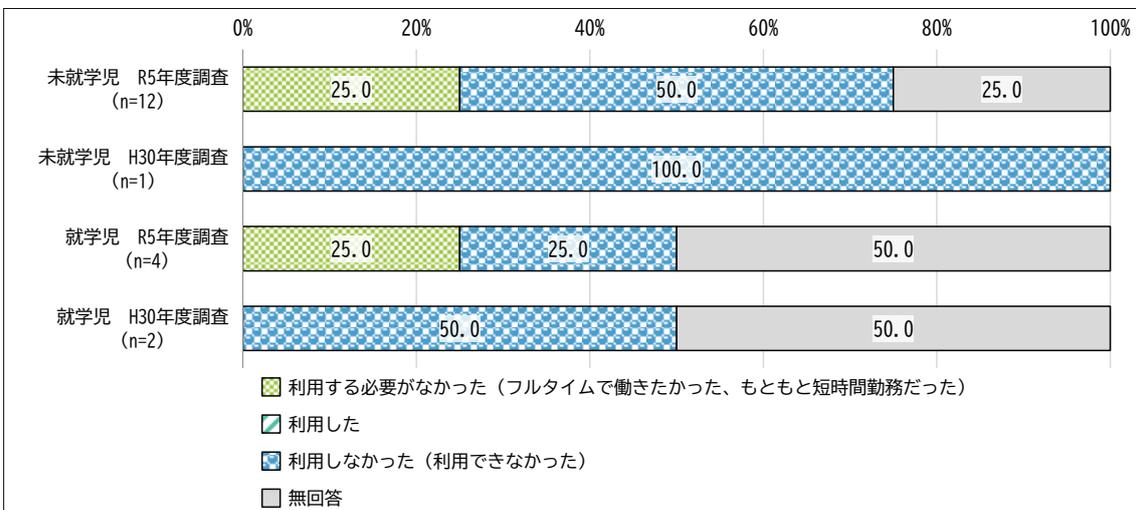
(1) 母親

○母親では、未就学児及び就学児ともに「利用しなかった（利用できなかった）」（未就学児：53.7%、就学児：66.0%）が最も高くなっています。次いで高い割合が、未就学児では「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）」16.9%、就学児では「利用した」14.6%となっています。



(2) 父親

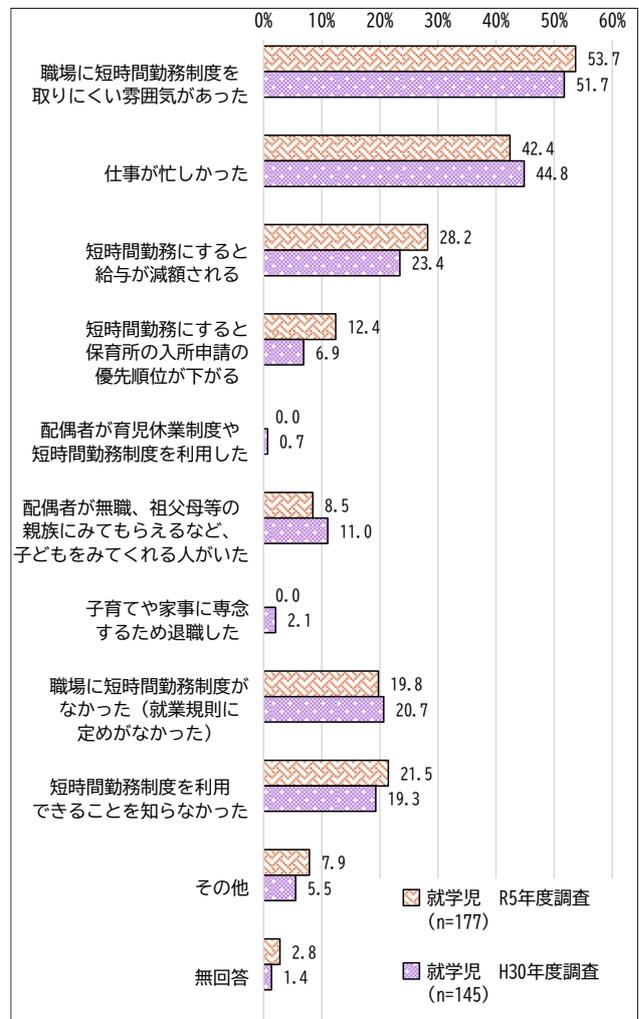
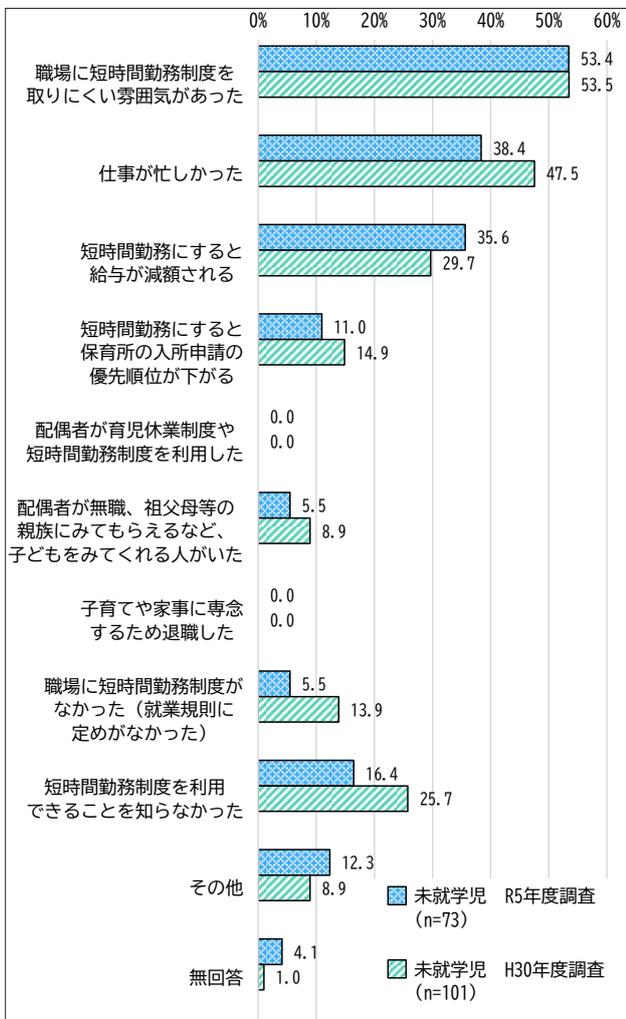
○父親については、サンプル数が少ないため参考程度。



問30-8 短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由は何ですか。
（複数回答）

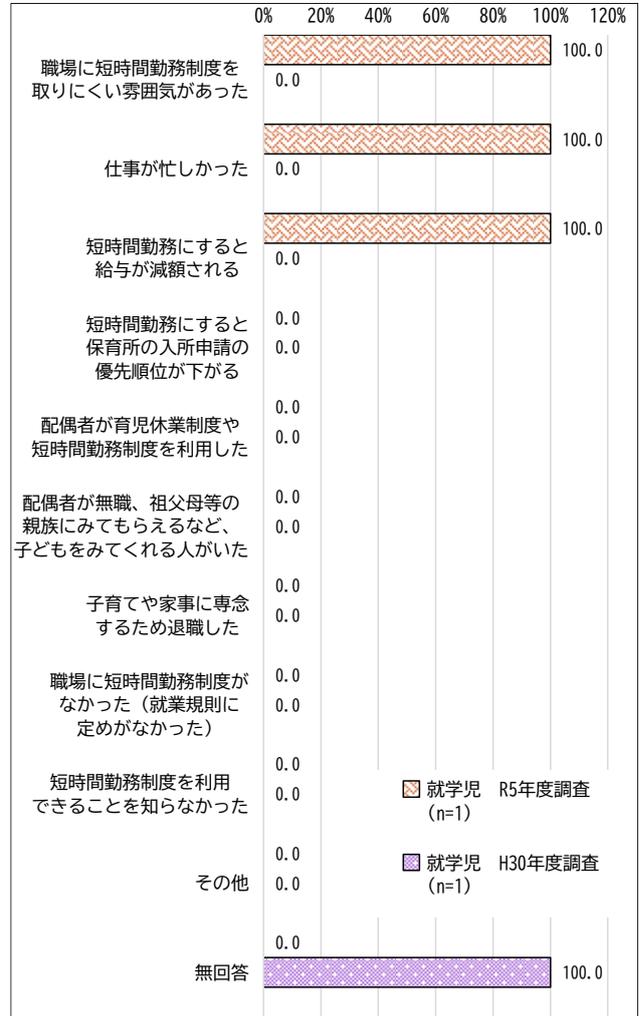
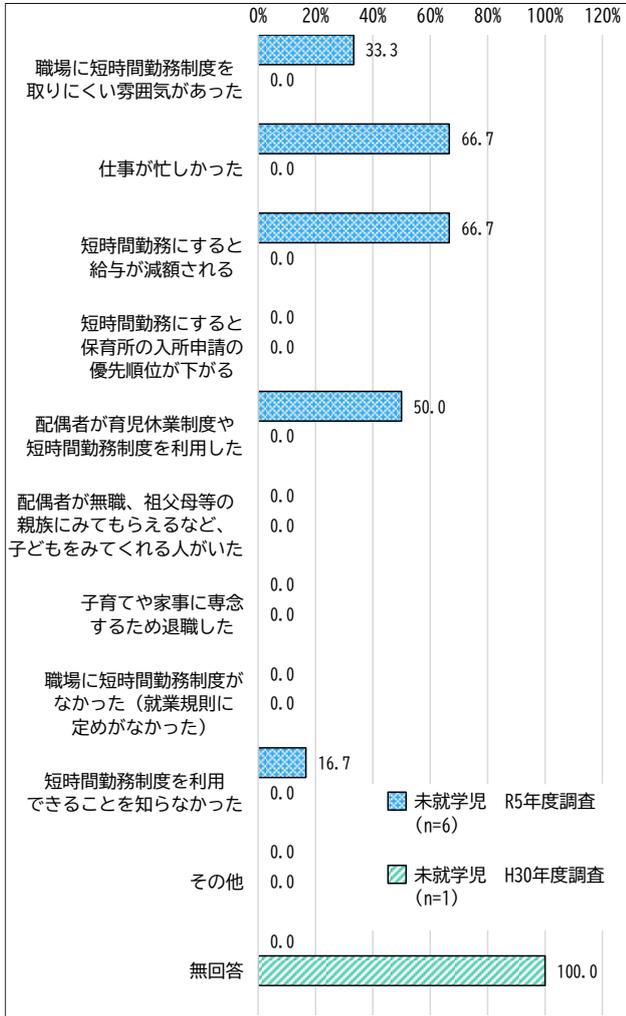
（1）母親

- 母親では、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」（未就学児：53.4%、就学児：53.7%）が最も高く、次いで「仕事が忙しかった」（未就学児：38.4%、就学児：42.4%）、「短時間勤務にすると給与が減額される」（未就学児：35.6%、就学児：28.2%）%となっています。
- 前回調査との比較をみると、未就学児では「仕事が忙しかった」「短時間勤務制度を利用できることを知らなかった」が9ポイント以上低くなっています。



(2) 父親

○父親については、サンプル数が少ないため参考程度。

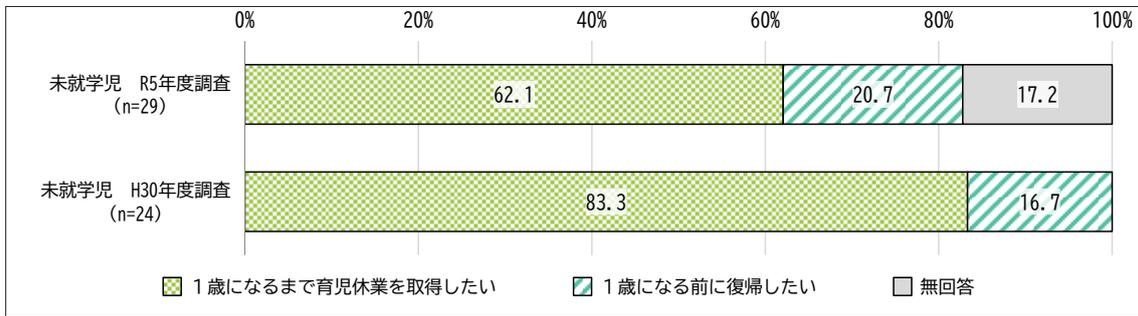


問30-9 お子さんが1歳になったときに必ず預けられる保育所などがあれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。(単数回答)

(1) 母親

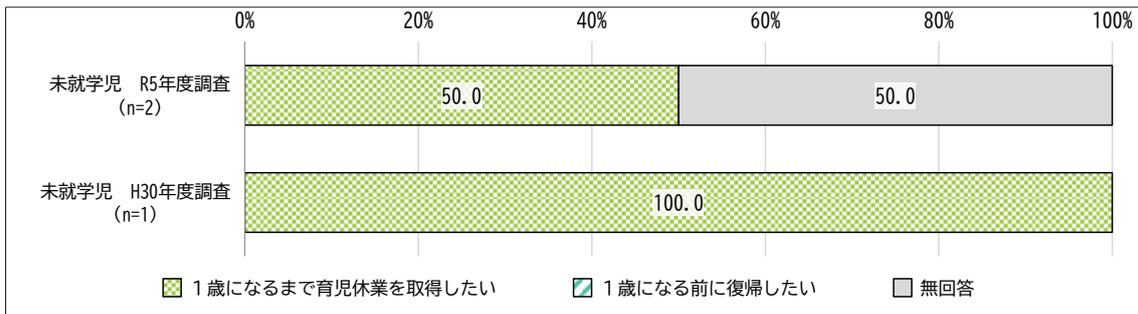
○母親では、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が62.1%、「1歳になる前に復帰したい」20.7%となっています。

○前回調査との比較では、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が21.2ポイント低くなっています。



(2) 父親

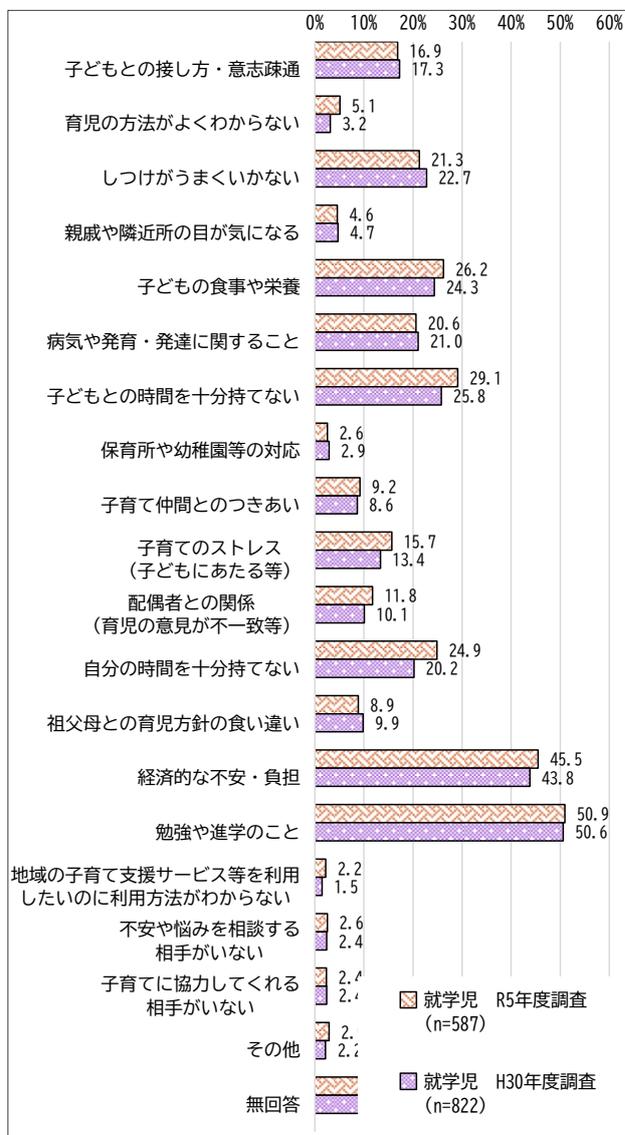
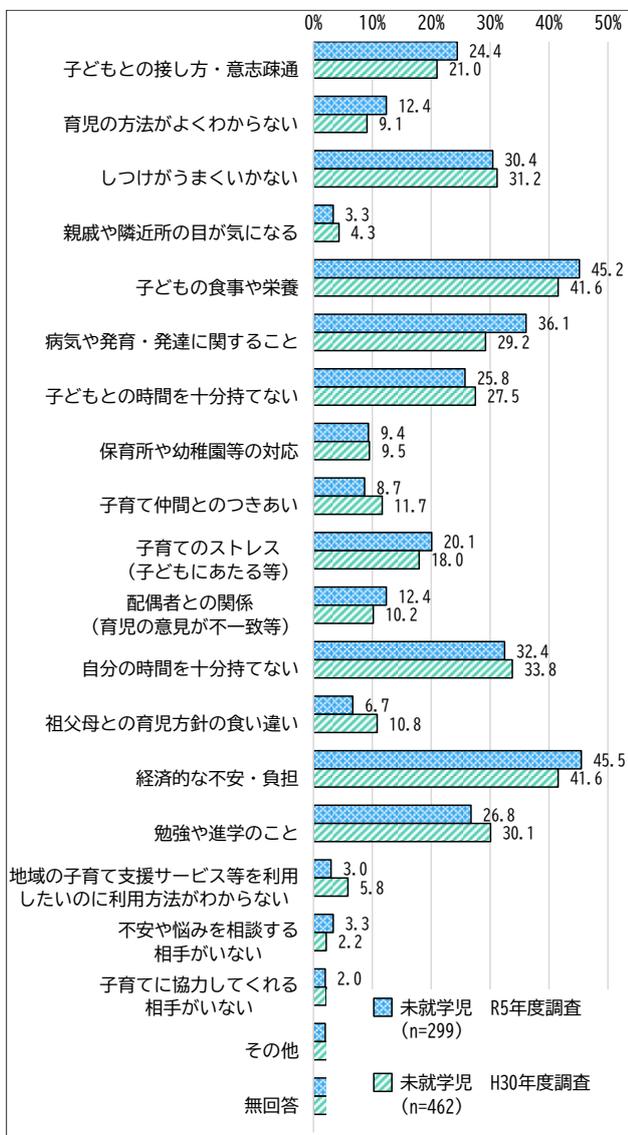
○父親については、サンプル数が少ないため参考程度。



12. 子育てに関する悩みなどについて

問31 あなたは、子育てをする上でどのような不安や悩みを持っていますか。 (複数回答)

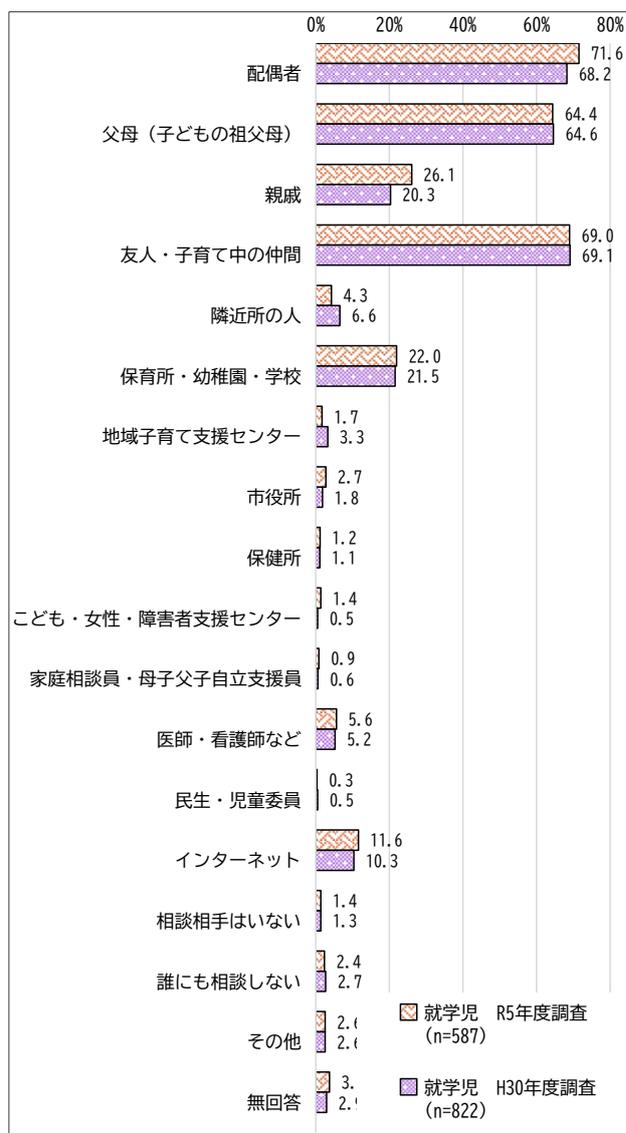
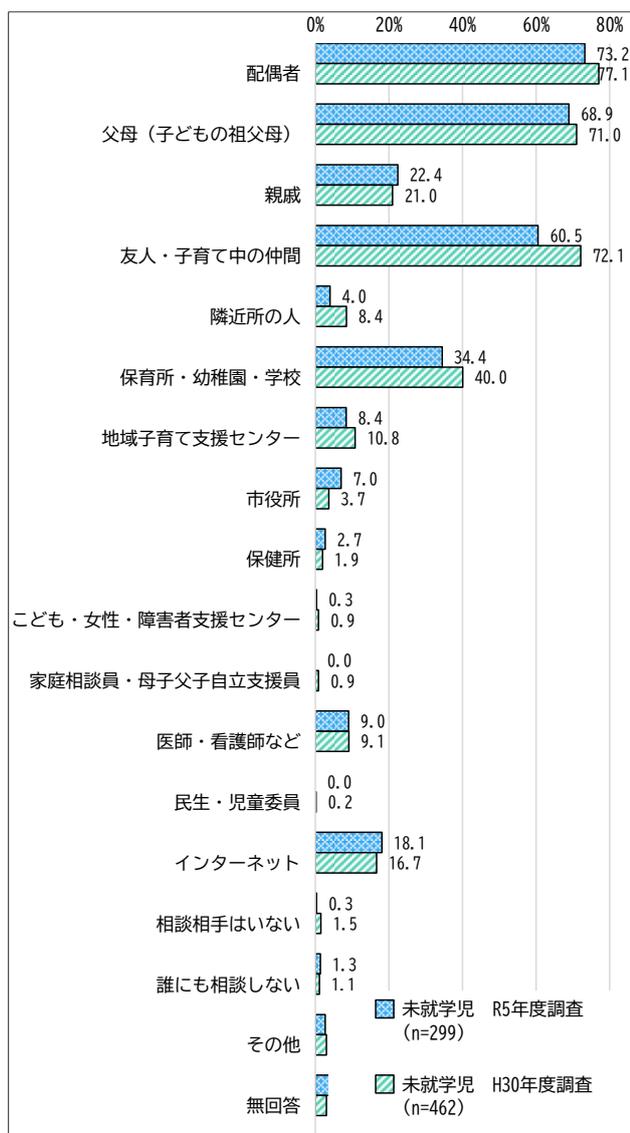
- 未就学児では、「経済的な不安・負担」が45.5%と最も高く、次いで「子どもの食事や栄養」45.2%、「病気や発育・発達に関すること」36.1%となっています。
- 就学児では、「勉強や進学のこと」が50.9%と最も高く、次いで「経済的な不安・負担」45.5%、「子どもとの時間を十分持てない」29.1%となっています。



問3 2 子育てをする上でどのような不安や悩みについて、相談場所・相談相手はどのようなところですか。(複数回答)

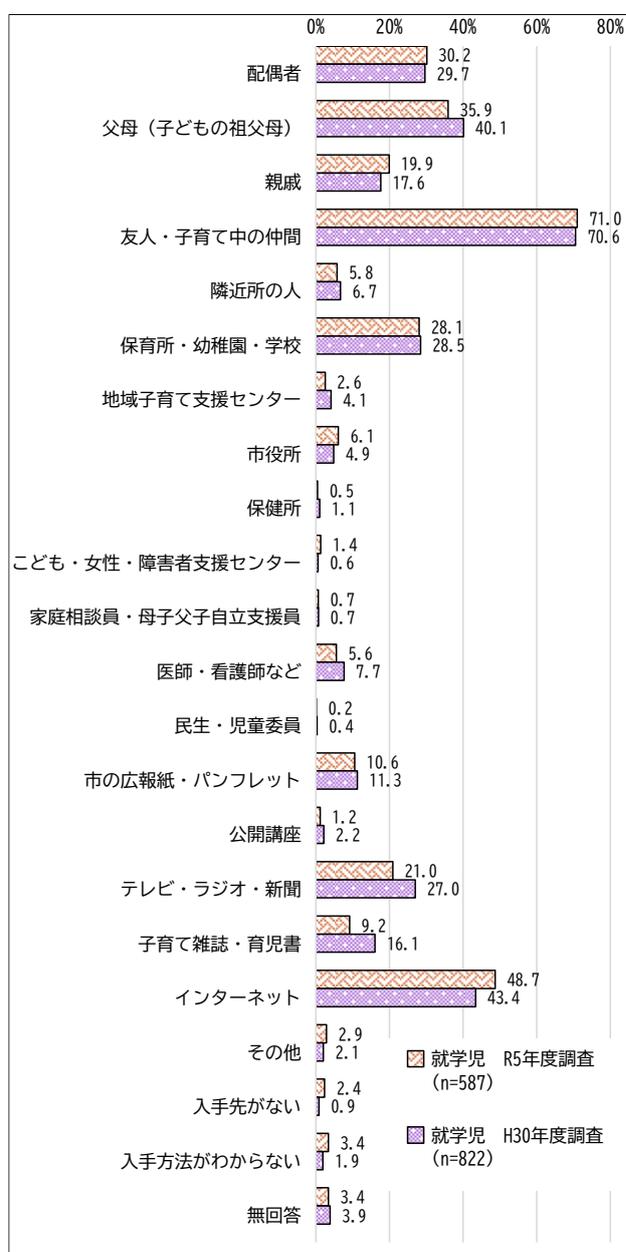
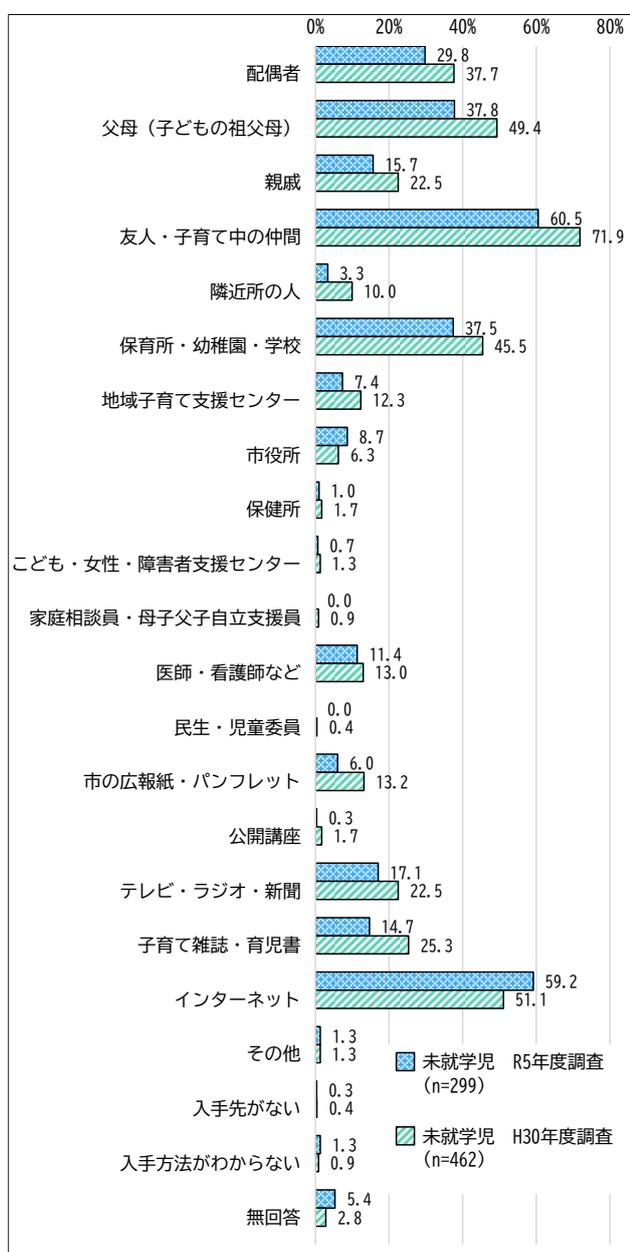
○未就学児及び就学児ともに、「配偶者」(未就学児：73.2%、就学児：71.6%)が最も高くなっており、「父母(子どもの祖父母)」(未就学児：68.9%、就学児：64.4%)、「友人・子育て中の仲間」(未就学児：60.5%、就学児：69.0%)も6割を超えて高くなっています。

○前回調査との比較をみると、未就学児では「友人・子育て中の仲間」が11.6ポイント低くなっています。



問 3 3 子育ての役立つ情報は誰からまたどこから得ることが多いですか。 (複数回答)

- 未就学児では、「友人・子育て中の仲間」が 60.5%と最も高く、次いで「インターネット」59.2%、「父母（子どもの祖父母）」37.8%となっています。
- 就学児では、「友人・子育て中の仲間」が 71.0%と最も高く、次いで「インターネット」48.7%、「父母（子どもの祖父母）」35.9%となっています。
- 前回調査との比較をみると、未就学児では「父母（子どもの祖父母）」、「友人・子育て中の仲間」が 10 ポイント程度低くなっています。

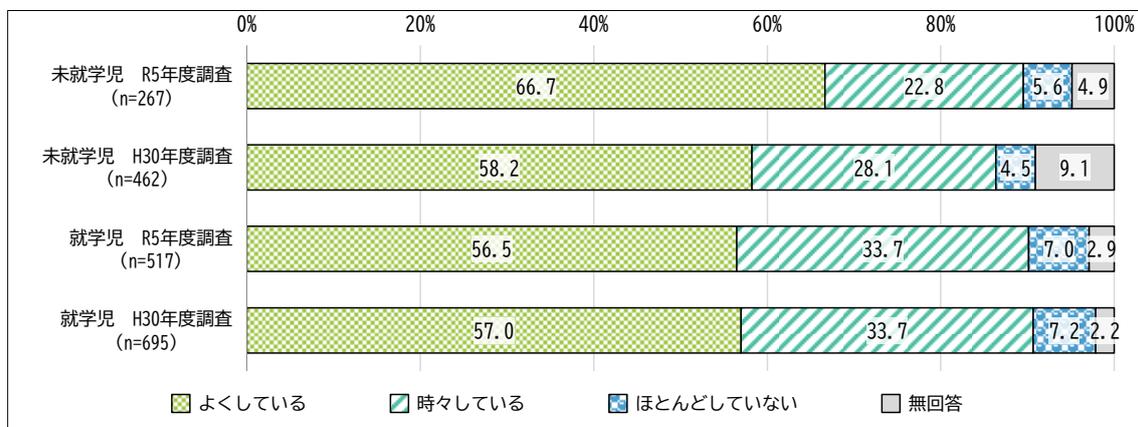


13. 家庭での子育て、家庭と就労の両立について

問34 お父さんは育児に参加していますか。(単数回答)

○未就学児及び就学児ともに「よくしている」(未就学児：66.7%、就学児：56.5%)が最も高く、「時々している」(未就学児：22.8%、就学児：33.7%)、「ほとんどしていない」(未就学児：5.6%、就学児：7.0%)となっています。

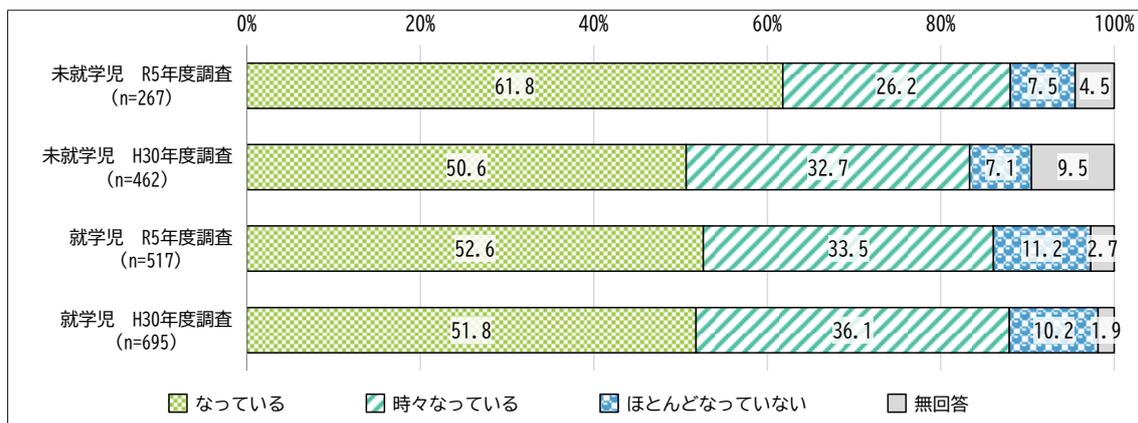
○未就学児及び就学児ともに「父親が育児参加している：よくしている+時々している」が9割前後と高い割合を占めています。



問35 お父さんはお母さんの相談相手・精神的な支えになっていますか。(単数回答)

○未就学児及び就学児ともに「なっている」(未就学児：61.8%、就学児：52.6%)が最も高く、「時々なっている」(未就学児：26.2%、就学児：33.5%)、「ほとんどなっていない」(未就学児：7.5%、就学児：11.2%)となっています。

○未就学児及び就学児ともに「父親が母親の相談相手・支えになっている：なっている+時々なっている」が8割を超えて高くなっています。

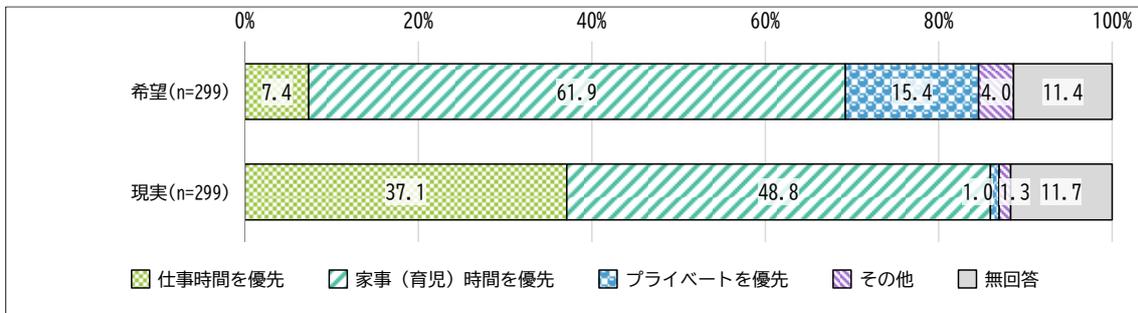


問36 あなたの生活の中での「仕事時間」と「家事（育児）」「プライベートの生活時間」の優先度についてうかがいます。（単数回答）

(1) 母親

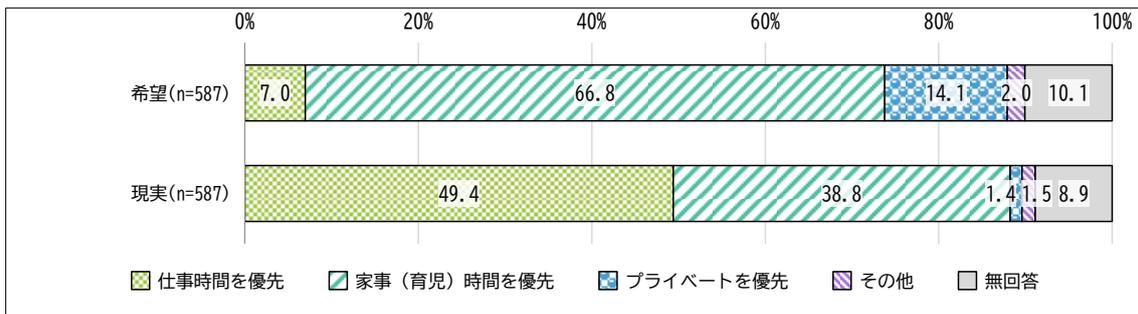
◆未就学児

- 未就学児の母親の希望では、「家事（育児）時間を優先」が61.9%と最も高く、次いで「プライベートを優先」15.4%、「仕事時間を優先」7.4%となっています。
- 現実では、「家事（育児）時間を優先」が48.8%と最も高く、次いで「仕事時間を優先」37.1%、「その他」1.3%となっています。
- 希望と現実の比較をみると、どちらも「家事（育児）時間を優先」が最も高く、次いで高い割合が希望では「プライベートを優先」となっているものの、現実では3割強が「仕事時間を優先」と回答しています。



◆就学児

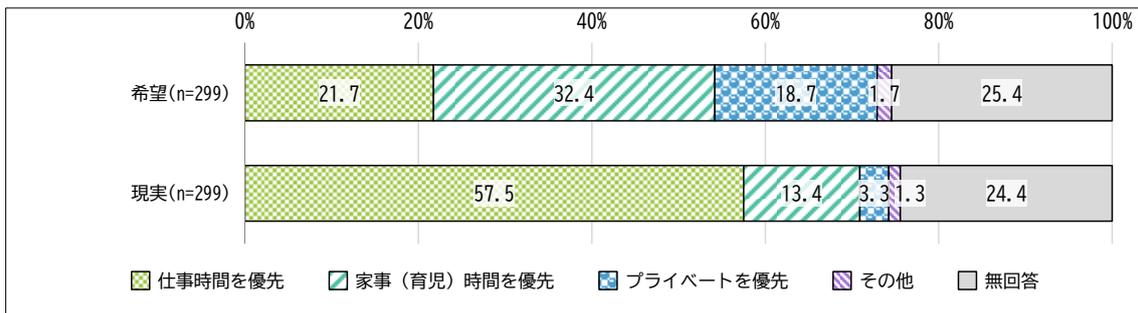
- 就学児の母親の希望では、「家事（育児）時間を優先」が66.8%と最も高く、次いで「プライベートを優先」14.1%、「仕事時間を優先」7.0%となっています。
- 現実では、「仕事時間を優先」が49.4%と最も高く、次いで「家事（育児）時間を優先」38.8%、「その他」1.5%となっています。
- 希望と現実の比較をみると、希望では「家事（育児）時間を優先」の割合が最も高く6割を占めているものの、現実では約5割が「仕事時間を優先」と回答しています。



(2) 父親

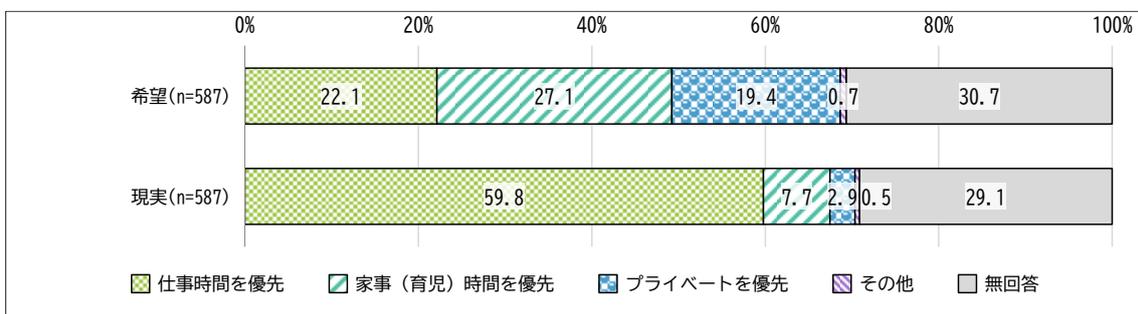
◆未就学児

- 未就学児の父親の希望では、「家事（育児）時間を優先」が 32.4%と最も高く、次いで「仕事を優先」21.7%、「プライベートを優先」18.7%となっています。
- 現実では、「仕事を優先」が 57.5%と最も高く、次いで「家事（育児）時間を優先」が13.4%、「プライベートを優先」3.3%となっています。
- 希望と現実の比較をみると、希望では「家事（育児）時間を優先」の割合が最も高いものの、現実では6割弱が「仕事を優先」と回答しています。



◆就学児

- 就学児の父親の希望では、「家事（育児）時間を優先」が 27.1%と最も高く、次いで「仕事を優先」22.1%、「プライベートを優先」19.4%となっています。
- 現実では、「仕事を優先」が 59.8%と最も高く、次いで「家事（育児）時間を優先」が7.7%、「プライベートを優先」2.9%となっています。
- 希望と現実の比較をみると、希望では「家事（育児）時間を優先」の割合が最も高いものの、現実では約6割が「仕事を優先」と回答しています。



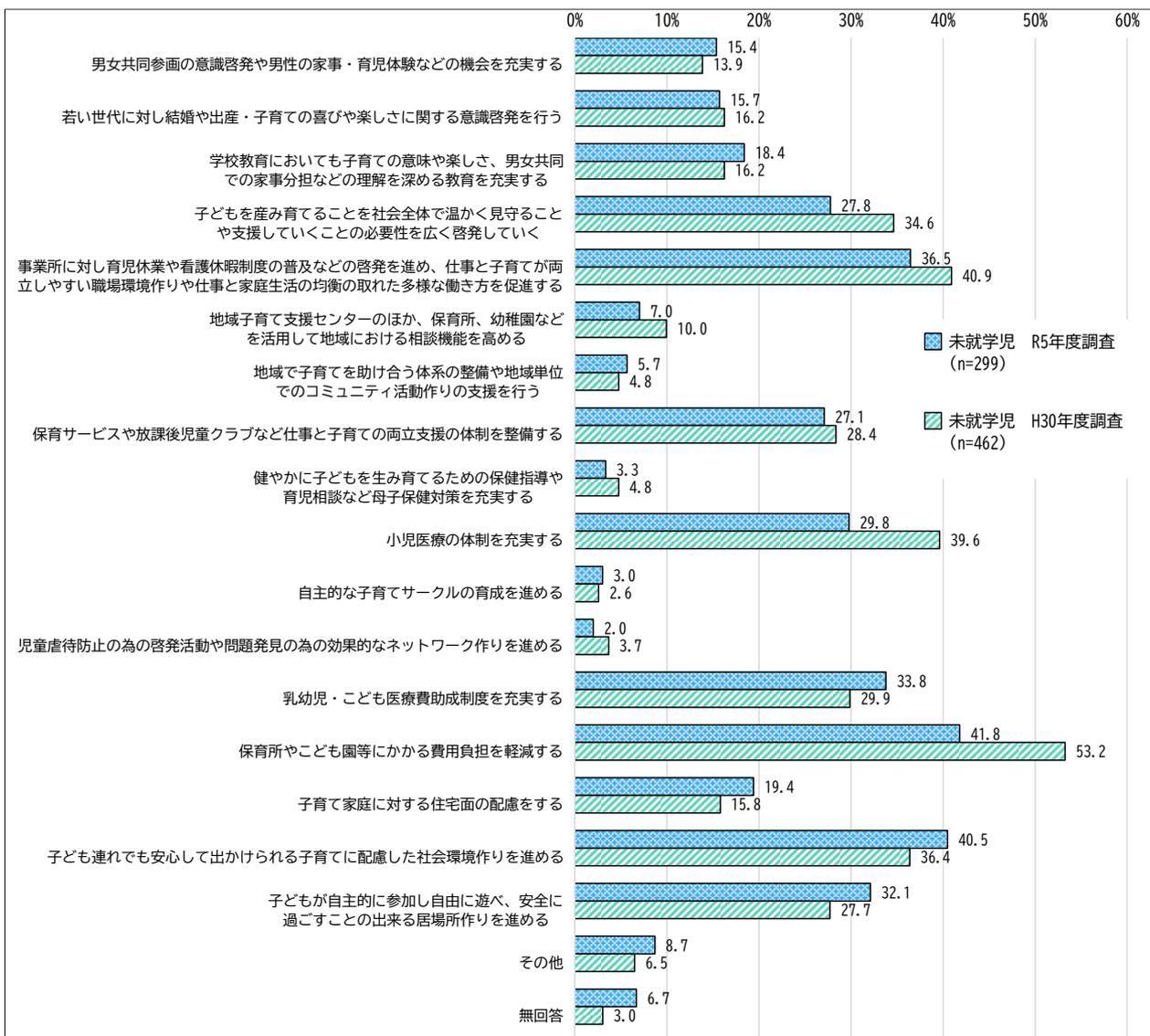
14. 子育て支援策について

問37 少子化の流れを変えるためには、市として今後どのような子育て支援に取り組むことが最も重要だと思いますか。(複数回答)

◆未就学児

○未就学児では「保育所やこども園等にかかる費用負担を軽減する」が41.8%と最も高く、次いで「子ども連れでも安心して出かけられる子育てに配慮した社会環境作りを進める」40.5%、「事業所に対し育児休業や看護休暇制度の普及などの啓発を進め、仕事と子育てが両立しやすい職場環境作りや仕事と家庭生活の均衡の取れた多様な働き方を促進する」36.5%となっています。

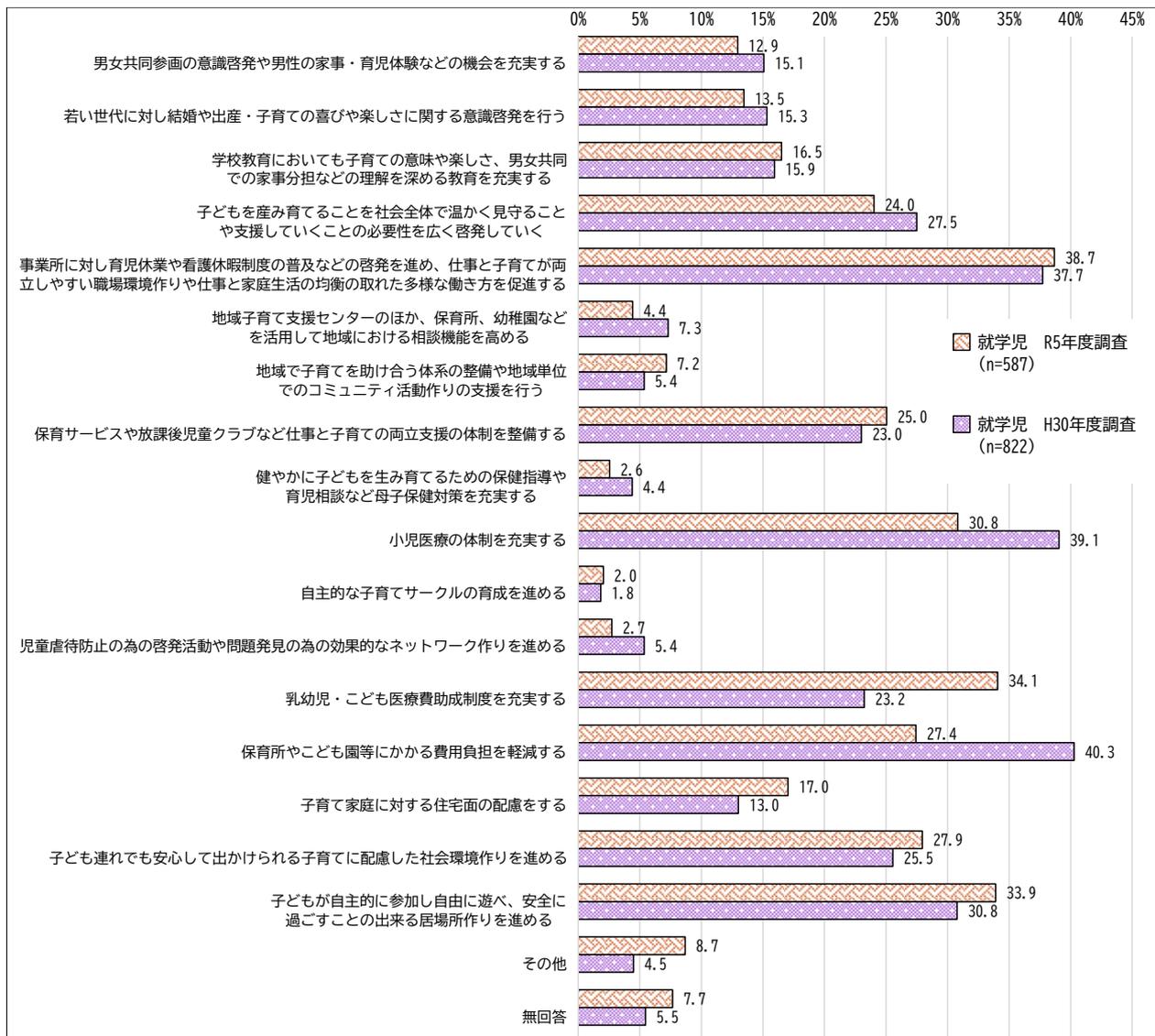
○前回調査との比較をみると、「小児医療の体制を充実する」「保育所やこども園等にかかる費用負担を軽減する」が10ポイント前後低くなっています。



◆就学児

○就学児では「事業所に対し育児休業や看護休暇制度の普及などの啓発を進め、仕事と子育てが両立しやすい職場環境作りや仕事と家庭生活の均衡の取れた多様な働き方を促進する」が38.7%と最も高く、次いで「乳幼児・こども医療費助成制度を充実する」34.1%、「子どもが自主的に参加し自由に遊べ、安全に過ごすことの出来る居場所作りを進める」33.9%となっています。

○前回調査との比較では、「乳幼児・こども医療費助成制度を充実する」が高く、「保育所やこども園等にかかる費用負担を軽減する」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

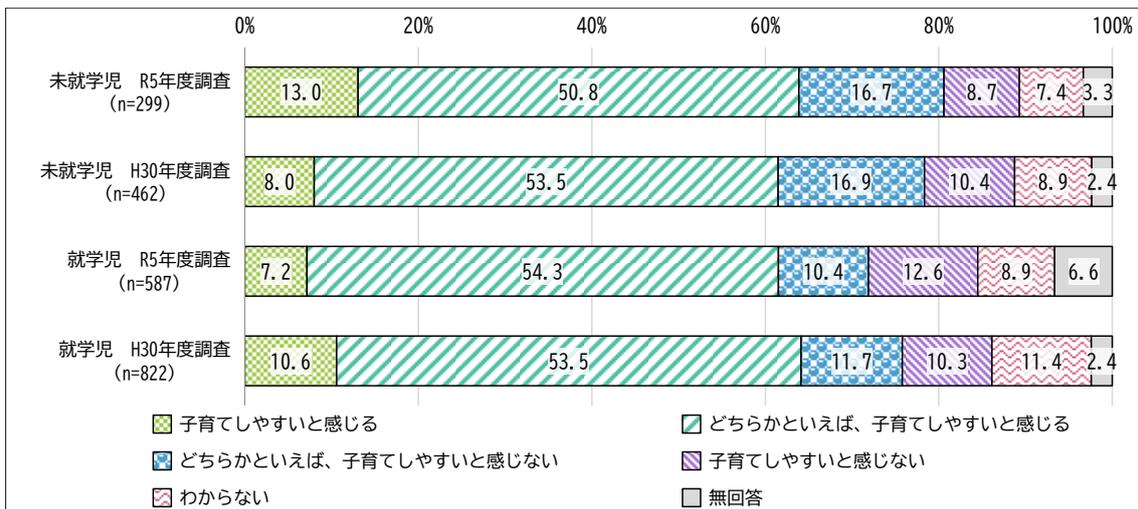


15. 子育てのしやすさ満足度などについて

問38 本市では、地域社会全体で子どもの育成と子育て家庭の支援に取り組んでいますが、あなたは、本市は子育てがしやすいまちだと感じますか。(単数回答)

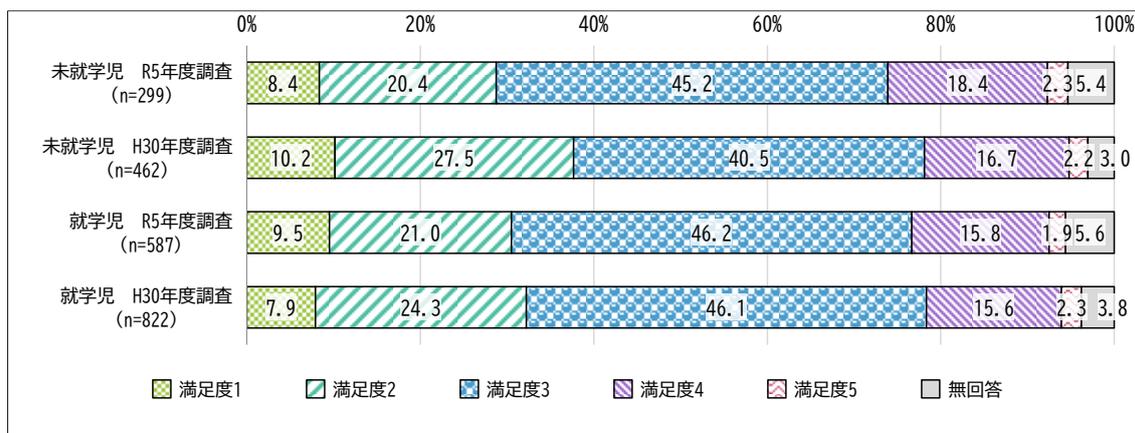
○未就学児及び就学児ともに「どちらかといえば、子育てしやすいと感じる」(未就学児：50.8%、就学児：54.3%)が最も高く、次いで高い割合が未就学児では「どちらかといえば、子育てしやすいと感じない」16.7%、就学児では「子育てしやすいと感じない」12.6%となっています。

○壱岐市が子育てしやすいまちと感じるかについては、未就学児及び就学児ともに「子育てしやすいと感じる：子育てしやすいと感じる+どちらかといえば、子育てしやすいと感じる」が6割を超えています。



問39 本市における子育ての環境や支援への満足度についてお聞きします。
(単数回答)

- 未就学児及び就学児ともに「満足度3」(未就学児：45.2%、就学児：46.2%)が最も高く、次いで「満足度2」(未就学児：20.4%、就学児：21.0%)、「満足度4」(未就学児：18.4%、就学児：15.8%)となっています。
- 壱岐市の子育ての環境や支援への満足度については、「満足している：満足度4＋満足度5」は2割前後、「あまり満足していない：満足度1＋満足度2」が3割前後となっています。



第3章 事業所者調査結果

1. 事業の実施について

問1 施設の定員数および利用児童数について、現状及び今後の予定をご記入ください。

○各施設の定員数及び利用児童数、今後の予定については以下の通りです。
(16 施設回答)

【現在】令和5年5月1日現在

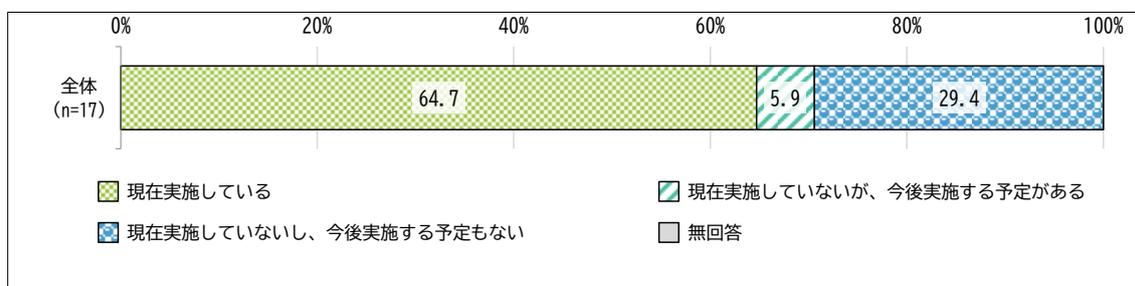
No	人数	0歳	1歳	2歳	3～5歳	2号認定 児童数
1	定員				70	
	利用児童数				20	20
2	定員	5	7	7		
	利用児童数	2	8	4		
3	定員	6	7	6		
	利用児童数	1	10	7		
4	定員	6	6	7	0	0
	利用児童数	8	10	0	0	0
5	定員	3	3	13	0	0
	利用児童数	0	3	11	8	8
6	定員				70	
	利用児童数				16	
7	定員	12	24	24	70	70
	利用児童数	11	15	27	91	91
8	定員	0	0	0	70	
	利用児童数				19	19
9	定員	0	12	12	36	36
	利用児童数	0	5	4	21	30
10	定員	8	13	19	30	30
	利用児童数	1	14	13	17	17
11	定員				35	
	利用児童数				9	9
12	定員				190	
	利用児童数				54	45
13	定員	6	5		100	70
	利用児童数	6	25	24	94	91
14	定員	6	12	12	12	20
	利用児童数	6	12	12	28	58
15	定員				70	
	利用児童数				17	17
16	定員				70	
	利用児童数				13	13

【計画（予定）】

No	年度	0歳	1歳	2歳	3～5歳	2号認定 児童数
1	令和6年～令和10年				70	
2	令和6年～令和10年	5	7	7		
3	令和6年	0	5	10		
4	令和6年	4	11	2	0	0
	令和7年	6	6	7	0	0
	令和8年～令和10年	10	11	11	48	33
5	令和6年	0	0	12	10	10
	令和7年	0	0	10	12	12
	令和8年～令和10年	10	11	11	48	33
6	令和6年～令和10年				70	
7	令和6年～令和10年	12	24	24	70	70
8	令和6年～令和10年	0	0	0	70	
9	令和6年～令和10年	0	12	12	36	36
10	令和6年～令和10年	8	13	19	30	30
11	令和6年				35	
12	令和6年～令和10年				190	45
13	令和6年～令和10年	9	15	36	100	95
14	令和6年～令和9年	6	12	12	20	50
15	令和6年				19	19
	令和7年				13	
16	令和6年～令和10年				70	

問2 平日における一時預かり（預かり保育）を現在実施していますか。現在実施していない場合、今後実施する予定がありますか。（単数回答）

○「現在実施している」が64.7%と最も高く、次いで「現在実施していないし、今後実施する予定もない」29.4%、「現在実施していないが、今後実施する予定がある」5.9%となっています。



問2で「1. 現在実施している」もしくは「2. 現在実施していないが、今後実施する予定がある」と回答した施設に対して、おたずねします。

問2-1 平日における一時預かり（預かり保育）について、対応可能と考える1日あたりの児童数について、ご記入ください。

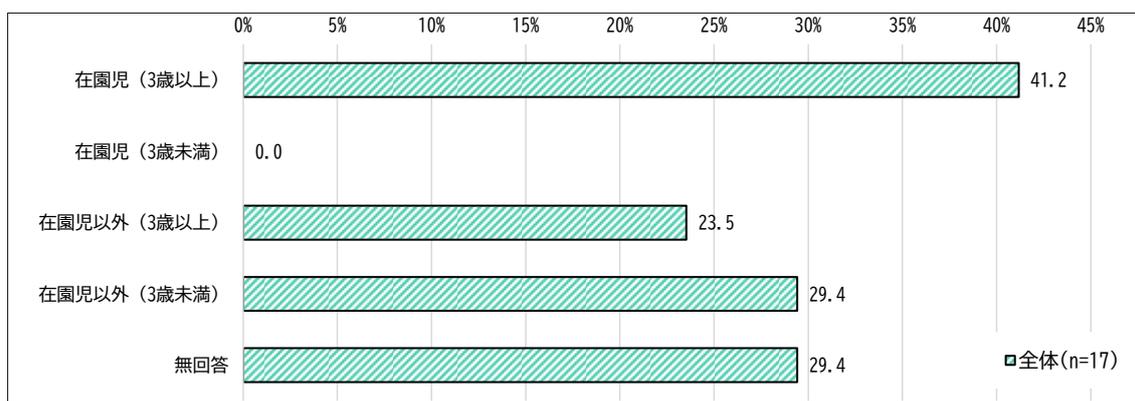
○平日に対応可能と考える1日あたりの児童数については以下の通りです。
(10施設回答)

対応可能児童数/1日

No	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1					30
2		3	3	3	3
3	3	3	3	3	3
4				20	20
5				1	1
6	2		3	3	3
7	20	20	20	15	15
8					15
9	5	5	5	5	5
10	25	25	25	25	25

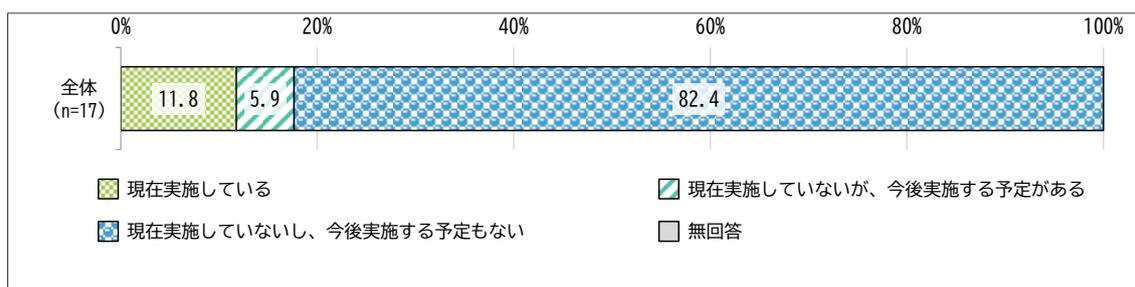
問2-2 平日における一時預かり（預かり保育）の対象児童について、当てはまるものをお選びください。（複数回答）

○「在園児（3歳以上）」が41.2%と最も高く、次いで「在園児以外（3歳未満）」29.4%、「在園児以外（3歳以上）」23.5%となっています。



問3 貴施設では、時間外保育事業（延長保育事業）を実施していますか。（単数回答）

○「現在実施していないし、今後実施する予定もない」が82.4%と最も高く、次いで「現在実施している」11.8%、「現在実施していないが、今後実施する予定がある」5.9%となっています。

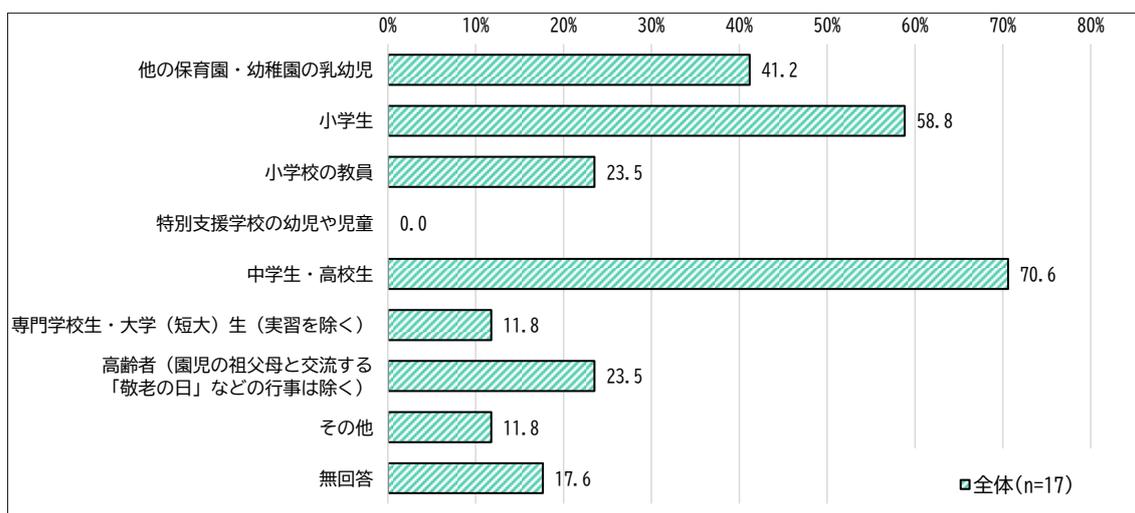


問4 令和6年度までの期間において、新規事業の実施等に関して、検討していることがあれば、お書きください。（自由記述）

新規事業等の検討について
3年後（前後）に認定こども園化を目指している。芦辺町にて。
保育士の確保ができれば一時預かりも考えていきたい。

問5 貴園の園児は、次にあげる園外の人たちと計画的に交流活動をしたことがありますか。(複数回答)

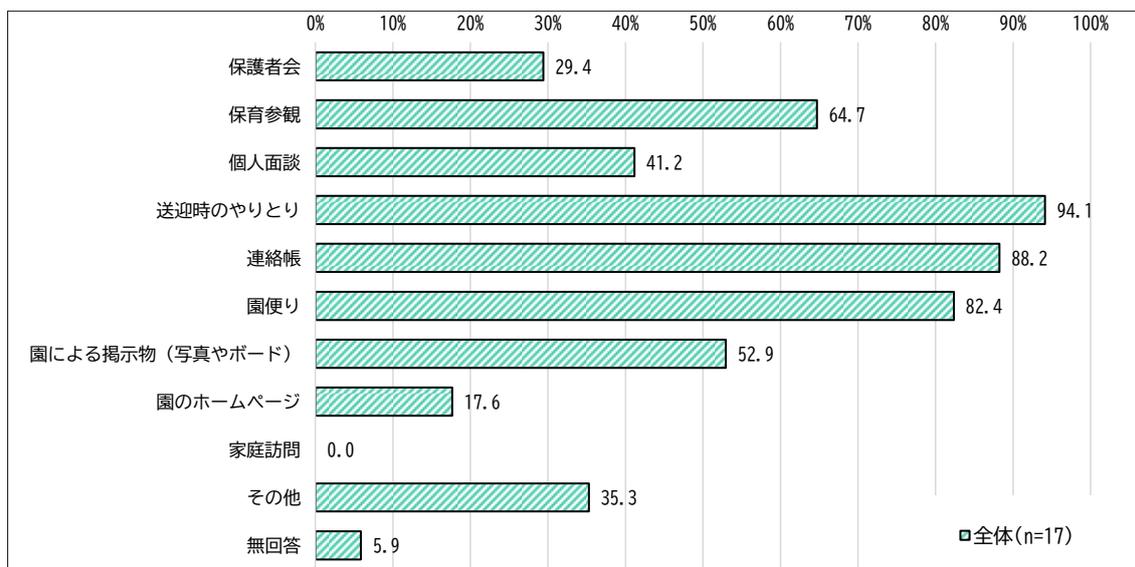
○「中学生・高校生」が70.6%と最も高く、次いで「小学生」58.8%、「他の保育園・幼稚園の乳幼児」41.2%となっています。



その他	
ヘルスメイトさん	地域サロンの方

問6 貴園では、園の情報や園児の様子をどのような方法で保護者に伝えていきますか。
(複数回答)

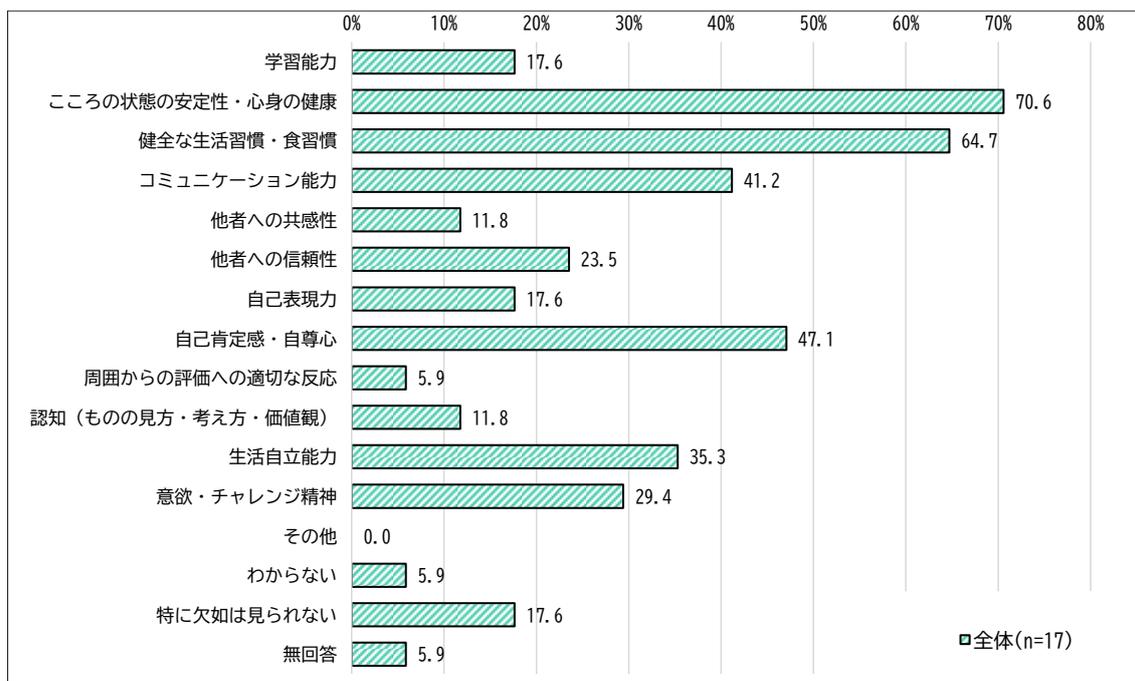
○「送迎時のやりとり」が 94.1%と最も高く、次いで「連絡帳」88.2%、「園便り」82.4%となっています。



その他	
クラス便り	SNS、LINE
コドモンのアプリ	ICT システム

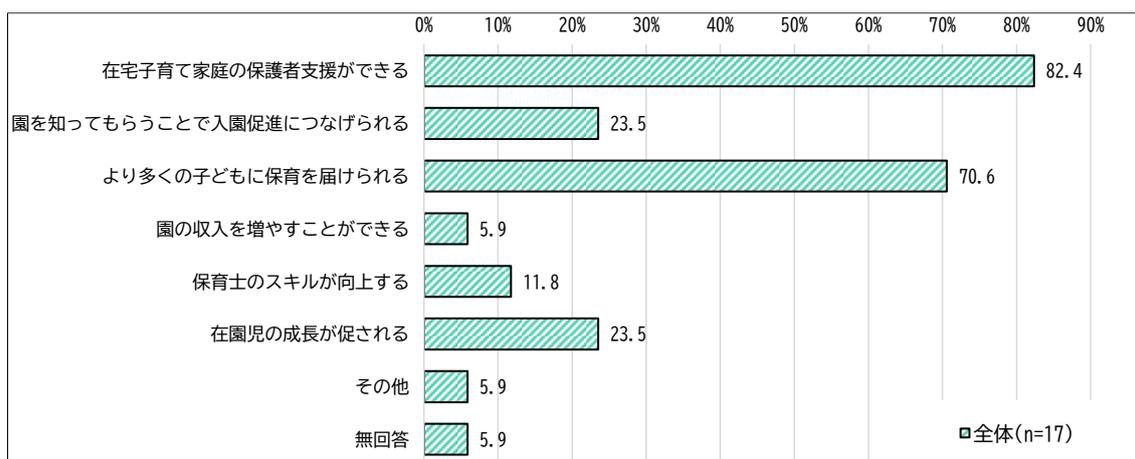
問7 経済的若しくは精神的貧困にあると思われる子どもは、どのような課題が見られると思いますか。(複数回答)

○「こころの状態の安定性・心身の健康」が70.6%と最も高く、次いで「健全な生活習慣・食習慣」64.7%、「自己肯定感・自尊心」47.1%となっています。



問8 国が検討している「こども誰でも通園制度（仮称）」についてうかがいます。制度が実施された場合に、期待できることはどのようなことですか。（複数回答）

○「在宅子育て家庭の保護者支援ができる」が82.4%と最も高く、次いで「より多くの子どもに保育を届けられる」70.6%、「園を知ってもらうことで入園促進につなげられる」「在園児の成長が促される」がともに23.5%となっています。

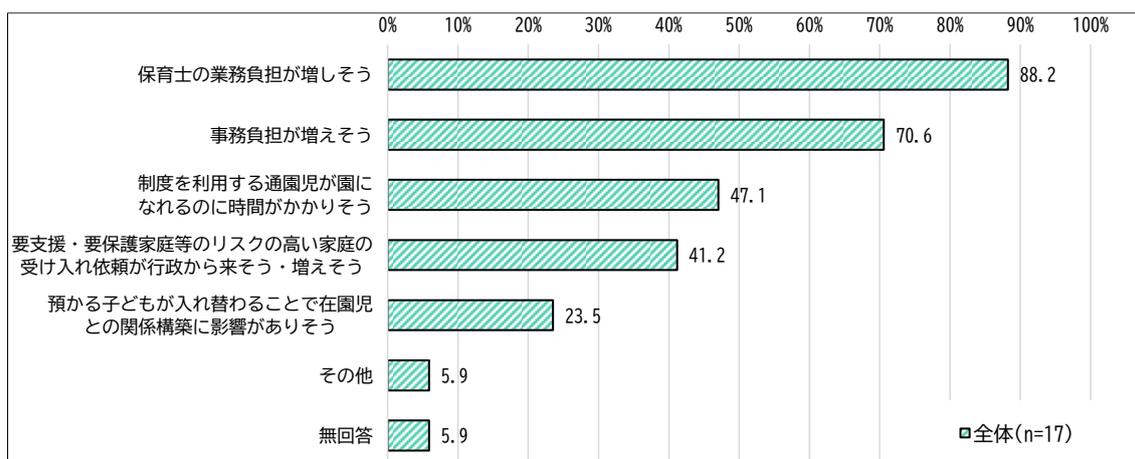


その他

家庭で一人遊びをしている子どもは、友達とかかわって遊ぶことを経験できる。

問9 国が検討している「こども誰でも通園制度（仮称）」についてうかがいます。制度が実施された場合に、不安に感じることはどのようなことですか。（複数回答）

○「保育士の業務負担が増しそう」が88.2%と最も高く、次いで「事務負担が増えそう」70.6%、「制度を利用する通園児が園になれるのに時間がかかりそう」47.1%となっています。



その他
親が子育てする機会を奪い、親子で育ち合うことが難しくなる。
給食制度のある保育所へ通う子が増え、幼稚園の園児数が減少するのではないか。子どもにとって小さいうちから（0才、1才、2才）親から離され、預けられることが、本当に子どもにとってよいことなのか。

問10 国が検討している「こども誰でも通園制度（仮称）」についてうかがいます。
制度の実施に関して、ご意見等がございましたら、自由にご記入ください。
（自由記述）

「こども誰でも通園制度（仮称）」の実施について
対象は保育所や幼稚園に通わない未就園児で、年齢は生後6ヶ月～2歳に限定されているので、保育士の数が増やさないといけなくなる小規模の保育所では対応が厳しい。子ども1人当たり月10時間までの利用とし、どの保育所でも適切に対応できるように、子どものアレルギーなどの情報を把握できるシステムをつくる事が求められると民間では厳しい。子どもが複数の保育所を利用する可能性があるため、保護者が子のアレルギーなどの健康状態やかかりつけ医、託児経験などをシステムに登録し、各保育所に提供できる仕組みを新たにつくる必要が出てくる。
こども1人1人が等しく良質な保育をうけてほしい。賛同しています。
今現在実施している一時預かり制度を含め、「こども誰でも通園制度」においても、たまにしか利用せず、慣れない環境で生活することなので子どもにとってはとても不安だと思う。この心情と向き合うには慣れるまでの1対1の温かく丁寧なかかわりが必要であり、保育士の十分な配置が理想であると思う。また、最初は親子で通い場所に慣れる→保育士との信頼関係を築くことができたり、少数の在園児とのかかわりから交流を進めていったりするなど、段階的な配慮が必要だと思う。
現在実施している一時預かりの制度との違いが分からない部分があります。また、たまにしか来ない子どもは、環境に慣れず、職員が1人その子にかかりっきりになります。一時預かりとは別に、この制度が導入された時、現場がまわるのか心配はあります。
制度がスタートする前にしっかり保育環境の改善や人員増が必要。一時預かりのように定期的な利用とならないので、園になれない子に専任で担当する職員が必要になると思われる。
未満児対象や時間単位での利用ができる点など、一時預かり制度と違っている点がありますが、利用枠や利用料、それにかかわる記録等が繁雑になるのではないかと思われます。事業に対する職員の配置があるとよいのでしょうか。
親にとって、子どもにとって、本当に大切なことは何なのかを社会や親のニーズだけでなく、保育現場の者やいろいろな人の意見や考えを聞いて進めてほしい。
保護者の支援も重要だと思うが、それに伴った教育、保育現場の支援もしてほしい。

問11 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関して意見がございましたら、自由にご記入ください。(自由記述)

子育ての環境や支援について
壱岐市の少子化対策に関する課題やビジョン策定を行うには、壱岐市の実情を客観的に把握するためのデータ（例えば、結婚・出産・子育てにまつわるデータや就労・所得状況などの周辺データ、若年層や子育て世代の流入に関するデータ等）を揃えることが、まず必要である。その上で、壱岐市の実態や取組の進捗・成果に関するデータを統合・整理し課題に関するデータをわかりやすく共有しながら、例えば「結婚して子どもが欲しいと思っているが何々がネックとなってできない人」など取組のターゲットとする市民を具体化するなどして、サービスデザインの考え方を持ちながら課題の具体化やビジョンの策定を進めることが重要である。体制構築から企画の立案、そして事業の実践まで継続して持ち続けること、地域評価ツールの活用等により、様々な分野に視野を広げ、データや主観調査による仮設の設定と検証を繰り返しながら、根拠を持った達成したいビジョンの構築に繋げていく事が、壱岐市の今後の課題であり必要性が必須である。
島内だけにとどまらず島外からの移住者も安心して子育てのできる環境づくりの1つとして、認定子ども園化を考えています。市と協力して実現したいと考えております。
保育を行う上で人的環境はとても重要だと考える。子どもの思いを十分に受け止めることができるギスギスしない人員配慮が必要。また、職員1人1人の資質向上の為、時間外ではない研修時間の確保が必要だと思う。支援については、各専門機関とのスムーズな連携、定期的な共通理解を深めていくことが支援体制の強化につながるのではないかなと思う。
幼稚園の園児数が減少し、集団での育ちが難しくなっている。統合すべきである。職員（主任・担任）がその業務に専念できるよう、事務職員・用務員を配置すべきである。
家庭での子育てのサポートを行うことで家庭の教育力を支援することや仕事をされている方が子育てしやすい職場環境と就労補償がある働き方への支援等、保護者の子育てを支えることが子どもの幸せにつながるのではないかなと考えます。
経済優先ばかりでなく、人が幸福になるためには、何が必要で、そのためにはどうすればいいのかを考えて支援してほしい。